

CX 2320.91  
△

72-60

法令全書

詔書

朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治四十三年四月十六日ヲ以テ貴族院子爵議員一  
名闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

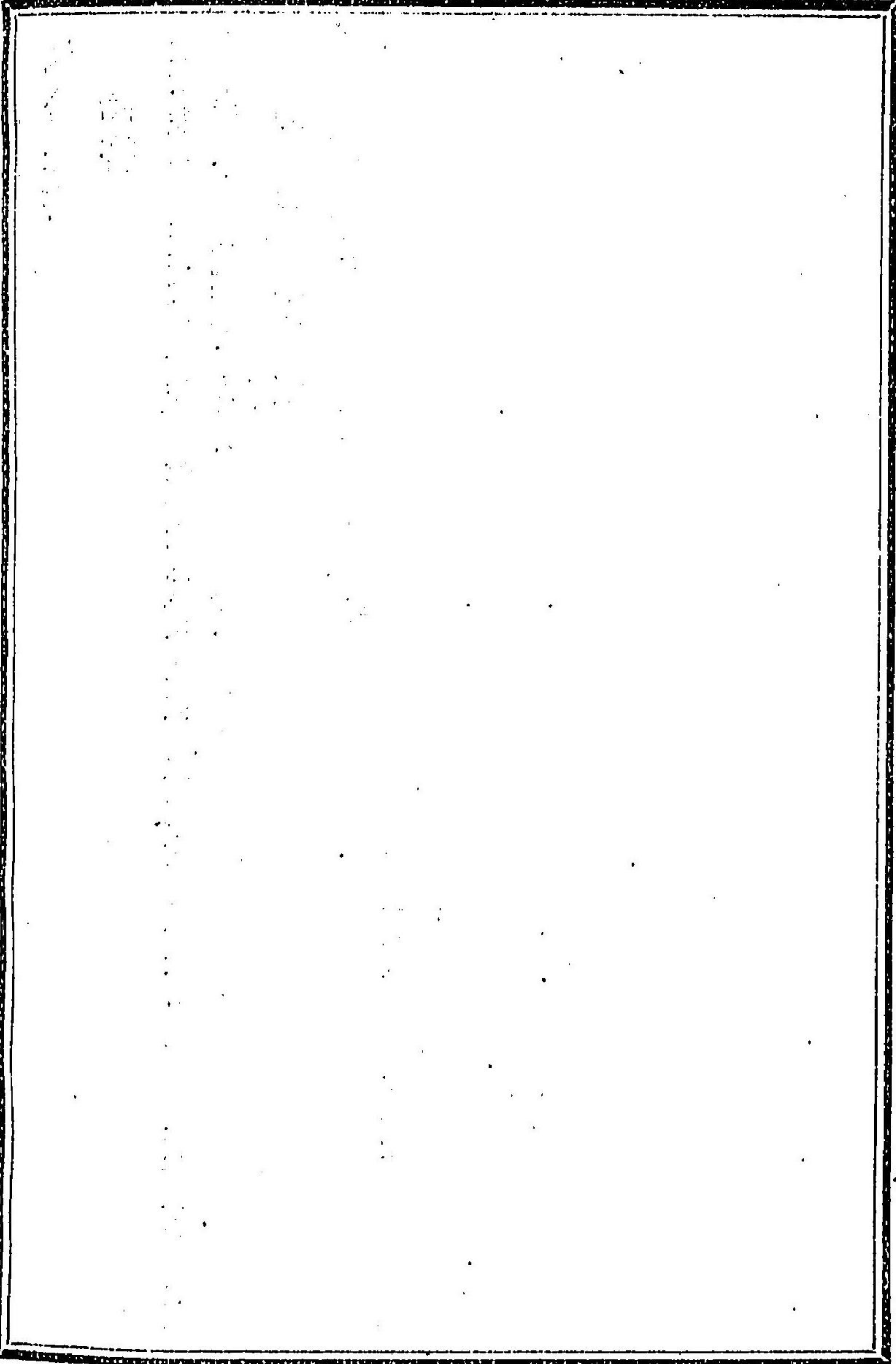
御名 御璽

明治四十三年二月十四日(官報二月十四日)



内閣總理大臣 侯爵桂太郎

明治四十三年二月 詔書

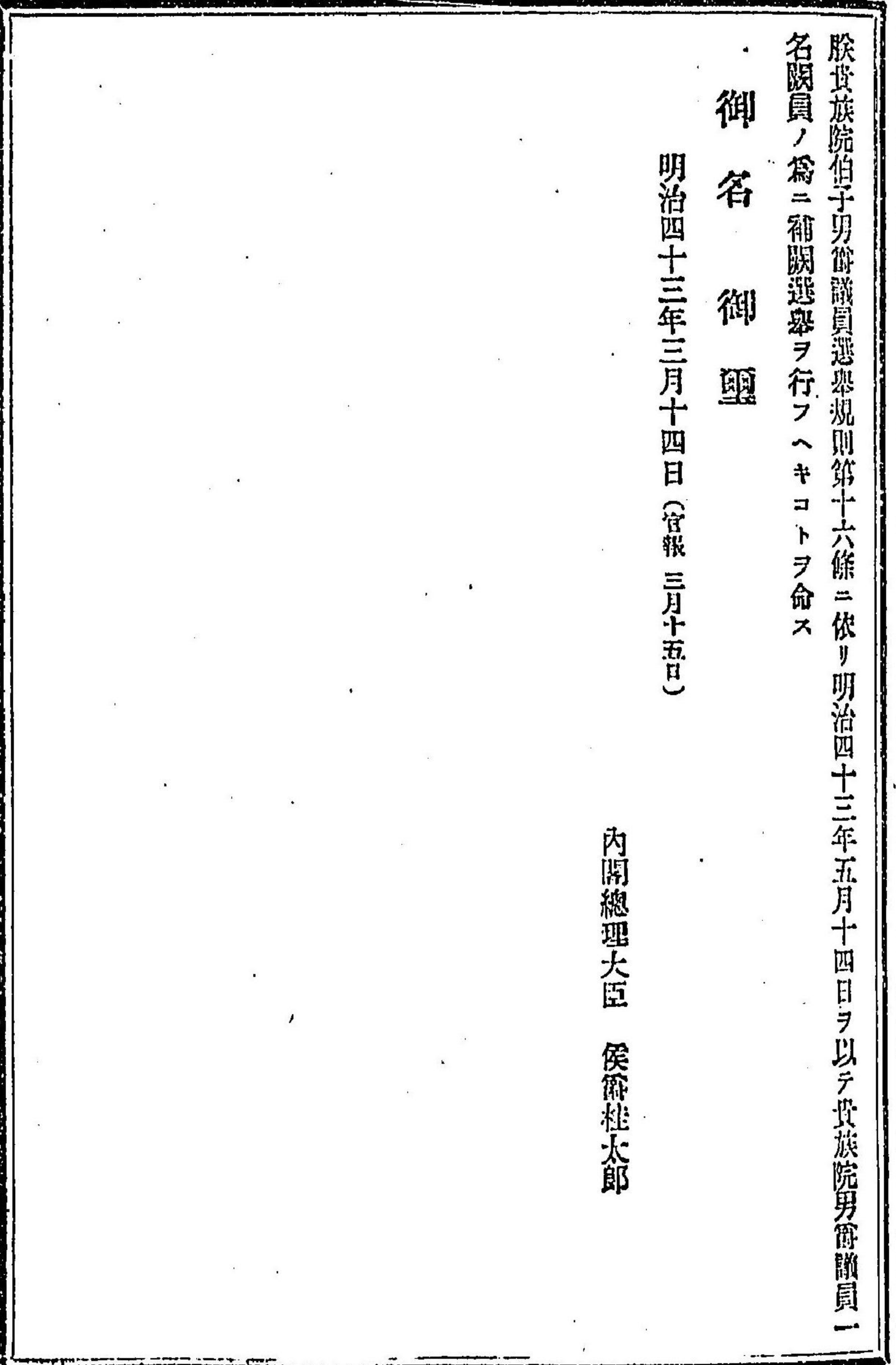


朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治四十三年五月十四日ヲ以テ貴族院男爵議員一  
名闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治四十三年三月十四日(官報 三月十五日)

内閣總理大臣 侯爵桂太郎



朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治四十三年六月二十五日ヲ以テ貴族院男爵議員  
一名闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治四十三年四月十五日(官報四月十六日)

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治四十三年八月二十日ヲ以テ貴族院子爵議員一

名闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治四十三年六月十七日(官報六月十八日)

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治四十三年八月二十七日ヲ以テ貴族院男爵議員

一名闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治四十三年六月二十一日(官報六月二十二日)

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治四十三年十月一日ヲ以テ貴族院子爵議員一名  
闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治四十三年七月三十日(官報 八月一日)

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治四十三年十月二十九日ヲ以テ貴族院子爵議員  
一名闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治四十三年八月十八日(官報 八月十九日)

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

朕東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持シ帝國ノ安全ヲ將來ニ保障スルノ必要ナルヲ念ヒ又常ニ韓國カ禍亂ノ  
淵源タルニ願ミ爰ニ朕ノ政府ヲシテ韓國政府ト協定セシメ韓國ヲ帝國ノ保護ノ下ニ置キ以テ禍源  
ヲ杜絶シ平和ヲ確保セムコトヲ期セリ  
爾來時ヲ經ルコト四年有餘其ノ間朕ノ政府ハ銳意韓國施政ノ改善ニ努メ其ノ成績亦見ルヘキモノ  
アリト雖韓國ノ現制ハ尙未ダ治安ノ保持ヲ完スルニ足ラス疑懼ノ念毎ニ國內ニ充溢シ民共ノ堵ニ  
安セス公共ノ安寧ヲ維持シ民衆ノ福利ヲ増進セムカ爲ニハ革新ヲ現制ニ加フルノ避ク可ラサルコ  
ト瞭然タルニ至レリ

朕ハ韓國皇帝陛下ト與ニ此ノ事態ニ鑑ミ韓國ヲ舉テ日本帝國ニ併合シテ時勢ノ要求ニ應スルノ已ムヲ得サルモノアルヲ念ヒ茲ニ永久ニ韓國ヲ帝國ニ併合スルコトトナセリ  
韓國皇帝陛下及其ノ皇室各員ハ併合ノ後ト雖相當ノ優遇ヲ受クヘク民衆ハ直接朕カ綏撫ノ下ニ立チテ其ノ康福ヲ増進スヘク産業及貿易ハ治平ノ下ニ顯著ナル發達ヲ見ルニ至ルヘシテ東洋ノ平和ハ之ニ依リテ愈々其ノ基礎ヲ鞏固ニスヘキハ朕ノ信ニテ疑ハサル所ナリ  
朕ハ特ニ朝鮮總督ヲ置キ之ヲ朕ノ命ヲ承ケテ陸海軍ヲ統率シ諸般ノ政務ヲ總轄セシム百官有司克ク朕ノ意ヲ體レテ事ニ從ヒ施設ノ緩急其ノ宜キヲ得以テ衆庶ヲシテ永ク治平ノ慶ニ賴ラシムルコトヲ期セヨ

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

- 内閣總理大臣兼 侯爵桂 太郎
- 大藏大臣 子爵寺内 正毅
- 陸軍大臣 伯爵小村 壽太郎
- 外務大臣 伯爵齋藤 實
- 海軍大臣 伯爵平 田東助
- 内務大臣 男爵後藤 新平
- 逓信大臣 小松原英太郎
- 農商務大臣
- 文部大臣
- 司法大臣 子爵岡部 長職

朕天壤無窮ノ丕基ヲ弘クシ國家非常ノ禮敬ヲ備ヘムト欲シ前韓國皇帝ヲ册シテ王ト爲レ昌德宮李王ト稱シ嗣後此ノ隆錫ヲ世襲シテ以テ其ノ宗祀ヲ奉セシメ皇太子及將來ノ世嗣ヲ王世子トシ太皇帝ヲ太王ト爲シ德壽宮李王ト稱シ各其ノ僮匹ヲ王妃太王妃又ハ王世子妃トシ竝ニ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ特ニ殿下ノ敬稱ヲ用井シム世家率循ノ道ニ至リテハ朕ハ當ニ別ニ其ノ軌儀ヲ定メ李家ノ子孫ヲシテ奕葉之ニ賴リ福履ヲ増綏シ永ク休祉ヲ享ケシムヘシ茲ニ有衆ニ宣示シ用テ殊典ヲ昭ニス

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

- 宮内大臣 子爵渡邊 千秋
- 内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

朕惟フニ李瓘及李璣ハ李王ノ懿親ニシテ令問夙ニ彰ハレ權域ノ瞻望タリ宜ク殊遇ヲ加錫シ其ノ儀稱ヲ豐ニスヘシ茲ニ特ニ公ト爲シ其ノ配匹ヲ公妃トシ竝ニ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ殿下ノ敬稱ヲ用井シメ子孫ヲシテ此ノ榮錫ヲ世襲シ永ク寵光ヲ享ケシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

朕惟フニ統治ノ大權ニ由リ茲ニ始テ治化ヲ朝鮮ニ施クハ朕カ蕃黎ヲ綏撫シ赤子ヲ體卹スルノ意ヲ昭示スルヨリ先ナルハナシ乃別ニ定ムル所ニ依リ朝鮮ニ於ケル舊刑所犯ノ罪囚中情狀ノ憫誼スヘキ者ニ對シテ特ニ大赦ヲ行ヒ積年ノ逋租及今年ノ租稅ハ之ヲ減免シ以テ朕カ軫念スル所ヲ知悉セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

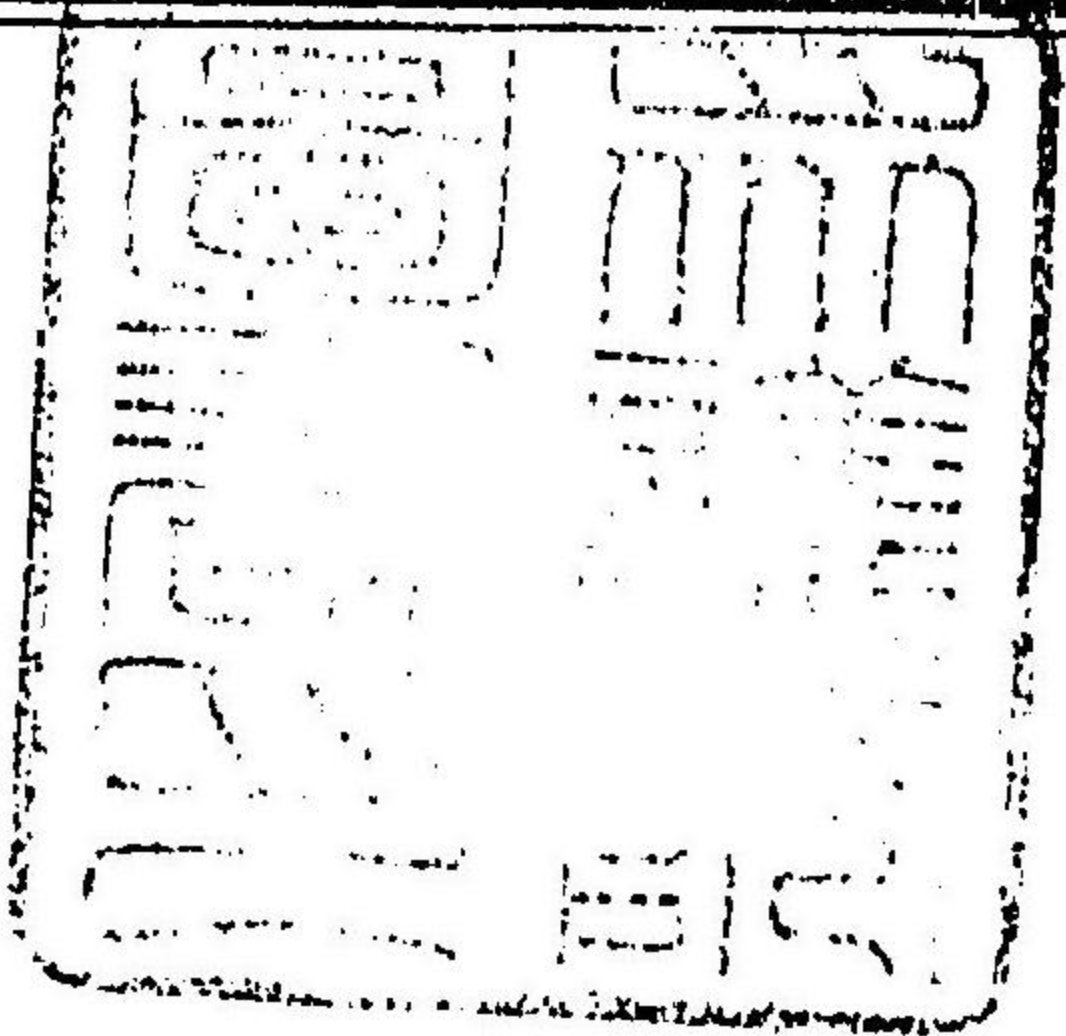
- 内閣總理大臣兼大藏大臣 侯爵桂 太郎
- 陸軍大臣 子爵寺内正毅
- 外務大臣 伯爵小村壽太郎
- 海軍大臣 男爵齋藤 實
- 内務大臣 男爵平田 東助
- 逓信大臣 男爵後藤 新平
- 文部大臣 小松原英太郎
- 農商務大臣 子爵岡部長 職
- 司法大臣 子爵岡部長 職

朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治四十三年十二月二十四日ヲ以テ貴族院男爵議員一名闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治四十三年十月二十九日 (官報十月三十一日)

内閣總理大臣 侯爵桂太郎



朕帝國憲法第七條及第四十一條ニ依リ本年十二月二十日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス

御名 御璽

明治四十三年十一月五日(會報十一月七日)

內閣總理大臣兼	侯爵桂	太郎
陸軍大臣	子爵寺內	正毅
外務大臣	伯爵小村	壽太郎
海軍大臣	男爵齋藤	實
內務大臣	法學博士男爵田	東助
農商務大臣	男爵大浦	兼武
逓信大臣	男爵後藤	新平
文部大臣	小松原英	太郎
司法大臣	子爵岡部	長職



朕帝國憲法第七條及議院法第五條ニ依リ十二月二十三日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命ス

御名 御璽

明治四十三年十二月二十日

内閣總理大臣兼 大藏大臣	侯爵桂 太郎
陸軍大臣	子爵寺内正毅
外務大臣	伯爵小村壽太郎
海軍大臣	男爵齋藤 實
内務大臣	法學博士男爵平田東助
農商務大臣	男爵大浦兼武
逓信大臣	男爵後藤新平
文部大臣	小松原英太郎
司法大臣	子爵岡部長職

法令全書

皇室令

朕宮内官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年二月十六日

宮内大臣 公篠岩倉具定

皇室令第一號(官報二月十七日)

宮内官官等俸給令中左ノ通改正ス

第三條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ學位ヲ有スル者ヲ高等官ニ任用スル場合ニ限り初任ハ五等以下トスルコトヲ得

同條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ學位ヲ有スル者ニ限り前官ハ六等以下ナルトキハ陞シテ五等ニ至ラシムルコトヲ妨ケス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

皇室令第十三號宮内官官等俸給令(明治四十年十一月一日官報)抄録  
第三條 高等官ノ初任ハ六等以下トシ判任官ノ初任ハ三等以下トス

明治四十三年二月 皇室令 第一號

他官職より轉任スル場合ニ於テハ其ノ官等ハ高等官ニ在リテハ前官ノ官等ニ依リ判任官ニ在リテハ前官ノ依給及在職年數ヲ參酌シテ之ヲ定ム但シ高等官ニ在リテハ前官官等ニ在職年數滿二年ヲ踰エタル者ハ一等ヲ陞スコトヲ得前官高等官七等以下ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス陞シテ高等官六等ニ至ラシムルコトヲ得前二項ノ規定ハ退官者ヲ任用スル場合ニ之ヲ適用ス

朕皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇族身位令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月三日

宮内大臣 公爵岩倉具定

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

陸軍大臣 子爵寺内正毅

海軍大臣 男爵齋藤實

司法大臣 子爵岡部長職

皇室令第二號

皇族身位令

第一章 班位

第一條 皇族ノ班位ハ左ノ順序ニ依ル

第一 皇后

第二 大皇太后

第三 皇太后

第四 皇太子

第五 皇太子妃

第六 皇太孫

第七 皇太孫妃

第八 親王親王妃内親王王王妃女王

第二條 親王王ノ班位ハ皇位繼承ノ順序ニ從フ内親王女王ノ班位亦之ニ準ス

前項ノ規定ニ依リ同順位ニ在ル者ハ男ヲ先ニシ女ヲ後ニス

第三條 親王妃王妃ノ班位ハ夫ニ次ク内親王女王ニシテ親王妃王妃タル者亦同シ

第四條 故皇太子ノ妃ノ班位ハ皇太子妃ニ次キ故皇太孫ノ妃ノ班位ハ皇太孫妃ニ次ク

親王王ノ寡妃ノ班位ハ舊ニ依ル

第五條 攝政タル親王内親王女王ノ班位ハ皇太孫妃ニ次キ故皇太孫ノ妃アルトキハ之ニ次ク

第六條 皇太子皇太孫皇位繼承ノ順序ヲ換ヘラレタルトキハ其ノ班位ハ皇太孫妃ニ次キ故皇太孫

ノ妃アルトキハ之ニ次キ攝政タル親王内親王女王アルトキハ又之ニ次ク

親王王皇位繼承ノ順序ヲ換ヘラレタルトキハ其ノ班位ハ舊ニ依ル

第七條 從來ノ宣下親王ハ其ノ宣下セラレタル順序ニ依リ王ノ上ニ列ス

第二章 敘勳任官

第八條 皇后ハ大婚ノ約成リタルトキ勳一等ニ敘シ寶冠章ヲ賜フ

第九條 皇太子皇太孫ハ滿七年ニ達シタル後大勳位ニ敘シ菊花大綬章ヲ賜フ

第十條 皇太子妃皇太孫妃ハ結婚ノ約成リタルトキ勳一等ニ敘シ寶冠章ヲ賜フ

第十一條 親王ハ滿十五年ニ達シタル後大勳位ニ敘シ菊花大綬章ヲ賜フ

第十二條 親王妃ハ結婚ノ禮ヲ行フ當日勳一等ニ敘シ寶冠章ヲ賜フ

第十三條 内親王ハ滿十五年ニ達シタル後勳一等ニ敘シ寶冠章ヲ賜フ

第十四條 王ハ滿十五年ニ達シタル後勳一等ニ敘シ旭日桐花大綬章ヲ賜フ

第十五條 王妃ハ結婚ノ禮ヲ行フ當日勳二等ニ敘シ寶冠章ヲ賜フ

第十六條 女王ハ滿十五年ニ達シタル後勳二等ニ敘シ寶冠章ヲ賜フ

第十七條 皇太子皇太孫ハ滿十年ニ達シタル後陸軍及海軍ノ武官ニ任ス

親王王ハ滿十八年ニ達シタル後特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外陸軍又ハ海軍ノ武官ニ任ス

第十八條 天皇支系ヨリ入テ大統領ヲ承クルトキハ前條ノ規定ニ準シ敘勳任官ヲ行フ

第十九條 前條ニ定メタルモノ及特旨ニ依ルモノノ外勳章記章及文武官ニ關スル法令ハ皇族ニ

モ亦之ヲ適用ス

第三章 失踪

第二十條 戰時事變其ノ他ノ場合ニ於テ皇族ノ生死不明ナルトキハ勅旨ヲ以テ其ノ財産ノ管理ニ

付キ必要ナル處分ヲ命スヘシ

第二十一條 皇族ノ生死不明ナルコト三年ニ亙ルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ勅旨ヲ以テ

失踪ヲ宣告スヘシ

第二十二條 失踪ノ宣告ヲ受ケタル皇族ハ前條ノ期間滿了ノ時ニ薨去シタルモノト看做ス

第二十三條 失踪ノ宣告アリタル後生死ノ事實分明トナリタルトキハ勅旨ヲ以テ其ノ宣告ヲ取消

スヘシ但シ其ノ取消ハ失踪ノ宣告ニ基ツキタル事項及行爲ニ其ノ效力ヲ及ボサス

第二十四條 失踪ノ宣告及其ノ宣告ノ取消ハ勅書ヲ以テシ且宮内大臣之ヲ公告ス

第四章 降下

第二十五條 皇室典範増補第一條ノ規定ニ依ル情願ヲ爲スニハ王滿十五年以上タルコトヲ要ス。  
第二十六條 皇室典範増補第一條ノ規定ニ依リ華族ニ列セラレタル者ハ一家ヲ創立ス同第四條ノ規定ニ依リ臣籍ニ降サレタル者亦同シ

第二十七條 皇室典範増補第一條ノ規定ニ依リ華族ニ列セラレタル者ニハ世襲財産ヲ賜フコトアルヘシ

第二十八條 皇室典範増補第二條ノ規定ニ依リ王華族ノ家督相續人トナルニハ家督相續人トシテ指定又ハ選定アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三箇月内ニ勅許ヲ受クヘシ  
前項ノ規定ニ依リ勅許ヲ受ケタルトキハ相續ノ單純承認ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十九條 前條第一項ノ期間内ニ勅許ヲ受ケサルトキハ家督相續人トシテノ指定又ハ選定ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十條 皇室典範増補第一條及第二條ノ場合ニ於テ王未成年ナルトキハ情願ヲ爲シ又ハ勅許ヲ請フニ先タチ親權ヲ行フ父ノ同意ヲ受クヘシ

親權ヲ行フ父ナキトキハ其ノ後見人及親族會ノ同意ヲ受クヘシ

第三十一條 皇室典範増補第二條ノ規定ニ依リ華族ノ家督相續人トナルニ當リ王十五年未滿ナルトキハ親權ヲ行フ父代リテ勅許ヲ請フコトヲ得

親權ヲ行フ父ナキトキハ其ノ後見人ニ於テ親族會ノ同意ヲ得テ勅許ヲ請フコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ第二十八條第一項ノ期間ハ親權ヲ行フ父又ハ後見人指定又ハ選定アリタルコトヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第三十二條 皇室典範増補第二條ノ規定ニ依リ華族ノ養子トナルニ當リ王十五年未滿ナルトキ其

ノ勅許ヲ請ヒ且縁組ノ承諾ヲ爲スニハ前條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十三條 皇室典範増補第二條ノ規定ニ依ル養子縁組ハ勅許ナキトキハ之ヲ無効トス

第三十四條 臣籍ヨリ入リタル妃其ノ夫ヲ亡ヒタルトキハ情願ニ依リ勅許ヲ經テ實家ニ復籍スルコトヲ得

第三十五條 皇室典範増補第一條乃至第三條及前條ノ規定ニ依リ臣籍ニ降下スルトキハ賢所皇靈殿神殿ニ謁シ且天皇皇后太皇太后皇太后ニ朝見ス

第五章 懲戒

第三十六條 皇族ノ懲戒ハ謹慎停權及剝權トス

第三十七條 謹慎ハ後來ヲ訓戒シ十日以上一年以下參内ヲ止ム但シ特旨ニ依リ臨時參内ヲ命セラシルコトアルヘシ

第三十八條 停權ハ一年以上五年以下皇族特權ノ一部又ハ全部ノ行使ヲ停止ス

第三十九條 剝權ハ皇族特權ノ全部ヲ剝奪ス

第四十條 皇族懲戒ヲ受ケ改悛ノ狀顯著ナルトキハ勅旨ヲ以テ其ノ懲戒ノ一部又ハ全部ヲ解除スヘシ

懲戒ノ解除ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第四十一條 停權剝權ノ懲戒及其ノ解除ニ付テハ樞密顧問官及宮内勅任官中ヨリ三名以上ノ委員ヲ勅選シ其ノ情狀ヲ審査セシメタル後皇族會議ニ諮詢ス

第四十二條 懲戒及其ノ解除ハ勅書ヲ以テス

第六章 補則

第四十三條 皇族ハ其ノ住所ヲ東京市内ニ定ムヘシ但シ必要アルトキハ勅許ヲ經テ他ニ住所ヲ定ムルコトヲ得

第四十四條 皇族ハ商工業ヲ營ミ營利ヲ目的トスル法人共ノ他ノ團體ノ社員會員又ハ役員トナルコトヲ得ス但シ株主トナルハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 皇族ハ任官ニ依ル場合ヲ除クノ外報酬ヲ受クル職ニ就クコトヲ得ス

第四十六條 皇族ハ公共團體ノ吏員又ハ職員トナルコトヲ得ス

第四十七條 皇族公益法ハ其ノ他營利ヲ目的トセサル團體ノ社員會員又ハ役員トナラムトスルトキハ勅許ヲ受クヘシ

朕皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇室親族令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月三日

宮内大臣 公爵岩倉具定

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

司法大臣 子爵岡部長職

皇室令第三號  
皇室親族令

第一章 總則

第一條 本令其ノ他ノ皇室令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外左ニ掲ケタル者ヲ以テ親族トス

一 血族

二 配偶者

三 三親等内ノ姻族

第二條 天皇又ハ皇族ト臣籍ニ在ル者トノ間ニ於テハ血族ハ六親等内ニ限リ之ヲ親族トス

第三條 庶子ハ母方ニ付テハ親子間ニ限リ之ヲ親族トス

第四條 親等ハ親族間ノ世數ヲ算シテ之ヲ定ム

傍系親ノ親等ヲ定ムルニハ其ノ一人又ハ其ノ配偶者ヨリ同始祖ニ遡リ其ノ始祖ヨリ他ノ一人ニ

下ルマテノ世數ニ依ル

第五條 姻族關係ハ離婚ニ因リテ止ム寡妃再婚ヲ爲シ又ハ臣籍ニ入りタルトキ亦同シ

第二章 婚嫁

第一節 大婚

第六條 大婚ノ禮ハ天皇滿十七年ニ達シタル後之ヲ行フ

第七條 天皇皇后ヲ立ツルハ皇族又ハ特ニ定ムル華族ノ女子滿十五年以上ニシテ直系親族又ハ三

親等内ノ傍系血族ニ非サル者ニ限ル姻族關係ノ止ミタル後亦之ニ準ス

第八條 大婚ノ約ヲ成ス當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ勅使ヲシテ神宮神武天皇山陵竝先帝先

后ノ山陵ニ奉幣セシム

第九條 大婚ノ約成リタルトキハ宮内大臣之ヲ公告ス

第十條 大婚ノ禮ヲ行フ期日ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第十一條 大婚ノ禮ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告ス  
 第十二條 大婚ノ禮ハ附式ノ定ムル所ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ  
 第十三條 立后ノ詔書ハ大婚ノ禮ヲ行フ當日之ヲ公布ス  
 第十四條 大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ皇靈殿神殿ニ謁ス  
 第十五條 大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ太皇太后皇太后ニ謁ス  
 第十六條 大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ正殿ニ御シ朝賀ヲ受ク  
 第十七條 大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ宮中ニ於テ饗宴ヲ賜フ  
 第十八條 大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ神宮神武天皇山陵竝先帝先后ノ山陵ニ謁ス  
 第十九條 諒閣中ハ大婚ノ禮ヲ行ハス

第二節 皇族婚嫁

第二十條 皇族ノ婚嫁ハ男子滿十七年女子滿十五年ニ達スルニ非サレハ之ヲ成スコトヲ得ス  
 第二十一條 皇族ノ婚嫁ハ直系親族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ之ヲ成スコトヲ得ス姻族關係ノ止ミタル後亦同シ  
 第二十二條 皇族婚嫁ノ勅許ハ其ノ約ヲ成ス前之ヲ奏請スヘシ  
 第二十三條 皇太子皇太孫親王王結婚ノ禮ハ附式ノ定ムル所ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ  
 第二十四條 皇太子皇太孫親王王結婚ノ禮訖リタルトキハ妃ト共ニ天皇皇后太皇太后皇太后ニ朝見ス  
 第二十五條 第八條乃至第十一條第十四條第十七條及第十八條ノ規定ハ皇太子皇太孫ノ結婚ニ之ヲ準用ス

第二十六條 第十條及第十四條ノ規定ハ親王ノ結婚ニ第十四條ノ規定ハ王ノ結婚ニ之ヲ準用ス  
 第二十七條 内親王女王臣籍ニ嫁スルトキハ結婚ノ禮ヲ行フ前賢所皇靈殿神殿ニ謁シ且天皇皇后太皇太后皇太后ニ朝見ス

第二十八條 皇族ノ婚嫁ハ結婚ノ禮ヲ行フ當日宮内大臣之ヲ公告ス

第二十九條 皇族ノ婚嫁ハ大喪中及直系尊屬ノ喪中ニ於テ成スコトヲ得ス

第三十條 皇族ハ止ムコトヲ得サル事故アル場合ニ限り夫婦ノ協議ニ由リ勅許ヲ經テ離婚ヲ爲スコトヲ得協議ハサルトキハ勅裁ヲ受クヘシ

第三十一條 皇族ノ離婚ハ其ノ當日宮内大臣之ヲ公告ス

第三十二條 皇族男子ニ嫁シタル皇族女子離婚ノ場合ニ於テ直系尊屬ノ臣籍ニ入り創立シタル家アルトキハ其ノ家ニ入ル

第三十三條 臣籍ヨリ入りタル妃離婚ノ場合ニ於テハ實家ニ復籍シ其ノ實家ナキトキハ一家ヲ創立ス但シ實家ヲ再興スルコトヲ妨ケス

第三十四條 皇族ノ婚嫁及離婚ハ勅許ナキトキハ之ヲ無効トス

第三章 親子

第一節 皇子

第三十五條 皇子ノ誕生ニハ宮内大臣又ハ内大臣ヲシテ産殿ニ候セシム

第三十六條 皇子ノ誕生ハ其ノ當日宮内大臣之ヲ公告ス

第三十七條 皇子誕生シタルトキハ天皇之ニ名ヲ命ス

第三十八條 皇子ノ命名ハ其ノ當日宮内大臣之ヲ公告ス

第三十九條 皇子ノ誕生命名ハ之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告ス

第四十條 皇子誕生シテ五十日ニ至ルトキハ賢所皇靈殿神殿ニ隔ス但シ事故アルトキハ其ノ期日ヲ延フルコトアルヘシ

第四十一條 皇子ニシテ嫡出ニ非サル者ハ之ヲ皇庶子トス

第二節 皇族ノ子

第四十二條 皇太子皇太孫親王王ノ子ノ誕生ニハ宮内高等官ヲシテ産所ニ候セシム但シ場合ニ依リ他ノ高等官ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第四十三條 皇太子皇太孫ノ子誕生シタルトキハ天皇之ニ命スヘキ名ヲ賜フ

第四十四條 親王王ノ子誕生シタルトキハ直系尊屬之ニ名ヲ命ス

第四十五條 第三十六條及第三十八條乃至第四十條ノ規定ハ皇太子皇太孫ノ子ニ第三十六條第三十八條及第四十條ノ規定ハ親王王ノ子ニ之ヲ準用ス

第四十六條 皇太子皇太孫親王王ノ子ニシテ嫡出ニ非サル者ハ之ヲ庶子トス

第四十七條 皇族ノ嫡出子又ハ庶子タル身分ニ對シテハ皇族又ハ宮内大臣ハ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得

第四十八條 皇族ノ子未成年ノ間ハ父ノ親權ニ服ス但シ婚嫁ノ後ハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 親權ヲ行フ父ハ子ノ保育ヲ爲ス責務ヲ有ス

第五十條 親權ヲ行フ父ハ必要ナル範圍内ニ於テ子ヲ懲戒スルコトヲ得

第五十一條 親權ヲ行フ父ハ子ノ財産ヲ管理シ又其ノ財産ニ關スル行爲ニ付キ子ヲ代表スルコトヲ得

第五十二條 前項ノ規定ハ皇太子皇太孫親權ヲ行フ場合ニ之ヲ適用セス

第五十三條 親權ヲ行フ父ハ子ニ代リテ其ノ子ノ庶子ニ對シ親權ヲ行フ

第五十四條 親權ヲ行フ父ハ子ニ代リテ其ノ子ノ庶子ニ對シ親權ヲ行フ

第五十五條 親權ヲ行フ父ハ子ニ代リテ其ノ子ノ庶子ニ對シ親權ヲ行フ

第五十六條 親權ヲ行フ父ハ子ニ代リテ其ノ子ノ庶子ニ對シ親權ヲ行フ

第五十七條 親權ヲ行フ父ハ子ニ代リテ其ノ子ノ庶子ニ對シ親權ヲ行フ

第五十八條 親權ヲ行フ父ハ子ニ代リテ其ノ子ノ庶子ニ對シ親權ヲ行フ

第五十九條 親權ヲ行フ父ハ子ニ代リテ其ノ子ノ庶子ニ對シ親權ヲ行フ

第六十條 親權ヲ行フ父ハ子ニ代リテ其ノ子ノ庶子ニ對シ親權ヲ行フ

第六十一條 親權ヲ行フ父ハ子ニ代リテ其ノ子ノ庶子ニ對シ親權ヲ行フ

第六十二條 親權ヲ行フ父ハ子ニ代リテ其ノ子ノ庶子ニ對シ親權ヲ行フ

第六十三條 親權ヲ行フ父ハ子ニ代リテ其ノ子ノ庶子ニ對シ親權ヲ行フ



第六十五條 本人父母配偶者及後見人ハ親族會ニ於テ意見ヲ述フルコトヲ得

親族會ノ招集ハ前項ニ掲ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第六十六條 書面ヲ以テ親族會ノ決議ヲ求ムルトキハ前條第一項ニ掲ケタル者ノ意見モ亦書面ヲ

以テ之ヲ徴スヘシ

第六十七條 親族會ノ決議ニ對シテ異議アルトキ又ハ親族會決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ本人

後見人又ハ會員ニ於テ勅裁ヲ受クヘシ

第六十八條 親族會ノ決議ハ之ヲ記録ニ存スヘシ

附式

第一編 婚嫁ノ式

第一 大婚式

賢所ニ成約奉告ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻文武高官有爵者優遇者並夫人朝集所ニ參集ス 召スヘキ者ハ時ニ臨ミ之ヲ定ム以下別

但シ 服裝男子ハ大禮服正裝正服用制ナキ者ハ 通常禮服女子ハ 中禮服 代フルコトヲ得

員 式部職掌典部樂部職員ヲ除ク 亦同シ

次ニ親王親王妃内親王王王妃女王王王妃女王王王妃女王王王妃

次ニ天皇綾綺殿ニ渡御

次ニ御服 御東帶黃襦袢御袍未成年ナルトキハ圓腰御袍空頂御黑幘以下ヲ供ス 侍從天皇ノ御服ニ付キ別ニ分注ヲ施ササルモハ昔水儀ニ同シ

次ニ御手水ヲ供ス 同上

次ニ御笏ヲ供ス 同上

此ノ間供奉諸員 宮内大臣侍從長 式部長官侍從 式部長官侍從 式部長官侍從 服裝ヲ易フ 衣冠

次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物 色目時ニ臨ミ之ヲ定ム以下別ニ分注ヲ供ス 注ヲ施ササルモハ昔之ニ倣フ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候シ親王親王

妃内親王王王妃女王王王妃女王王王妃女王王王妃

次ニ内陣ノ御座ニ著御侍從劍璽ヲ奉シ外陣ニ候ス

次ニ御拜禮御告文ヲ奏ス 御餘内掌典奉仕

次ニ親王親王妃内親王王王妃女王王王妃女王王王妃

次ニ入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

皇靈殿神殿ニ成約奉告ノ儀

其ノ儀質所ノ式ノ如シ御告文並御  
鈴ノ儀ナシ

神宮ニ勅使發遣ノ儀

山陵ニ勅使發遣ノ儀

山陵ニ奉幣ノ儀

以上其ノ儀皇室祭祀令附式中各其ノ式ノ如シ

神宮ニ奉幣ノ儀

其ノ儀神宮ノ祭式ニ依ル

納采ノ儀

當日何時勅使參内ス

但シ服裝大禮服正裝正服關係諸員中男子亦同シ服制ナキ者ハ通常禮服女子ハ中禮服袴袴ヲ以テ之ニ代

フルコ  
トヲ得

時刻宮内大臣旨ヲ承ケ大婚ノ約ヲ成ス爲某ノ女某子ニ納采ヲ行フヘキ由ヲ勅使ニ傳宣ス

次ニ勅使幣贊ヲ奉シ后氏ノ第二至ル

次ニ后氏ノ父父ナキトキ又ハ事故アルトキハ他ノ尊屬男子以下后母正親ノ座ニ著ク  
氏ノ父ニ付キ別ニ分注ヲ施ササノモノハ皆之ニ數フ

次ニ勅使正親ニ參進大婚ノ約ヲ成ス爲某子ニ納采ヲ行フ旨ヲ宣フ訖テ休所ニ退ク

次ニ后氏其ノ父母ト共ニ正親ノ座ニ著ク

次ニ勅使再ヒ正親ニ參進后氏ノ父后氏ニ代リ敬テ勅旨ヲ奉スト對フ

次ニ勅使幣贊ヲ授ク

次ニ勅使退出

(注意)后氏皇族ノ女子ナルトキハ附屬ノ宮内官勅使ヲ門内ニ迎送ス華族ノ女子ナルト

キハ其ノ親族門内ニ迎送シ其ノ父母廂外ニ迎ヘ勅使退出ノトキハ后氏其ノ父母

ト共ニ廂外ニ送ル

勅章並御劍ヲ賜フノ儀

當日何時勅使參内ス

但シ服裝通常禮服小禮服禮裝禮服關係諸員中男子亦同シ女子ハ通常服

時刻宮内大臣旨ヲ承ケ勅章並御劍ヲ后氏ニ賜フヘキ由ヲ勅使ニ傳宣ス

次ニ勅使勅章並御劍ヲ奉シ后氏ノ第二至ル

次ニ后氏其ノ父母ト共ニ正親ノ座ニ著ク

次ニ勅使正親ニ參進勅章並御劍ヲ后氏ニ授ク

次ニ勅使退出

(注意)后氏皇族ノ女子ナルトキハ迎送納采ノ時ニ同シ華族ノ女子ナルトキハ后氏其ノ

父母ト共ニ勅使ヲ廂外ニ迎送シ其ノ親族門内ニ迎送ス

告期ノ儀

當日何時勅使參内ス

但シ服裝勳章並御劔ヲ賜フノ儀ニ同シ  
 時刻宮内大臣旨ヲ承ケ何日大婚ノ禮ヲ行フコトヲ后氏ニ告クヘキ由ヲ勅使ニ傳宣ス  
 次ニ勅使后氏ノ第二至ル  
 次ニ后氏其ノ父母ト共ニ正寢ノ座ニ著ク  
 次ニ勅使正寢ニ參進大婚ノ禮ヲ行フ期日ヲ宣フ  
 次ニ后氏ノ父母后氏ニ代リ敬テ勅旨ヲ奉スト對フ  
 次ニ勅使退出

(注意)迎送勳章並御劔ヲ賜フ時ニ同シ御書ヲ賜フノ儀及后氏入内ノ儀之ニ倣フ

御書ヲ賜フノ儀

大婚ノ禮ヲ行フ前一日何時勅使參内ス  
 但シ服裝勳章並御劔ヲ賜フノ儀ニ同シ  
 次ニ侍從長旨ヲ承ケ御書紅色蒔葉並紙之ニ同シ柳宮ニ納ム  
 次ニ勅使御書ヲ奉シ后氏ノ第二至ル  
 次ニ后氏其ノ父母ト共ニ正寢ノ座ニ著ク  
 次ニ勅使正寢ニ參進御書ヲ后氏ニ授ク訖テ休所ニ退ク  
 此ノ間后氏奉答書紅色蒔葉並紙之ニ同シ作ル  
 次ニ勅使再ヒ正寢ニ參進后氏奉答書ヲ勅使ニ上ツル  
 次ニ勅使奉答書ヲ受ケ御書ニ退出

賢所皇靈殿神殿ニ立后奉告ノ儀

其ノ儀皇室成年式令附式天皇成年式中賢所皇靈殿神殿ニ奉告ノ式ノ如シ

但シ服裝中大禮服ハ白下衣袴トス

后氏入内ノ儀

時刻勅使參内ス

但シ服裝大禮服白下衣袴正裝正服關係諸員中男子亦同シ服制ナキ者ハ通常禮服女子ハ大禮服袴ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得  
 次ニ宮内大臣旨ヲ承ケ本日大婚ノ禮ヲ行フニ依リ后氏ヲ迎フヘキ由ヲ勅使ニ傳宣ス  
 次ニ勅使后氏ノ第二至ル  
 次ニ后氏其ノ父母ト共ニ正寢ノ座ニ著ク  
 次ニ勅使正寢ニ參進勅旨ヲ奉シ后氏ヲ迎フト宣ヘ訖テ休所ニ退ク  
 次ニ后氏儀衛時ニ定ムヲ備ヘ參内ス勅使之ニ從フ

賢所大前ノ儀

時刻文武高官有爵者優遇者並夫人外國交際官並夫人朝集所ニ參集ス

但シ服裝男子ハ大禮服白下衣袴正裝正服服制ナキ者ハ通常禮服女子ハ大禮服袴ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

係諸員式部卿掌典部樂部職員ヲ除ク亦同シ以下參集及參内ノ項ニ於テ服裝ニ付キ別

次ニ親王親王妃内親王王王妃女王綾綺殿ニ參入ス

次ニ天皇皇后綾綺殿ニ渡御

次ニ天皇ニ御服ヲ供ス侍從奉仕

次ニ天皇ニ御手水ヲ供ス上同  
 次ニ天皇ニ御笏ヲ供ス上同  
 次ニ皇后ニ御服御五衣御唐衣御裳ヲ供ス女官  
 次ニ皇后ニ御手水ヲ供ス上同  
 次ニ皇后ニ御檢扇ヲ供ス上同  
 此ノ間供奉諸員宮内大臣侍從長式部長服裝ヲ易フ男子ハ衣冠單  
女子ハ袴袴  
 次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク  
 次ニ御扉ヲ開ク  
 此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
 次ニ神饌幣物ヲ供ス  
 此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
 次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス  
 次ニ天皇出御  
 式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候シ親王王供  
 奉ス  
 次ニ皇后出御  
 皇后宮大夫前行シ女官御後ニ候シ親王妃内親王王妃女王供奉ス  
 次ニ天皇内陣ノ御座ニ著御侍從劍璽ヲ奉シ外陣ニ候ス  
 次ニ皇后内陣ノ御座ニ著御女官外陣ニ候ス

次ニ天皇皇后御拜禮御給内掌典奉仕  
 次ニ天皇御告文ヲ奏ス  
 次ニ天皇皇后外陣ノ御座ニ移御  
 此ノ時劍璽ヲ奉スル侍從及女官簀子ニ候ス  
 次ニ掌典長神盃ヲ天皇ニ獻シ御瓶子ヲ執ル天皇神盃ヲ掌典長ニ授ク  
 次ニ掌典長神盃ヲ皇后ニ獻シ御瓶子ヲ執ル皇后神盃ヲ掌典長ニ授ク  
 次ニ天皇皇后御拜禮  
 次ニ親王親王妃内親王王王妃女王拜禮  
 次ニ天皇皇后入御  
 供奉出御ノ時ノ如シ  
 次ニ諸員拜禮  
 次ニ幣物神饌ヲ撤ス  
 此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
 次ニ御扉ヲ閉ク  
 此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
 次ニ各退下  
 皇靈殿神殿ニ謁スルノ儀殿所大前ノ儀  
織ア之ヲ行フ  
 時刻御扉ヲ開ク  
 此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ天皇皇后出御

供奉賢所大前ノ時ノ如シ

次ニ天皇内陣ノ御座ニ著御侍從劍璽ヲ奉シ外陣ニ候ス

次ニ皇后内陣ノ御座ニ著御女官外陣ニ候ス

次ニ天皇皇后御拜禮

次ニ天皇皇后入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

皇太后ニ謁スルノ儀皇太后ニ謁スルノ儀ニ準ス

時刻天皇御正皇后御大ト共ニ皇太后ノ本宮ニ行幸

但シ關係諸員ノ服裝后氏入内ノ儀ニ同シ

次ニ皇太后御大正殿ノ廂ニ於テ迎フ

次ニ式部長官前導天皇皇后正殿ノ御座ニ著御

次ニ天皇皇后御拜禮皇太后御答拜

次ニ還幸皇太后正殿ノ廂ニ於テ送ル

天皇皇后朝賀ヲ受クルノ儀

時刻文武高官有爵者優遇者立夫人外國交際官立夫人朝集所ニ參集ス

次ニ式部官前導諸員正殿ニ參進本位ニ就ク

次ニ式部官警蹕ヲ稱フ

次ニ天皇御正皇后御大出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從武官長侍從武官皇后宮大夫女官御後

ニ候シ親王親王妃内親王王王妃女王供奉ス

次ニ内閣總理大臣壽詞ヲ奏ス

次ニ勅答アリ

次ニ諸員萬歳ヲ稱フ

次ニ天皇皇后入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ各退下

大床子供膳ノ儀

時刻天皇御正皇后御大大床子ノ御座ニ著御

但シ關係諸員ノ服裝后氏入内ノ儀ニ同シ

次ニ御盃ヲ立ツ侍從女官奉仕

次ニ御饌御酒ヲ供ス同上

次ニ天皇御盃ヲ皇后ニ賜フ

次ニ皇后御瓶子ヲ執リ御返盃

次ニ天皇皇后御箸ヲ立ツ

次ニ天皇皇后入御

三箇夜餅ノ儀

時刻三箇夜餅ヲ調進ス特ニ命セラルレタル華族奉仕通常禮服

次ニ三箇夜餅ヲ夜御殿ニ供ス女官奉仕禮服

共ノ備銀盤四枚ニ白餅ヲ盛り洲濱ノ上ニ鶴形一雙ヲ立テ御箸ヲ鶴嘴ニ置キ以上珍木螺鈿形ノ筥ニ納メ蓋ヲ覆フ

宮中饗宴第一日ノ儀

當日何時親王親王妃内親王王妃女王參内ス

時刻天皇御正皇后御大便殿ニ出御

次ニ皇太后御大便殿ニ出御

次ニ親王親王妃内親王王妃女王便殿ニ參進慶ヲ奏ス

次ニ饗宴

此ノ間奏樂

次ニ天皇皇后皇太后入御

次ニ各退下

(注意) 皇太后在ルトキハ之ヲ皇太后ノ次ニ加フ御服ハ皇太后ニ同シ

宮中饗宴第二日ノ儀

當日何時文武高官有爵者優遇者並夫人外國交際官並夫人朝集所ニ參集ス

次ニ式部官前導諸員便殿ニ參進本位ニ就ク

次ニ天皇御正皇后御大出御

供奉天皇皇后朝賀ヲ受クル時ノ如シ

次ニ諸員慶ヲ奏ス

次ニ陪宴スヘキ供奉員本位ニ就ク

次ニ賜宴

此ノ間奏樂

次ニ天皇皇后入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ各退下

宮中夜宴ノ儀

時刻文武高官有爵者優遇者並夫人外國交際官並夫人朝集所ニ參集ス

但シ服裝男子ハ大禮服正裝正服服制ナキ者ハ通常禮服女子ハ中禮服關係諸員亦同シ

次ニ式部官前導諸員便殿ニ參進本位ニ就ク

次ニ天皇御正皇后御中出御

供奉天皇皇后朝賀ヲ受クル時ノ如シ

次ニ舞樂ヲ奏ス

次ニ賜宴

此ノ間奏樂

次ニ天皇皇后入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ各退下

神宮ニ謁スルノ儀

其ノ儀登極令附式中即位禮及大嘗祭後神宮ニ親謁ノ式ノ如シ

但シ皇太子皇太子妃ニ關スル儀注及供奉員中「内大臣大禮使長官大禮使次官」ヲ除ク

神武天皇山陵竝先帝先后ノ山陵ニ謁スルノ儀

其ノ儀登極令附式中即位禮及大嘗祭後神武天皇山陵竝前帝四代山陵ニ親謁ノ式ノ如シ

但シ大禮使高等官ノ著床竝皇太子皇太子妃ニ關スル儀注及供奉員中「内大臣大禮使長官大禮使次官」ヲ除ク

使次官」ヲ除ク

第二 皇太子結婚式

皇太子孫結婚式之ニ準ス

賢所皇靈殿神殿ニ成約奉告ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻文武高官有爵者優遇者竝夫人朝集所ニ參集ス

但シ服裝大婚式中賢所ニ成約奉告ノ儀ニ同シ

次ニ親王親王妃内親王王王妃女王綾綺殿ニ參入ス

次ニ皇太子綾綺殿ニ參入ス

次ニ備服 東帶黃丹袍未成年ナルトキハ開腋袍空頂黑幘以下皇太子ヲ供ス東宮侍從

次ニ手水ヲ供ス 同上

次ニ笏ヲ供ス 同上

此ノ間供奉諸員 式部長官東宮大夫東宮侍從長東宮侍從 服裝ヲ易フ 衣冠

次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク

次ニ式部官前導親王親王妃内親王王王妃女王參進本位ニ就ク

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ皇太子參進

式部長官東宮大夫前行シ東宮侍從重切御劔ヲ奉シ東宮侍從長東宮侍從東宮武官長東宮武官後

ニ候ス

次ニ皇太子内陣ニ著座東宮侍從重切御劔ヲ奉シ外陣ニ候ス

次ニ皇太子拜禮

次ニ親王親王妃内親王王王妃女王拜禮

次ニ皇太子退下

供奉參進ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

神宮ニ勅使發遣ノ儀

山陵ニ勅使發遣ノ儀

山陵ニ奉幣ノ儀

以上其ノ儀皇室祭祀令附式中各其ノ式ノ如シ

神宮ニ奉幣ノ儀

其ノ儀神宮ノ祭式ニ依ル

納采ノ儀

其ノ儀大婚式中納采ノ式ノ如シ

但シ「大婚ノ約」ヲ「皇太子結婚ノ約」トシ「后氏」ヲ「妃氏」トス

勳章ヲ賜フノ儀

其ノ儀大婚式中勳章並御劔ヲ賜フノ式ノ如シ

但シ御劔ニ關スル儀注ヲ除キ「后氏」ヲ「妃氏」トス

贈劔ノ儀

當日何時東宮使皇太子ノ本宮ニ參入ス

但シ服裝大婚式中勳章並御劔ヲ賜フノ儀ニ同シ

時刻東宮大夫令旨ヲ承ケ劔ヲ妃氏ニ贈ルヘキ由ヲ東宮使ニ傳宣ス

次ニ東宮使劔ヲ奉シ妃氏ノ第二至ル

次ニ妃氏其ノ父母ト共ニ正寢ノ座ニ著ク

次ニ東宮使正寢ニ參進劔ヲ妃氏ニ授ク

次ニ東宮使退出

(注意) 迎送大婚式中勳章並御劔ヲ賜フノ儀ニ準ス

告期ノ儀

其ノ儀大婚式中告期ノ式ノ如シ

但シ「大婚ノ禮」ヲ「皇太子結婚ノ禮」トシ「后氏」ヲ「妃氏」トス

贈書ノ儀

其ノ儀大婚式中御書ヲ賜フノ式ノ如シ

但シ「東宮使」ヲ以テ「勅使」「東宮侍從長」ヲ以テ「侍從長」ニ代ヘ「參内」ヲ「東宮御所」ニ參入「后氏」ヲ「妃氏」トス

賢所皇靈殿神殿ニ結婚奉告ノ儀

賢所皇靈殿神殿ニ立后奉告ノ式ノ如シ



但シ御代拜ノ項ヲ皇太子代拜東宮侍從奉仕衣冠單トス  
妃氏入宮ノ儀

其ノ儀大婚式中后氏入内ノ式ノ如シ

但シ東宮使ヲ以テ勅使東宮大夫ヲ以テ宮内大臣ニ代ヘ參内ヲ皇太子ノ本宮ニ參入ト勅  
旨ヲ令旨后氏ヲ妃氏トス

賢所大前ノ儀

當日何時文武高官有爵者優遇者並夫人外國交際官並夫人朝集所ニ參集ス

次ニ親王親王妃内親王王王妃女王綾綺殿ニ參入ス

次ニ皇太子皇太子妃綾綺殿ニ參入ス

次ニ皇太子ニ儀服ヲ供ス東宮侍從奉仕

次ニ皇太子ニ手水ヲ供ス同上

次ニ皇太子ニ笏ヲ供ス同上

次ニ皇太子妃ニ儀服五衣唐衣裳ヲ供ス女官奉仕

次ニ皇太子妃ニ手水ヲ供ス同上

次ニ皇太子妃ニ檜扇ヲ供ス同上

此ノ間供奉諸員式部長官東宮大夫東宮侍從長東宮主事東宮侍從女官服裝ヲ易フ男子ハ衣冠單女子ハ袴袴

次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク

次ニ式部官前導親王親王妃内親王王王妃女王參進本位ニ就ク

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ皇太子參進

式部長官東宮大夫前行シ東宮侍從並切御劔ヲ奉シ東宮侍從長東宮侍從東宮武官長東宮武官後

ニ候ス

次ニ皇太子妃參進

東宮主事前行シ女官後ニ候ス

次ニ皇太子内陣ニ著座東宮侍從並切御劔ヲ奉シ外陣ニ候ス

次ニ皇太子妃内陣ニ著座女官外陣ニ候ス

次ニ皇太子皇太子妃拜禮

次ニ皇太子告文ヲ奏ス

次ニ皇太子皇太子妃外陣ニ移座

此ノ時御劔ヲ奉スル東宮侍從及女官簀子ニ候ス

次ニ掌典神盃ヲ皇太子ニ獻ス掌典長御瓶子ヲ執ル皇太子神盃ヲ掌典ニ授ク

次ニ掌典神盃ヲ皇太子妃ニ獻ス掌典長御瓶子ヲ執ル皇太子妃神盃ヲ掌典ニ授ク

次ニ皇太子皇太子妃拜禮

次ニ親王親王妃内親王王王妃女王拜禮

次ニ皇太子皇太子妃退下

供奉參進ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

皇靈殿神殿ニ謁スルノ儀賢所大前ノ儀ニ  
級ナ之ヲ行フ

時刻御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ皇太子皇太子妃參進

供奉賢所大前ノ時ノ如シ

次ニ皇太子内陣ニ著座東宮侍從從壹切御劔ヲ奉シ外陣ニ候ス

次ニ皇太子妃内陣ニ著座女官外陣ニ候ス

次ニ皇太子皇太子妃拜禮

次ニ皇太子皇太子妃退下

供奉參進ノ時ノ如シ

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

參内朝見ノ儀

時刻皇太子正皇太子妃大禮ト共ニ參内ス

但シ關係諸員ノ服裝大婚式中皇太后ニ謁スルノ儀ニ同シ

次ニ皇太子皇太子妃便殿ニ參入ス

次ニ天皇御正皇后御大禮正殿ニ出御

次ニ式部長官前導皇太子皇太子妃御前ニ參進思ヲ謝ス

次ニ勅語アリ

次ニ皇后懿旨アリ

次ニ皇太子皇太子妃御掖座ニ著ク

次ニ御饗盤ヲ立ツ侍從女  
官奉仕

次ニ御饌御酒ヲ供ス同上

次ニ天皇皇后御盃ヲ皇太子皇太子妃ニ賜フ

次ニ御箸ヲ立ツ

次ニ天皇皇后入御

次ニ皇太子皇太子妃退下

皇太后ニ朝見ノ儀皇太后ニ朝見ノ儀ニ準ス

時刻皇太子正皇太子妃大禮ト共ニ皇太后ノ本宮ニ行啓

但シ關係諸員ノ服裝大婚式中皇太后ニ謁スルノ儀ニ同シ

次ニ皇太后御大禮正殿ニ出御

次ニ式部長官前導皇太子皇太子妃御前ニ參進恩ヲ謝ス

次ニ懿旨アリ

次ニ皇太后入御

次ニ皇太子皇太子妃退下

供膳ノ儀

三箇夜餅ノ儀

以上其ノ儀大婚式中大床子供膳及三箇夜餅ノ式ノ如シ

但シ天皇皇后ニ關スル儀注ヲ以テ皇太子皇太子妃ノ儀注ニ充テ「侍從」ヲ「東宮侍從」トス

宮中饗宴ノ儀

其ノ儀時ニ臨ミ之ヲ定ム

神宮神武天皇山陵竝先帝先后ノ山陵ニ謁スルノ儀

其ノ儀時ニ臨ミ之ヲ定ム

第三 親王結婚式王結婚式ニ準ス

納采ノ儀

其ノ儀親王其ノ附屬宮内高等官ヲ使トシ自ラ某ノ女某子ト結婚ノ約ヲ成ス爲納采ヲ行フヘキ由ヲ宣フルコトトシ自餘ハ皇太子結婚式中納采ノ式ニ準ス

但シ妃氏皇子タル内親王ナルトキハ親王ハ宮内大臣ニ由リ納采ヲ行フヘキ期日ノ勅裁ヲ承ケ

其ノ期日ニ及ヒ使幣幣ヲ奉シテ參内宮内大臣ニ由リ幣幣ヲ上ツル宮内大臣入テ奏シ出テテ嘉

納セラレタル旨ヲ宣フ使退出ノ後勅旨ニ依リ其ノ幣幣ヲ妃氏タル内親王ニ傳進セシム妃氏皇

太子皇太孫ノ子タル内親王ナルトキハ東宮大夫ニ由リ期日ノ允諾ヲ承ケ其ノ期日ニ及ヒ使幣

幣ヲ奉シテ皇太子ノ本宮ニ至リ東宮大夫ニ由リ幣幣ヲ上ツル東宮大夫入テ啓シ出テテ受納セ

ラレタル旨ヲ宣フ使退出ノ後令旨ニ依リ其ノ幣幣ヲ妃氏タル内親王ニ傳進セシム

告期ノ儀

其ノ儀親王其ノ附屬宮内高等官ヲ使トシ自ラ何日結婚ノ禮ヲ行フコトヲ妃氏ニ告クヘキ由ヲ宣フ

ルコトトシ自餘ハ皇太子結婚式中告期ノ式ニ準ス

但シ妃氏皇子タル内親王ナルトキハ親王ハ宮内大臣ニ由リ結婚ノ禮ヲ行フヘキ期日ノ勅裁ヲ

承ケ後使參内宮内大臣ニ由リ何日結婚ノ禮ヲ行フコトヲ妃氏ニ告クヘキ由ノ意ヲ致ス宮内大

臣入テ奏シ出テテ開食サレタル旨ヲ宣フ使退出ノ後勅旨ニ依リ其ノ期日ヲ妃氏タル内親王ニ

告ケシム妃氏皇太子皇太孫ノ子タル内親王ナルトキハ東宮大夫ニ由リ期日ノ允諾ヲ承ケ後使

皇太子ノ本宮ニ至リ東宮大夫ニ由リ何日結婚ノ禮ヲ行フコトヲ妃氏ニ告クヘキ由ノ意ヲ致ス

東宮大夫入テ啓シ出テテ開食サレタル旨ヲ宣フ使退出ノ後令旨ニ依リ其ノ期日ヲ妃氏タル内

親王ニ告ケシム

妃氏入第ノ儀

其ノ儀親王其ノ附屬宮内高等官ヲ使トシ自ラ本日結婚ノ禮ヲ行フニ依リ妃氏ヲ迎フヘキ由ヲ宣フルコトトシ自餘ハ皇太子結婚式中妃氏入宮ノ式ニ準ス

但シ「皇太子ノ本宮」ヲ「親王ノ殿邸」トス妃氏皇子タル内親王ナルトキハ「妃氏ノ第」ヲ「妃氏タル内親王ノ殿邸」トシ正寝著座ノ儀注中「其ノ父母ト共ニ」ヲ除ク妃氏皇太子皇太孫ノ子タル内親王ナルトキ亦同シ

既所大前ノ儀

當日早且御殿ヲ裝飾ス

時刻宮内勅任官並夫人宮内奏任官總代一人附屬別當並夫人附屬家令其ノ他諸員ニ召スヘキ者ハ時朝集所ニ參集ス

但シ服裝男子ハ大禮服正裝正服服制ナキ者ハ通常禮服女子ハ大禮服（註）袴ヲ以テ之ニ關係諸員但シ部職掌典部職掌部職長ヲ除ク亦同シ

次ニ參列ノ親王親王妃内親王王王妃女王綾綺殿ニ參入ス

次ニ親王親王妃綾綺殿ニ參入儀服（註）親王ハ束帶未成年ナルトキハ朝服親王妃ハ小袴袴ヲ用非ルコトヲ得及手水笏槍扇ヲ供スルノ儀アリ

次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク

次ニ式部官前導參列ノ親王親王妃内親王王王妃女王參進本位ニ就ク

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ親王親王妃參進外陣ニ著座

次ニ親王告文ヲ奏ス

次ニ掌典神盃ヲ親王親王妃ニ進ム掌典長御瓶子ヲ執ル親王親王妃神盃ヲ掌典ニ授ク

次ニ親王親王妃拜禮

次ニ參列ノ親王親王妃内親王王王妃女王拜禮

次ニ親王親王妃退下

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

（注意）妃氏皇子タル内親王ナルトキハ參集者中「宮内勅任官」ノ上ニ「大勳位親任官大臣 待選親任待遇公爵從一位勳一等」ヲ加フ妃氏皇太子皇太孫ノ子タル内親王ナルト

キ亦同シ但シ此ノ場合ニ於テハ「宮内奏任官總代一人」ヲ「宮内奏任官總代二人」内  
 人ヲ東宮職トス  
 奏任官トス  
 皇靈殿神殿ニ謁スルノ儀 賢所大前ノ儀ニ  
 續テ之ヲ行フ  
 時刻御屏ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ親王親王妃參進外陣ニ著座

次ニ親王親王妃拜禮

次ニ親王親王妃退下

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御屏ヲ閉ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

參内朝見ノ儀

皇太后ニ朝見ノ儀 太皇太后ニ朝見ノ儀之ニ準ス

以上其ノ儀皇太子結婚式中各其ノ式ノ如シ

但シ皇太子皇太子妃ニ關スル儀注ヲ以テ親王親王妃ノ儀注ニ充テ關係諸員ノ服裝中男子ノ大  
 禮服ハ白下衣袴ヲ用井ス

第四 内親王臣籍ニ嫁スル場合ニ於ケル式 女王臣籍ニ嫁スル場合  
 納采ノ儀

當日何時配偶者タルヘキ華族ノ使 配偶者タルヘキ華族ノ親族ヘ幣賚ヲ齎シ内親王ノ殿邸ニ參入ス  
 但シ服裝大婚式中納采ノ儀ニ同シ

次ニ内親王ノ父母タル親王 父ナキトキ又ハ母ノ皇族男子親王妃正寢ノ座ニ著ク

次ニ使正寢ニ參進華族某結婚ノ約ヲ成ス爲某子内親王ニ納采ヲ行フ旨ヲ宣フ訖テ休所ニ退ク

次ニ内親王其ノ父母タル親王親王妃ト共ニ正寢ノ座ニ著ク

次ニ使再ヒ正寢ニ參進内親王ノ父タル親王内親王ニ代リ承諾ノ旨ヲ對フ

次ニ使幣賚ヲ授ク

(注意)内親王皇子ナルトキ又ハ皇太子皇太孫ノ子ナルトキハ親王結婚式中納采ノ儀ニ  
 於ケル但書ノ規定ヲ準用シ妃氏タル内親王ヲ「配偶者タルヘキ内親王」トス

告期ノ儀

當日何時配偶者タルヘキ華族ノ使 納采ノ儀ニ同シ内親王ノ殿邸ニ參入ス  
 但シ服裝大婚式中勳章並御劔ヲ賜フノ儀ニ同シ

次ニ内親王其ノ父母タル親王 納采ノ儀ニ同シ親王妃ト共ニ正寢ノ座ニ著ク

次ニ使正寢ニ參進華族某結婚ノ禮ヲ行フ期日ヲ宣フ

次ニ内親王ノ父タル親王内親王ニ代リ承諾ノ旨ヲ對フ  
次ニ使退出

(注意)内親王皇子ナルトキ又ハ皇太子皇太孫ノ子ナルトキハ親王結婚式中告期ノ儀ニ於ケル但書ヲ準用シ「妃氏ニ告クヘキ由ノ意ヲ致ス」ヲ「某子内親王ニ告クヘキ由ノ意ヲ致ス」トシ「妃氏タル内親王」ヲ「配偶者タルヘキ内親王」トス

賢所皇靈殿神殿ニ謁スルノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻宮内勅任官並夫人宮内奏任官總代一人附屬別當並夫人附屬家令共ノ他諸員ニ召スヘキ者ハ時刻集所ニ參集ス

但シ服裝親王結婚式中賢所大前ノ儀ニ同シ

次ニ參列ノ親王親王妃内親王王王妃女王綾綺殿ニ參入ス

次ニ内親王綾綺殿ニ參入儀服五衣唐衣裝時ニ臨ミ小及手水檜扇ヲ供スルノ儀アリ

次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク

次ニ式部官前導參列ノ親王親王妃内親王王王妃女王參進本位ニ就ク

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ學典長祝詞ヲ奏ス

次ニ内親王參進外陣ニ著座

次ニ内親王拜禮

次ニ參列ノ親王親王妃内親王王王妃女王拜禮

次ニ内親王退下

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

(注意)内親王皇子ナルトキハ參集者中「宮内勅任官」ノ上ニ「大勳位親任官大臣待遇親任待遇公爵從一位勳一等」ヲ加ヘ「附屬別當並夫人附屬家令」ヲ除ク皇太子皇太孫ノ子ナルトキ亦同シ但シ此ノ場合ニ於テハ「宮内奏任官總代一人」ヲ「宮内奏任官總代二人」内一人ヲ東宮トス

參内朝見ノ儀

皇太后ニ朝見ノ儀太皇太后ニ朝見ノ儀之ニ準ス

以上其ノ儀親王結婚式中各其ノ式ノ如シ

但シ親王ニ關スル儀注ヲ除キ親王妃ニ關スル儀注ヲ以テ内親王ノ儀注ニ充ツ

内親王入第ノ儀

時刻配偶者タルヘキ華族ノ使納采ノ儀内親王ノ殿邸ニ參入ス

但シ服裝親王結婚式中賢所大前ノ儀ニ同シ

次ニ内親王其ノ父母タル親王納采ノ儀親王妃ト共ニ正寢ノ座ニ著ク

次ニ使正寢ニ參進華族某ノ命ニ依リ某子内親王ヲ迎フト宣ヘ訖テ休所ニ退ク

次ニ内親王儀衛時ニ臨ミヲ備ヘ華族某ノ第二向フ使之ニ從フ

(注意)内親王皇子ナルトキ又ハ皇太子皇太孫ノ子ナルトキハ正寢著座ノ儀注中「其ノ

父母タル親王親王妃ト共ニヲ除ク

第二編 誕生ノ式

第一 皇子誕生式

御帶進獻ノ儀

當日何時親王又ハ王ノ内一人勅旨ヲ奉シ御帶生平親長笠丈貳尺幅半ヨリ折リ三重ニ之ヲ帖ム白ノ

衣時給ノ御ヲ皇后ノ本宮ニ進獻ス附御宮内高

但シ服裝通常禮服小禮服禮裝禮服關係諸員中男子亦同シ女子ハ通常服以下參入參内ノ項ニ

分注ヲ施ササルモ

次ニ皇后御通便殿ニ出御

次ニ御帶ヲ上ツル皇后宮大

次ニ皇后入御夫率仕

次ニ各退下

賢所皇靈殿神殿ニ著帶奉告ノ儀

其ノ儀立儲令附式中賢所皇靈殿神殿ニ奉告ノ式ノ如シ

但シ神殿ノ儀ニ於テ神饌ヲ供スノ項ノ次ニ御帶ヲ案上ニ安クノ儀注ヲ加フ

著帶ノ儀

時刻宮内大臣關係宮内高等官皇后ノ本宮ニ參入ス

次ニ天皇御通渡御

次ニ皇后御通常服御著帶ノ儀アリ

次ニ天皇還御

次ニ各退下

御劔ヲ賜フノ儀

當日何時勅使參内ス

時刻宮内大臣旨ヲ承ケ御劔皇女子誕生ノトヲ皇子ニ賜フヘキ由ヲ勅使ニ傳宣ス

次ニ勅使御劔ヲ奉シテ皇后ノ本宮ニ參入ス

次ニ勅使便殿ニ參進旨ヲ皇后宮大夫ニ傳宣シ御劔ヲ授ク

次ニ皇后宮大夫御劔ヲ女官ニ付シ皇子ニ上ツル

次ニ勅使退出

命名ノ儀

當日何時勅使參内ス

時刻宮内大臣旨ヲ承ケ宸筆ノ名記ヲ勅使ニ授ク

次ニ勅使名記ヲ奉シテ皇后ノ本宮ニ參入ス  
 次ニ勅使便殿ニ參進名記ヲ皇后宮大夫ニ授ク  
 次ニ皇后宮大夫名記ヲ女官ニ付シ皇子ニ上ツル  
 次ニ勅使退出

賢所皇靈殿神殿ニ誕生命名奉告ノ儀

其ノ儀立附令附式中賢所皇靈殿神殿ニ奉告ノ式ノ如シ

浴湯ノ儀

當日何時關係宮内高等官讀書鳴弦ノ諸員皇后ノ本宮ニ參入ス

但シ服裝男子ハ衣冠單女子ハ袷袴

次ニ讀書鳴弦ノ諸員浴殿ノ外ニ列立ス

次ニ皇子浴殿ニ入ル女官奉仕

次ニ讀書鳴弦ノ儀アリ

次ニ皇子産殿ニ還ル女官奉仕

次ニ各退下

賢所皇靈殿神殿ニ謁スルノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻親王親王妃内親王王妃女王綾綺殿ニ參入ス

但シ服裝男子ハ大禮服正裝正服女子ハ中禮服代フルコトヲ得ニ關係諸員式部職掌部樂部除ク亦同シ

次ニ皇子童形眼蓋ノ盛ニ綾綺殿ニ參入ス

但シ恩從員ノ服裝男子ハ衣冠單女子ハ袷袴

次ニ關係宮内勅任官竝夫人宮内奏任官著床

次ニ式部官前導親王親王妃内親王王妃女王參進本位ニ就ク

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ皇子外陣ニ參進拜禮

次ニ皇子退下

次ニ親王親王妃内親王王妃女王拜禮

次ニ諸員拜禮

次ニ神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

(注意)

皇庶子ノ誕生ニハ御帶進獻著帶奉告及著帶ノ儀ヲ行ハス



第二 皇族ノ子誕生式

皇太子又ハ皇太孫以下ノ子誕生式ニハ皇子誕生式全部ヲ準用シ親王王ノ子誕生式ニハ皇子誕生式中  
賢所皇靈殿神殿ニ謁スルノ式ヲ準用ス

但シ皇太子ノ子誕生式ニ在リテハ天皇皇后ニ關スル儀注ヲ以テ皇太子皇太子妃又ハ皇太子ノ儀注  
ニ充テ皇后ノ木宮ヲ皇太子ノ木宮トシ皇后宮大夫女官ヲ東宮大夫東宮女官トス又命名ノ  
儀中宸筆ノ名記ヲ勅使ニ授クトアルヲ皇孫又ハ皇孫ニ名ヲ賜フ由ヲ皇太子ニ告クヘント勅使  
ニ傳宣ストシ勅使便殿參進ノ項及其ノ次項ヲ勅使便殿ニ參進旨ヲ東宮大夫ニ傳宣シ名記ヲ  
授ク次ニ東宮大夫名記ヲ皇太子ニ上ツルトス

朕宮内省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十八日

宮内大臣 公爵岩倉具定

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

内務大臣 法學博士 平田東助

皇室令第四號

宮内省官制中左ノ通改正ス

第十九條中「三人ヲ二人ニ改ム」

第二十條中「二百七十八人ヲ二百四十三人ニ改ム」

第三十三條中「二十八人内八人ヲ勅任二十人ヲ奏任トシ」ヲ專任二十人内四人ヲ勅任十六人ヲ奏任  
トシニ改ム

第三十六條第二項中「奏任トス」ノ下ニ「他ノ宮内高等官ヨリ兼任ス」ヲ加フ

第五十三條第二項中「勅任又ハ奏任トス」ヲ内八人ヲ勅任十七人ヲ奏任トスニ改ム

第五十七條第二項中「四人ヲ專任三人」ニ同條第四項中「五十五人ヲ五十八人」ニ「十二人ヲ十一人」ニ  
改ム

第五十八條第七項中「百十二人ヲ百五人」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

皇室令第三號宮内省官制(明治四十年十一月一日官報)抄錄

第十九條 勅任官ハ專任三人奏任トス翻譯及通譯ノ事ヲ分掌ス

第二十條 屬官ハ二百七十八人判任トス大臣官房各職及各寮ニ分屬シテ庶務ニ從事ス

第三十三條 式部官ハ二十八人内八人ヲ勅任二十人ヲ奏任トシ名譽官ト爲スコトヲ得典式及接待ノ事ヲ分掌ス

第三十六條 第一項及第二項

樂部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

樂長

樂師

部長ハ奏任トス部務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

第五十三條第二項  
 侍醫八二十五人勅任又ハ奏任トス診候進藥及衛生ノ事ヲ分掌ス  
 第五十七條第二項及第四項  
 内匠察技師ハ六人内苑察技師ハ四人共ニ奏任トス各主務ニ關スル技術ノ事ヲ分掌ス  
 内匠察技師ハ五十五人内苑察技師ハ十二人共ニ判任トス技術ニ從事ス  
 第五十八條第七項  
 技師ハ百十二人判任トス牧場及車馬ニ關スル技術ニ從事ス

朕内大臣府官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十八日

宮内大臣 公爵岩倉具定

皇令第五號

内大臣府官制中左ノ通改正ス

第五條中「勅任トス」ノ下ニ「他ノ宮内高等官ヨリ兼任ス」ヲ加フ

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

皇令第四號内大臣府官制(明治四十年十一月一日官報)抄錄  
 第五條 秘書官長ハ一人勅任トス支那ノ事ヲ掌理ス

朕東宮職官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十八日

宮内大臣 公爵岩倉具定

皇令第六號

東宮職官制中左ノ通改正ス

第八條中「二十八」ヲ「二十七」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

皇令第六號東宮職官制(明治四十年十一月一日官報)抄錄  
 第八條 屬ハ三十人判任トス庶務ニ從事ス

朕帝室林野管理局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十八日

宮内大臣 公爵岩倉具定

皇室令第七號

帝室林野管理局官制中左ノ通改正ス  
第四條ノ二中「十八」ヲ「九人」ニ改ム  
第五條中「百四十八」ヲ「百二十六人」ニ改ム  
第六條第二項中「四十六人」ヲ「專任四十二人」ニ同條第三項中「五百五十五人」ヲ「五百人」ニ改ム  
附則  
本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

皇室令第九號帝室林野管理局官制(明治四十年十一月一日官報)抄録  
第四條ノ二 主事補八十八人奏任トス主事ヲ助ク  
第五條 屬八十八人判任トス庶務ニ從事ス  
第六條第二項及第三項  
技師八十六人奏任トス内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得技術ノ事ヲ分掌ス  
技手八百五十五人判任トス技術ニ從事ス

朕帝室博物館官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十八日

皇室令第八號

帝室博物館官制中左ノ通改正ス

宮内大臣 公爵岩倉具定

第七條中「四人」ヲ「二人」ニ各「一人」ヲ「各一人」ニ改ム  
第九條中「十八人」ヲ「十六人」ニ改ム  
第十條中「四十人」ヲ「三十六人」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

皇室令第十一號帝室博物館官制(明治四十年十一月一日官報)抄録  
第七條 部長ハ東京帝室博物館四人京都及奈良帝室博物館各二人共ニ奏任トス列品部門ノ別ニ從ヒ部務ヲ分掌ス  
第九條 屬八十八人判任トス庶務ニ從事ス  
第十條 技手八十八人判任トス技術ニ從事ス

朕帝室林野管理局臨時職員官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十八日

宮内大臣 公爵岩倉具定

皇室令第九號

帝室林野管理局臨時職員官制中左ノ通改正ス  
屬ノ定員「三十人」ヲ「十八人」ニ技手ノ定員「八十八人」ヲ「五十三人」ニ改ム  
附則  
本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕宮内官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セリ

御名 御璽

明治四十三年三月二十八日

宮内大臣 公爵岩倉真定

皇令第十號

宮内官官等俸給令中左ノ通改正ス

宮内高等官俸給表

第一號表

親任	勅任官			奏任官														
	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等								
一級俸	八千圓	五千圓	三千七百圓	三千圓	二千七百圓	二千五百圓	二千三百圓	二千一百圓	一千九百圓	一千七百圓	一千五百圓	一千三百圓	一千一百圓	九百圓	七百圓	五百圓	三百圓	二百圓
二級俸	六千圓	四千圓	三千圓	二千七百圓	二千五百圓	二千三百圓	二千一百圓	一千九百圓	一千七百圓	一千五百圓	一千三百圓	一千一百圓	九百圓	七百圓	五百圓	三百圓	二百圓	一百圓

第二號表第三號表ニ依ラサルモノハ總テ本表ニ依ル  
宮内大臣内大臣ニ一級俸ヲ賜ヒ親任ノ侍從長式部長官ニ二級俸ヲ賜フ

第二號表

勅任官	奏任官													
	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等						
一級俸	四千圓	三千圓	二千五百圓	二千圓	一千七百圓	一千五百圓	一千三百圓	一千一百圓	九百圓	七百圓	五百圓	三百圓	二百圓	一百圓

第三號表

勅任官	奏任官												
	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等					
一級俸	五千圓	四千圓	三千五百圓	三千圓	二千五百圓	二千圓	一千五百圓	一千圓	七百圓	五百圓	三百圓	二百圓	一百圓
二級俸	四千圓	三千五百圓	三千圓	二千五百圓	二千圓	一千五百圓	一千圓	七百圓	五百圓	三百圓	二百圓	一百圓	五十圓
三級俸	三千五百圓	三千圓	二千五百圓	二千圓	一千五百圓	一千圓	七百圓	五百圓	三百圓	二百圓	一百圓	五十圓	三十圓

宮内省御醫官圖書寮編修官侍醫侍醫補醫師長藥師主膳長技師車馬監關馬師馬醫師各帝室博物館部長ハ本表ニ依ル

宮内判任官俸給表

第一號表

親任	勅任官			奏任官									
	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等			
一級俸	九十五圓	六十五圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十圓	十五圓	十圓	五圓	三圓	二圓	一圓	五圓
二級俸	七十五圓	五十五圓	四十圓	三十圓	二十圓	十五圓	十圓	五圓	三圓	二圓	一圓	五圓	三圓
三級俸	六十圓	四十圓	三十圓	二十圓	十五圓	十圓	五圓	三圓	二圓	一圓	五圓	三圓	二圓

第二號表第三號表ニ依ラサルモノハ總テ本表ニ依ル



六百六十圓	八百
六百圓	七百五十圓
五百圓	六百圓
四百圓	五百圓
二百圓	二百五十圓
百五十圓	二百圓

判	任	管
現在俸給	改正俸給	
八十圓	百圓	
七十五圓	九十五圓	
七十圓	八十五圓	
六十五圓	八十圓	
六十圓	七十五圓	
五十五圓	七十圓	
五十圓	六十五圓	
四十五圓	五十五圓	
四十圓	五十圓	

本令施行ノ際休職中ノ者ノ俸給及宮内官官等俸給令第八條ノ規定ニ依ル俸給ハ従前ノ額ニ依ル

三十五圓	四十圓
三十圓	三十圓
二十七圓以下	現俸ニ七圓ヲ加ヘタル額
二十三圓以下	現俸ニ六圓ヲ加ヘタル額
十九圓以下	現俸ニ五圓ヲ加ヘタル額
十五圓以下	現俸ニ四圓ヲ加ヘタル額
十一圓以下	現俸ニ三圓ヲ加ヘタル額
	現俸ニ二圓ヲ加ヘタル額

朕宮内省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年七月十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
内務大臣 法學博士 平田東助

皇室令第十一號 (官報 七月十二日)

宮内省官制中左ノ通改正ス

第五十六條第三項中「一人」ヲ「二人」ニ第四項中「二十五人」ヲ「二十六人」ニ改ム

第五十八條第二項中「一人」ヲ「二人」ニ改メ「分掌ス」ヲ「掌ル」ニ改メ第四項

中「二人」ヲ「一人」ニ改メ「分掌ス」ヲ「掌ル」ニ改メ第六項中「六人」ヲ「十一人」ニ改メ「牧場ニ關スル」ヲ削リ第七項

ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

車馬監ハ一人調馬師ハ四人共ニ技師ヲ以テ之ニ充ツ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

皇室令第三號宮内省官制(明治四十年十一月一日官報)抄録  
第五十六條第三項第四項

皇宮警視ハ一人委任トス皇宮警視長ヲ助ク  
 皇宮警部ハ委任二十五人特任トス警察ニ從事ス  
 第五十八條第二項乃至第四項及第六項  
 車馬監ハ一人委任トス車馬器具ノ管守及馬匹ノ飼養調習ニ關スル事務ヲ掌ル  
 調馬師ハ三人委任トス馬匹調習ノ事ヲ分掌ス  
 馬醫師ハ二人委任トス馬匹醫療ノ事ヲ分掌ス  
 技師ハ六人委任トス内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得收揚ニ關スル技術ノ事ヲ分掌ス

朕宮内官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年七月十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第十二號(官報 七月十二日)

宮内官官等俸給令中左ノ通改正ス

第一條第二項中「五等」ヲ「四等」ニ改ム

第四條ノ二 宮内省翻譯官圖書寮編修官又ハ帝室博物館部長ニシテ五年以上高等官四等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限リ特ニ高等官三等ニ陞敘スルコトヲ得

次侍從侍醫補藥劑師主膳長皇宮警視帝室會計審査官補又ハ帝室林野管理局主事補ニシテ五年以上高等官五等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限リ特ニ高等官四等ニ陞敘スルコトヲ得

樂長ニシテ五年以上高等官七等ニ在リ功績アル者ハ一人ヲ限リ特ニ高等官六等ニ陞敘スルコトヲ得

宮内高等官官等俸給令中「車馬監」調馬師ヲ削リ三等及四等ノ欄ニ「馬醫師」ヲ加ヘ宮内判任官官等俸給令中「二等ノ欄」ニ「陵墓守長」「獵場監守長」及「鷹師」ヲ加ヘ三等ノ欄ニ「陵墓名譽守部」及「獵場名譽監守」ヲ加ヘ五等ノ欄ヲ削ル

宮内高等官俸給表第三號表中「車馬監調馬師」ヲ削ル

宮内判任官俸給表

第一號表		第二號表			
級	俸	一 等	二 等	三 等	四 等
一級	俸	九十五圓	六十五圓	四十五圓	三十五圓
二級	俸	七十五圓	五十五圓	四十五圓	三十五圓
三級	俸	五十五圓	四十五圓	三十五圓	二十五圓
三級	俸	四十五圓	三十五圓	二十五圓	十五圓

第二號表第三號表ニ依ラサルモノハ總テ本表ニ依ル

內掌典掌典補樂師陵墓守長內舍人獵場監守長東宮內舍人家扶家從ハ本表ニ依ル



第三號表

	一 等	二 等	三 等	四 等
一級俸	百 圓	七十五圓	五十圓	三十五圓
二級俸	八十五圓	六十五圓	四十五圓	三十圓
三級俸		五十五圓	四十圓	二十五圓

醫員藥劑員主務技手馬醫馬師學習院助教各帝室博物館部長ハ本表ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際判任官ニシテ五等ニ在ル者ハ別ニ辭令書ヲ交付セス四等ニ級セラレタルモノトシ四等以上ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ從前ト同一ノ官等ニ在ルモノトス

本令施行ノ際判任官ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ官等ニ拘ラス現ニ受クル俸給ト同一ノ俸給額又ハ之ニ相當スル級俸ヲ賜フモノトス

〔參照〕

皇室令第十三號宮内省官等俸給令(明治四十年十一月一日官報)抄錄

第一條第二項

判任官ヲ分テ五等トス

朕宮内省内國旅費令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ分布セシム

御名 御璽

明治四十三年七月十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第十三號(官報 七月十二日)

宮内省内國旅費令

第一條 宮内省公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキハ本令ノ定ムル所ニ從ヒ旅費ヲ賜フ

旅費トハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、移轉料及支度料ヲ謂フ

第二條 鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、陸路旅行ニハ車馬賃ヲ賜フ鐵道又ハ水路ニ依リサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス

第三條 日當ハ日數ニ應シ宿泊料ハ夜數ニ應シテ之ヲ賜フ

水路旅行ニハ宿泊料ヲ賜ハラス但シ官用ノ船舶ニ依リテ旅行ヲ命シタル場合ニ於テ宮内省ヨリ贈ヲ爲ササルトキハ食卓料ヲ賜フ

第四條 旅費ハ別表ニ從ヒ之ヲ賜フ

鐵道賃、船賃、車馬賃、日當及宿泊料ハ順路ニ依ル但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第五條 公務ノ爲滞在シタル日數及途中已ムコトヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ二百哩、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付キ一日ノ割合ヲ以テ算出シタル日數ヲ

除キテ旅費ヲ賜フコトナシ

一旅行ニシテ鐵道、水路又ハ陸路ニ互リ通算シテ前項ノ日數ヲ算出スヘキ場合ニ於テ鐵道ニ付キ二百哩未滿、水路ニ付キ百海里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ鐵道ハ十七哩、水路ハ八海里ヲ以

テ陸路一里ト看做ス

前二項ノ場合ニ於テ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第六條 赴任ノ場合ニ於テハ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル鐵道賃、船賃、車馬賃ノ定額ノ二倍及移轉料ヲ賜フ

第七條 官用ノ船車馬等ニ依リテ旅行ヲ命シタルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ賜ハララス

第八條 任地所在ノ市區町村内ノ旅行ト雖陸路二里ヲ踰ユルトキハ定額ノ半額以内ノ日當ヲ賜フ

第九條 私事ノ爲任地以外ニ滞在スル者ニ旅行ヲ命シタルトキハ旅費ハ滞在在地ヲ以テ出發地トシタル額ト任地ヲ以テ出發地トシタル額トヲ比較シ其ノ少キニ依ル

第十條 新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ赴任ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ賜フ

第十一條 鐵道賃、船賃、車馬賃ハ各其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ算出ス但シ定額ヨリ多キ額ヲ賜ヒ又ハ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ合算ス

合算上一哩未滿、一海里未滿、一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

第十二條 日ニ依リテ旅費ヲ區分スル必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區分ス

第十三條 旅行中退官シタル者ハ旅費ニ付テハ從前ノ任地ニ歸著スルマテ之ヲ在官者ト看做ス但シ宮内官分限令ノ規定ニ依リテ其ノ官ヲ失ヒ又ハ宮内官懲戒令ノ規定ニ依リテ其ノ官ヲ免ヒラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 旅行中休職トナリタル者ハ旅費ニ付テハ其ノ任地ニ歸著スルマテ之ヲ在職者ト看做ス

第十五條 旅行中死亡シタルトキハ第十三條ノ規定ニ依ル旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ賜フ

第十六條 事務引繼、殘務整理等ノ爲退官者ニ旅行ヲ命シタルトキハ旅費ニ付テハ之ヲ在官者ト看做ス

第十七條 兼官アル者ノ旅費ハ其ノ官ノ高キニ從フ

第十八條 特別ノ事情ニ依リ必要アルトキハ支度料ヲ賜フ

旅行前ニ於テ事務ノ都合ニ依リ旅行ヲ免セラレ又ハ旅行ノ必要止ミタルトキハ特ニ支度料ノ半額以内ヲ賜フコトアルヘシ

前項ノ規定ハ旅行前ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用シ其ノ金額ハ之ヲ遺族ニ賜フ

第十九條 特別ノ事情ニ依リ必要アルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ハ定額ニ拘ラス其ノ實費額ヲ賜フ

第二十條 職務ノ必要ニ依リ自己ノ馬匹ヲ使用セシムルトキハ其ノ馬匹使用ニ要スル實費額ヲ賜ヒ車馬賃ヲ賜ハララス

第二十一條 林野視察、檢地、測量、土木工事、漁獵等ノ爲現場ヲ巡行セシムルトキハ同一市區町村内ノ巡行ヲ除クノ外日當ノ定額六割ヲ増賜シ車馬賃ヲ賜ハララス

第二十二條 特別ノ事情ニ依リ必要アルトキハ日當及宿泊料ノ定額ノ二倍以内ヲ増賜ス

第二十三條 常時旅行ヲ要スル者ノ旅費ハ其ノ定額ヲ減シ、定額ニ拘ラス月額若ハ日額ト爲シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ賜ハラサルコトアルヘシ滞在ノ日數三十日ヲ踰ユルトキトヲ要スルトキ亦同シ

第二十四條 本令ノ規定ハ他官廳ノ官吏宮内省ノ用務ニ依リ旅行スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 他官廳ノ用務ヲ兼ネテ旅行スル宮内官其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ハ宮内大臣ノ

定ムル所ニ依ル

第二十六條 臺灣又ハ樺太ヲ旅行スル場合ニ賜フヘキ旅費額ニ付テハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定

第二十七條 旅費ニ付テハ勅任待遇職員、麝香間祇候及錦鶏間祇候ハ勅任官、奏任待遇職員ハ奏任

官、判任待遇職員ハ判任官ト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

親任官	八錢	九錢	五十錢	三圓	五圓五十錢	二圓	五圓五十錢	以內	三百圓以內
勅任官	七錢	八錢	四十錢	二圓	三圓五十錢	一圓七十錢	百圓以內	五百圓以內	二百圓以內
奏任官	六錢	七錢	三十錢	一圓五十錢	二圓五十錢	一圓三十錢	七十圓以內	百圓以內	五十圓以內
判任官	五錢	六錢	二十五錢	一圓	一圓五十錢	九十錢	五十圓以內	五十圓以內	

朕惟フニ李家ノ懿親及其ノ邦家ニ大勞アリタル者ハ宜ク之ヲ優列ニ陞シ欽シテ朝鮮貴族ト爲シ用テ寵光ヲ示スヘシ茲ニ其ノ舊徳前功ヲ秩シ世爵ノ典ヲ定メテ朝鮮貴族令トシ之ヲ裁可シ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第十四號

朝鮮貴族令

第一條 本令ニ依リ爵ヲ授ケラレ又ハ爵ヲ襲キタル者ヲ朝鮮貴族トス

有爵者ノ婦ハ朝鮮貴族ノ族稱ヲ享ク

第二條 爵ハ李王ノ現在ノ血族ニシテ皇族ノ禮遇ヲ享ケサル者及門地又ハ功勞アリタル朝鮮人ニ之ヲ授ク

第三條 爵ハ公侯伯子男ノ五等トス

第四條 爵ヲ授ケルハ勅旨ヲ以テシ宮内大臣之ヲ奉行ス

第五條 有爵者ハ其ノ爵ニ應シ華族令ニ依ル有爵者ト同一ノ禮遇ヲ享ク

第六條 有爵者ノ婦ハ其ノ夫ノ爵ニ相當スル禮遇及名稱ヲ享ク

有爵者ノ寡婦其ノ家ニ在ルトキハ特ニ貴族ノ族稱ヲ保有セシメ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシム

第七條 有爵者ノ家族ニシテ左ニ掲ケタル者ハ華族ト同一ノ禮遇及貴族ノ族稱ヲ享ク

一 曾祖父、祖父、父

二 爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人及其ノ嫡長男子、嫡出ノ男子ナキトキハ其ノ庶長男子

三 前二號ニ掲ケタル者ノ配偶者  
第八條 有爵者又ハ前二條ノ禮遇ヲ享クヘキ者身體若ハ精神ニ重患アリ又ハ貴族ノ體面ニ關スル事故アルトキハ其ノ重患又ハ事故ノ止ムマテ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

前項ノ重患又ハ事故ノ有無ハ宮内高等官中ヨリ勅命シタル審査委員ヲシテ審査セシメタル後宮内大臣ノ上奏ニ依リ之ヲ勅裁ス

第九條 有爵者ハ家範ヲ定ムルコトヲ得

家範ハ宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ之ヲ廢止變更スルトキ亦同シ

有爵者二十年未滿ナルトキ又ハ前條ノ場合ニ該當スル者ナルトキハ家範ヲ定メ又ハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得ス

第十條 爵ハ家ノ相續人タル男子ヲシテ之ヲ襲カシム

第十一條 爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人ハ相續開始ノ時ヨリ六箇月内ニ宮内大臣ニ相續ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ宮内大臣ハ勅許ヲ經テ襲爵ノ辭令書ヲ交付ス

第十二條 襲爵ハ相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ生ス

第十三條 左ノ場合ニ於テハ相續人ハ襲爵ノ特權ヲ失フ

一 第十一條第一項ノ期間内ニ相續ノ届出ヲ爲ササルトキ

二 第十六條第二項又ハ第十八條ノ規定ニ依リ貴族ノ族稱ヲ除カレタルトキ

第十四條 相續人忠順ヲ缺クノ行爲アリタルトキハ襲爵ヲ勅許セラルルコトナシ

第十五條 有爵者及第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者ノ身分ニ關シ監督上必要ノ事項ハ宮内大臣之ヲ管掌ス

第十六條 有爵者國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ禁錮若ハ禁獄以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁判確定シタルトキハ其ノ爵ヲ失フ

第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者前項ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ禁止ス

第十七條 有爵者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ爵ヲ返上セシメ又ハ禮遇ヲ停止若ハ禁止ス

- 一 貴族ノ體面ヲ汚辱スル失行アル者
- 二 貴族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者
- 三 忠順ヲ缺クノ行爲アル者

四 宮内大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シ情狀重キ者

第十八條 第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者前條ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ停止若ハ禁止ス

第十九條 有爵者禮遇ノ停止又ハ禁止中ニ在ルトキハ第六條第一項及第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者モ共ニ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

第二十條 有爵者其ノ品位ヲ保ツコト能ハサルトキハ宮内大臣ヲ經テ爵ノ返上ヲ請願スルコトヲ得

第二十一條 第十六條第二項、第十七條及第十八條ノ處分ハ、勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ行フ禮遇ノ停止ヲ解除スルトキ亦同シ

第八條第二項ノ規定ハ前項ノ處分及解除ニ之ヲ準用ス  
禮遇ノ禁止ヲ解除スルハ特旨ニ由ル

第二十二條 審査委員ニ關スル規程ハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮ニ在任スル貴族ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

皇室令第十五號

第一條 朝鮮貴族令第八條第十四條及第二十一條ノ場合ニ於テハ朝鮮ニ在任スル貴族ニ限リ當分ノ内朝鮮總督ニ於テ審査委員ヲシテ審査セシメタル後之ヲ宮内大臣ニ移牒スヘシ

前項ノ審査委員ハ朝鮮總督府高等官ノ内ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス  
審査委員ニ關スル規程ハ朝鮮總督宮内大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第二條 朝鮮貴族令第九條第二項、第十一條第一項及第二十條ノ規定ニ依リ届出、認許ノ申請又ハ請願ヲ爲スニハ朝鮮ニ在任スル貴族ニ限リ當分ノ内朝鮮總督ヲ經由スヘシ

第三條 朝鮮貴族令第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮ニ在任スル貴族ノ監督上必要ノ事項ハ當分ノ内朝鮮總督之ヲ管掌ス但シ主要ノ事項ニ付テハ宮内大臣ニ協議スヘシ

第四條 朝鮮ニ在任スル貴族朝鮮總督ノ命令ニ違反シ情狀重キトキハ朝鮮貴族令第十七條ヲ適用ス  
附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮貴族ノ敍位ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

皇室令第十六號

敍位條例ハ朝鮮貴族ノ敍位ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕華族令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第十七號

華族令中左ノ通改正ス

第二十七條第二項中「有爵者ノ互選ニ依リ組織シタル懲戒委員會ノ決議」ヲ「宗秩寮審議會ノ審議ニ改ム

第二十八條 削除

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

皇室令第二號華族令(明治四十年五月八日官報)抄録

第二十七條 第二項第一項、第二十三條、第二十四條ノ處分ハ勅諭ヲ經テ宮内大臣之ヲ行フ禮遇ノ停止ヲ解除スルトキ亦

同シ

前項ノ處分及解除ニ付テハ有爵者ノ互選ニ依リ組織シタル懲戒委員會ノ決議ヲ經タル後勅諭ヲ經ヘシ

禮遇ノ禁止ヲ解除スルハ特旨ニ依ル  
第二十八條 懲戒委員ノ互選ニ關スル規程ハ宮内大臣勅諭ヲ經テ之ヲ定ム

朕宮内省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

内務大臣 法學博士 平田東助

皇室令第十八號

宮内省官制中左ノ通改正ス

第二條中「華族」ノ下ニ「及朝鮮貴族」ヲ加フ

第九條中「宮内職員及華族」ヲ「宮内職員、華族及朝鮮貴族」ニ改ム

第十四條第二項中第五號削除

第二十條中「二百四十三人」ヲ「二百五十八人」ニ改ム

第二十二條中「式部職」ノ次ニ「宗秩寮」ヲ加ヘ「爵位寮」ヲ削ル

第三十六條ノ二 宗秩寮ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 皇族ニ關スル事項

二 王族及公族ニ關スル事項

三 爵位ニ關スル事項

四 華族ニ關スル事項

五 朝鮮貴族ニ關スル事項  
六 有位者ニ關スル事項

第三十六條ノ三 宗秩寮ニ左ノ職員ヲ置ク

宗秩寮總裁

宗秩寮主事

第三十六條ノ四 宗秩寮總裁ハ親任又ハ勅任トス 宗秩寮ヲ統轄シ 兼テ皇族、王族及公族ニ附屬スル職員ヲ監督ス

第三十六條ノ五 宗秩寮主事ハ二人奏任トス内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得 寮務ヲ分掌ス

第三十六條ノ六 宗秩寮ニ審議會ヲ置ク

審議會ハ皇族、王族及公族ニ關スル重要ノ事項ニ付キ諮詢ニ應シ 意見ヲ上奏ス  
審議會ハ華族ノ懲戒及禮遇停止ノ解除ヲ審議シ 兼テ華族及朝鮮貴族ニ關スル重要ノ事項ニ付キ 宮内大臣ノ諮問ニ應ス

第三十六條ノ七 審議會ハ宗秩寮總裁及宗秩寮審議官ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十六條ノ八 宗秩寮審議官ハ左ニ掲クル者ニ就キ 宮内大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

一 樞密顧問官 三人

二 宮内勅任官 四人

三 有爵者 五人(公侯伯子男各一人)

宗秩寮審議官ハ官吏ヨリ命セラレタル者ハ其ノ本官ノ待遇ヲ享ケ 有爵者ヨリ命セラレタル者ハ勅任官ノ待遇ヲ享ケ

第三十六條ノ九 審議會ノ議長ハ宗秩寮總裁及宗秩寮審議官ノ内上席者ヲ以テ之ニ充テ 議長事故アルトキハ次席者ヲ代理ス

第三十六條ノ十 審議會ハ審議官過半數ノ出席アルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第三十八條第五號中「天皇及皇族」ヲ「天皇、皇族、王族及公族」ニ改ム

第三十九條 削除

第四十九條中「各寮」ヲ「宗秩寮」ヲ除クノ外各寮ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

皇室令第三號宮内省官制(明治四十年十一月一日官報)抄録

第二條 宮内大臣ハ所部ノ職員ヲ統督シ 兼テ皇族ヲ監督ス

第九條 宮内大臣ハ宮内職員及華族ノ敍位ヲ上奏シ 其ノ敍動ハ内閣總理大臣ヲ經テ上奏ス

第十四條 宮内省ニ大臣官房ヲ置ク  
大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル但シ 便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ヲ所管各部局ニ於テ處理セシムルコトヲ得

五 皇族ニ關スル事項  
第三十條 屬ハ二百四十三人判任トス 大臣官房各職及各寮ニ分屬シテ事務ニ從事ス

第三十八條 圖書寮ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

五 天皇及皇族寶錄ノ編修ニ關スル事項  
第三十九條 爵位寮ニ於テハ爵位華族及有位者ニ關スル事務ヲ掌ル

第四十九條 各寮ニ左ノ職員ヲ置ク

朕宮内官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ 茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第十九號

宮内官等俸給令中左ノ通改正ス

宮内高等官等表中「樂長」ノ次親任及一等ノ欄ニ「宗秩寮總裁」ヲ二等乃至七等ノ欄ニ「宗秩寮主事」ヲ加ヘ「爵位頭」及「爵位寮主事」ヲ削ル

宮内高等官俸給表第一號表中「式部長官」ノ下ニ「宗秩寮總裁」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕前韓國宮内府職員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

皇室令第二十號

前韓國宮内府職員ニシテ朝鮮總督ニ於テ殘務取扱ヲ命シタル者ハ當分ノ内從前ノ官職ノ區別ニ從

ヒ王族及公族ニ關スル事務ヲ掌理ス

朝鮮在住ノ王族及公族ニ附屬スル前項ノ職員ハ朝鮮總督之ヲ監督ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕宮内官内國旅費令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十二日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第二十一號 (官報 九月二十三日)

宮内官内國旅費令中左ノ通改正ス

第八條中「賜フ」ヲ「賜」ヨリ用務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ路程ニ拘ラス宿泊料ヲ賜フ」ニ改ム

第十條中「賜フ」ノ下ニ「休職中ノ者復職ヲ命セラレタルトキ亦同シ」ヲ加フ

第二十六條中「臺灣又ハ樺太」ヲ「臺灣樺太又ハ朝鮮」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

皇室令第十三號宮内官内國旅費令(明治四十三年七月十二日官報)抄録

第八條 任地所在ノ市區町村内ノ旅行ト雖陸路二里ヲ踰ユルトキハ定額ノ半額以内ノ日當ヲ賜フ

第十條 新任用スル爲召喚セラレタル者ニハ赴任ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ賜フ

第二十六條 臺灣又ハ樺太ヲ旅行スル場合ニ賜フヘキ旅費額ニ付テハ宮内大臣勅諭ヲ經テ之ヲ定ム



朕朝鮮貴族タル有爵者大禮服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月十七日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第二十二號 (官報 十二月十九日)

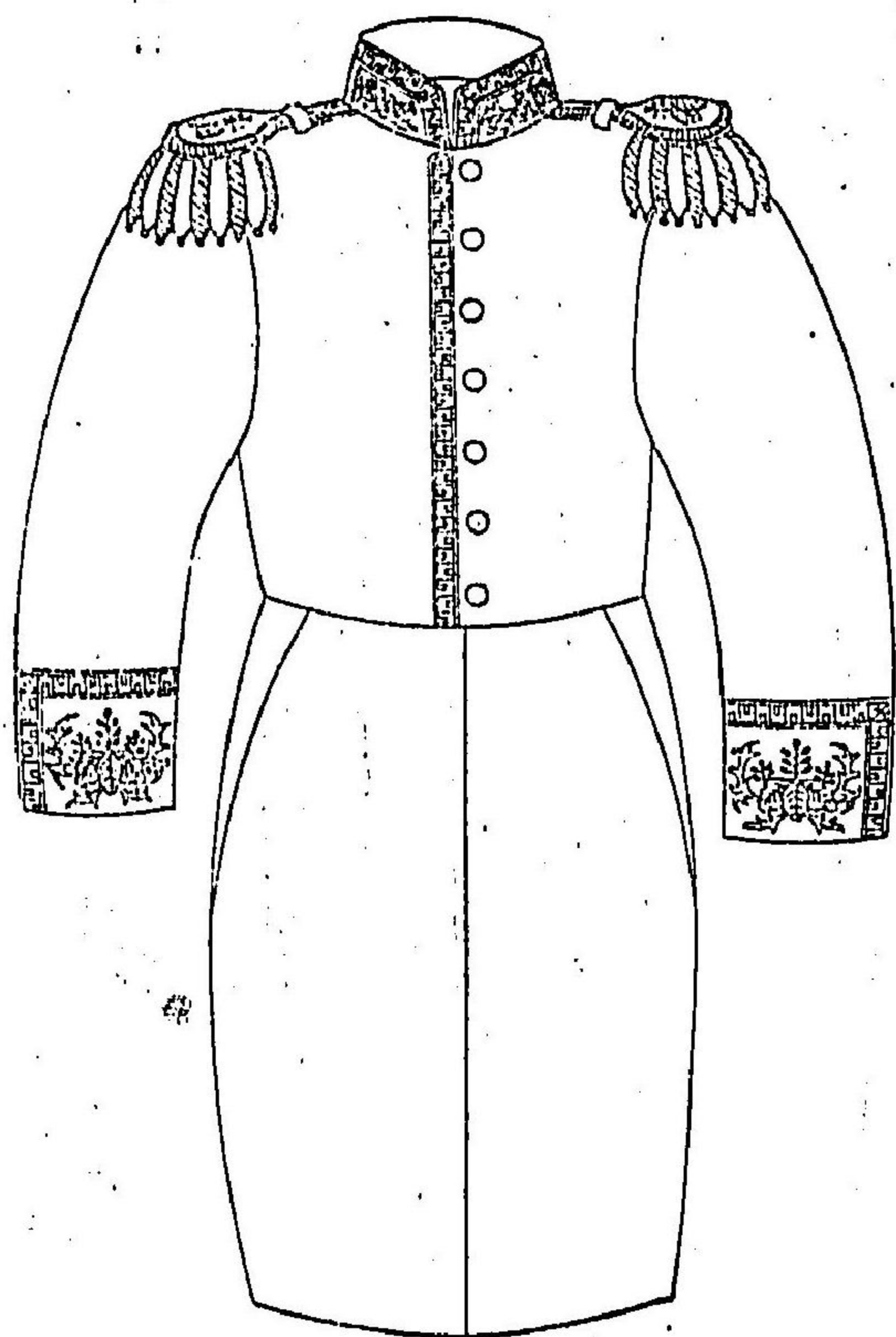
朝鮮貴族タル有爵者ノ大禮服ハ左ノ制式ニ依ル

朝鮮貴族タル有爵者大禮服制式

上		地質	公	爵	侯	爵	伯	爵	子	爵	男	爵
袖章	製式											
草模樣ヲ銀繻ス圖ノ如シ	袖口ヨリ三寸五分ヲ距リタル上部ニ幅四分ノ電紋金線一條ヲ繞ラシ後部ニ縫合ヨリ折レテ袖口ニ及ホス又上部ノ袖ト袖口トノ間地質ヲ紫色羅紗トス	燕尾形整襟前面ニ一號鈕釦七箇ヲ附シ幅四分ノ電紋金線一條ヲ以テ裾ヲ施ス後面ハ腰下ヲ割キ梁留ヨリ裾ニ至ル間左右ニ一號鈕釦各三箇ヲ附ス圖ノ如シ	同	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
シ毎半面ニ五七桐章一箇ヲ金繻シ磨	同上但シ上部ノ袖ト袖口トノ間地質ヲ緋色羅紗トス	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	同上但シ上部ノ袖ト袖口トノ間地質ヲ桃色羅紗トス	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	同上但シ上部ノ袖ト袖口トノ間地質ヲ淺黄色羅紗トス	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	同上但シ上部ノ袖ト袖口トノ間地質ヲ萌黄色羅紗トス	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

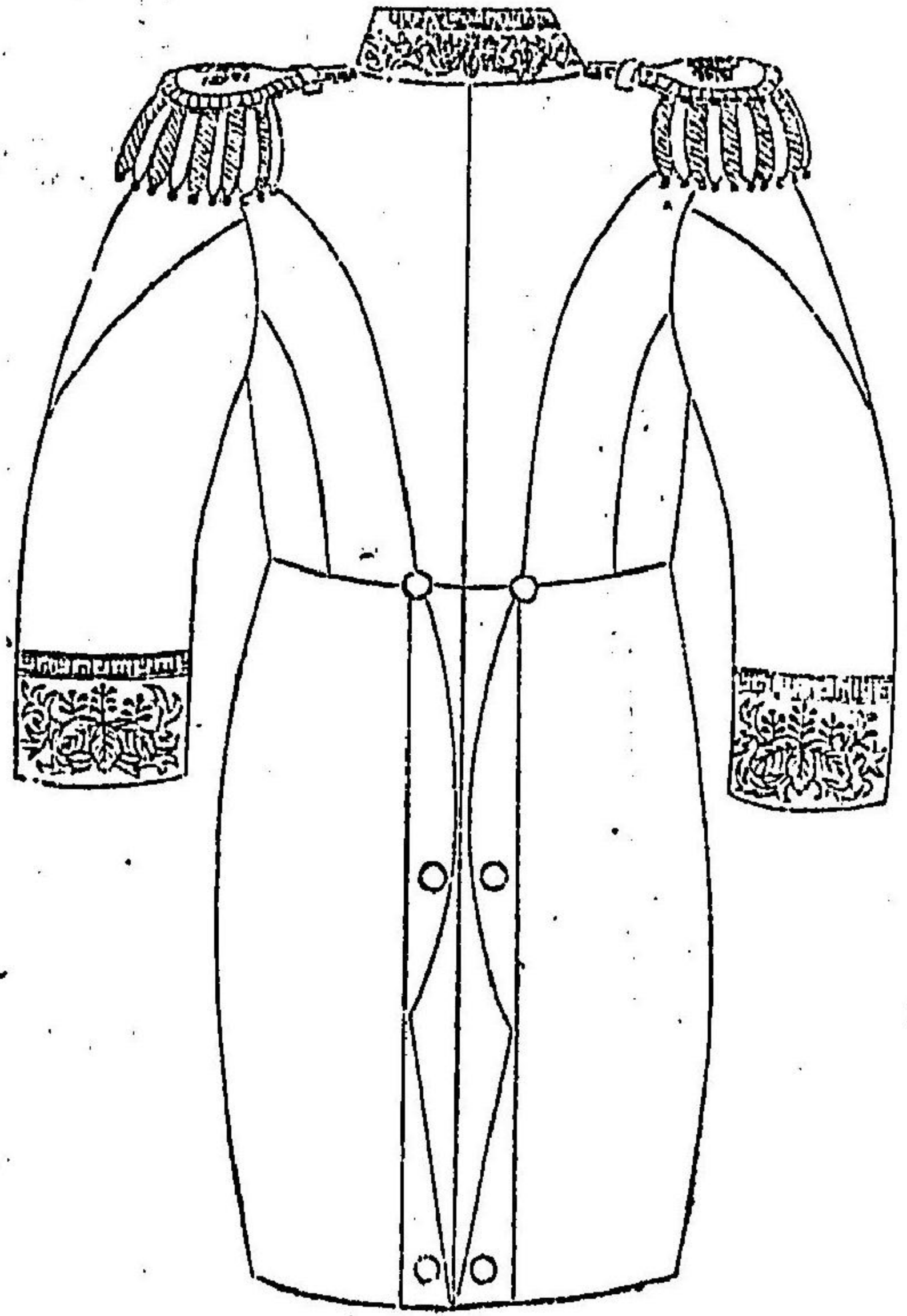
靴	手	鈕	衣						
			領章	肩章	下衣	袴	帽		
黒革短靴	白革	金色圓形五七桐草ヲ附ス一號鈕ハ徑七分五厘二號鈕ハ徑四分五厘ト	如シ	袖實金地長サ五分トシ肩當ハ幅一寸半ニ縫ハル	地實ハ深黒緋羅紗トシ外面ニ幅一寸ハ深黒緋羅紗トシ但シ大體ノト	同	同	同	同
同	同	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

上衣前面

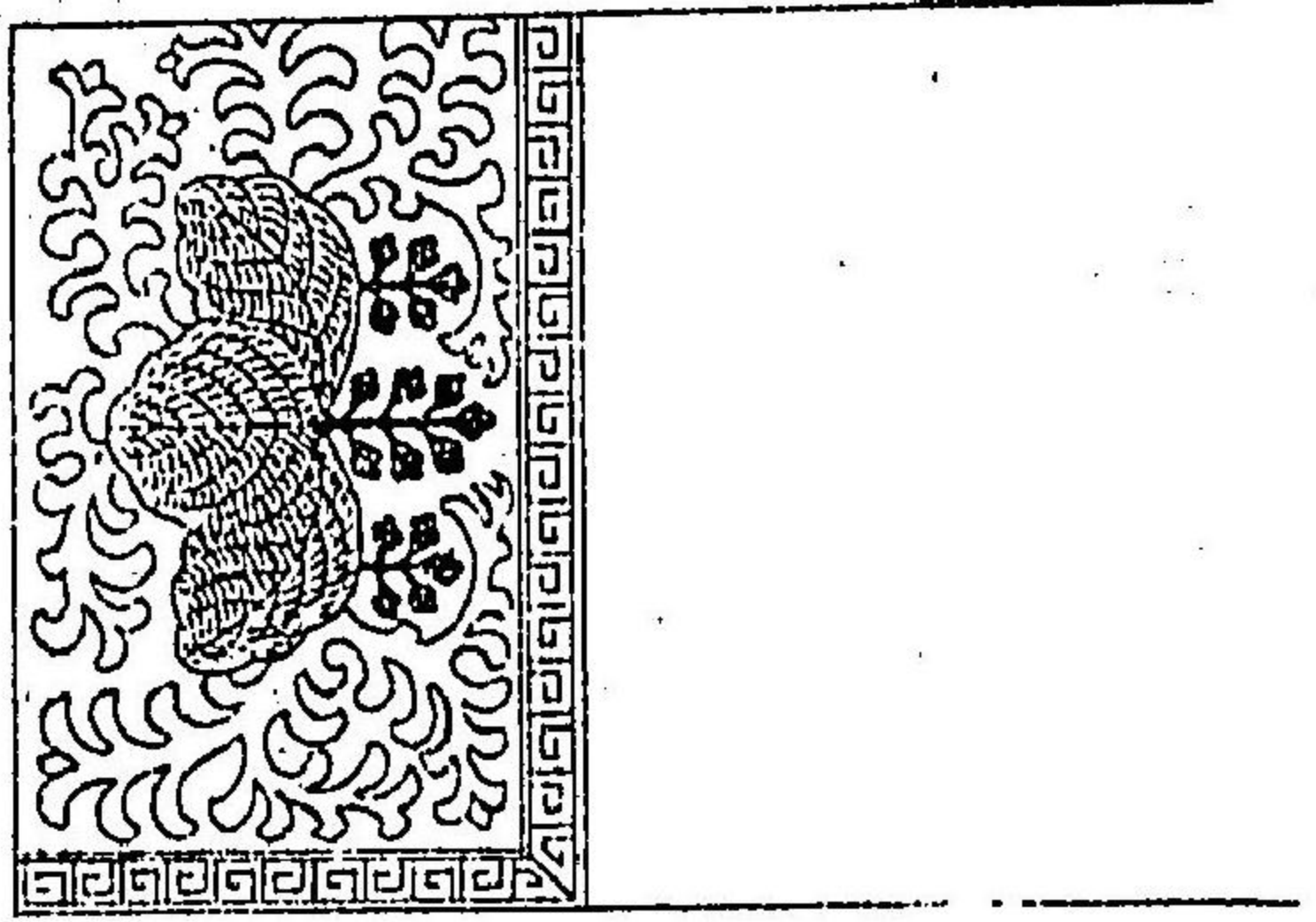


靴	手	鈕
黒革短靴	白革	金色圓形五七桐草ヲ附ス一號鈕ハ徑七分五厘二號鈕ハ徑四分五厘ト
同	同	同
同上	同上	同上
同上	同上	同上
同上	同上	同上
同上	同上	同上
同上	同上	同上
同上	同上	同上

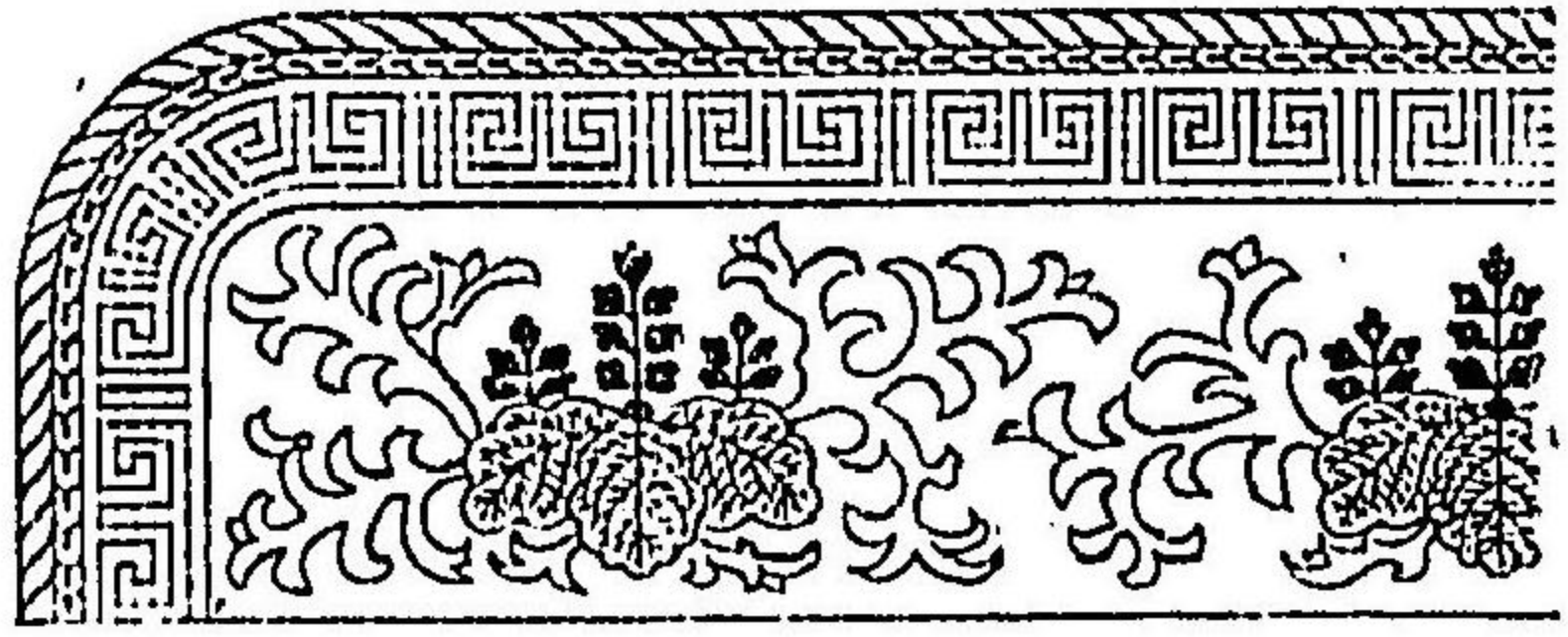
同後面



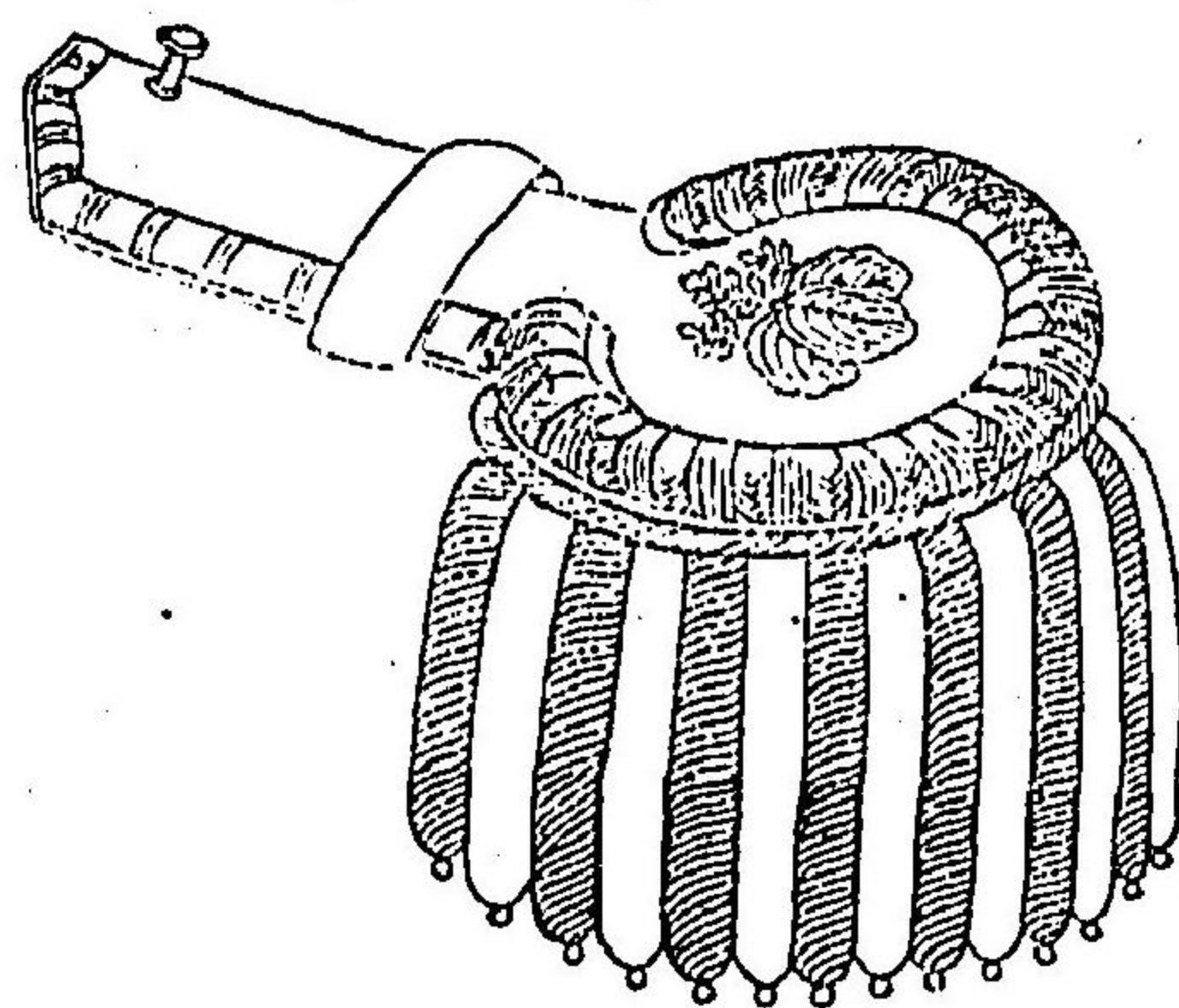
袖



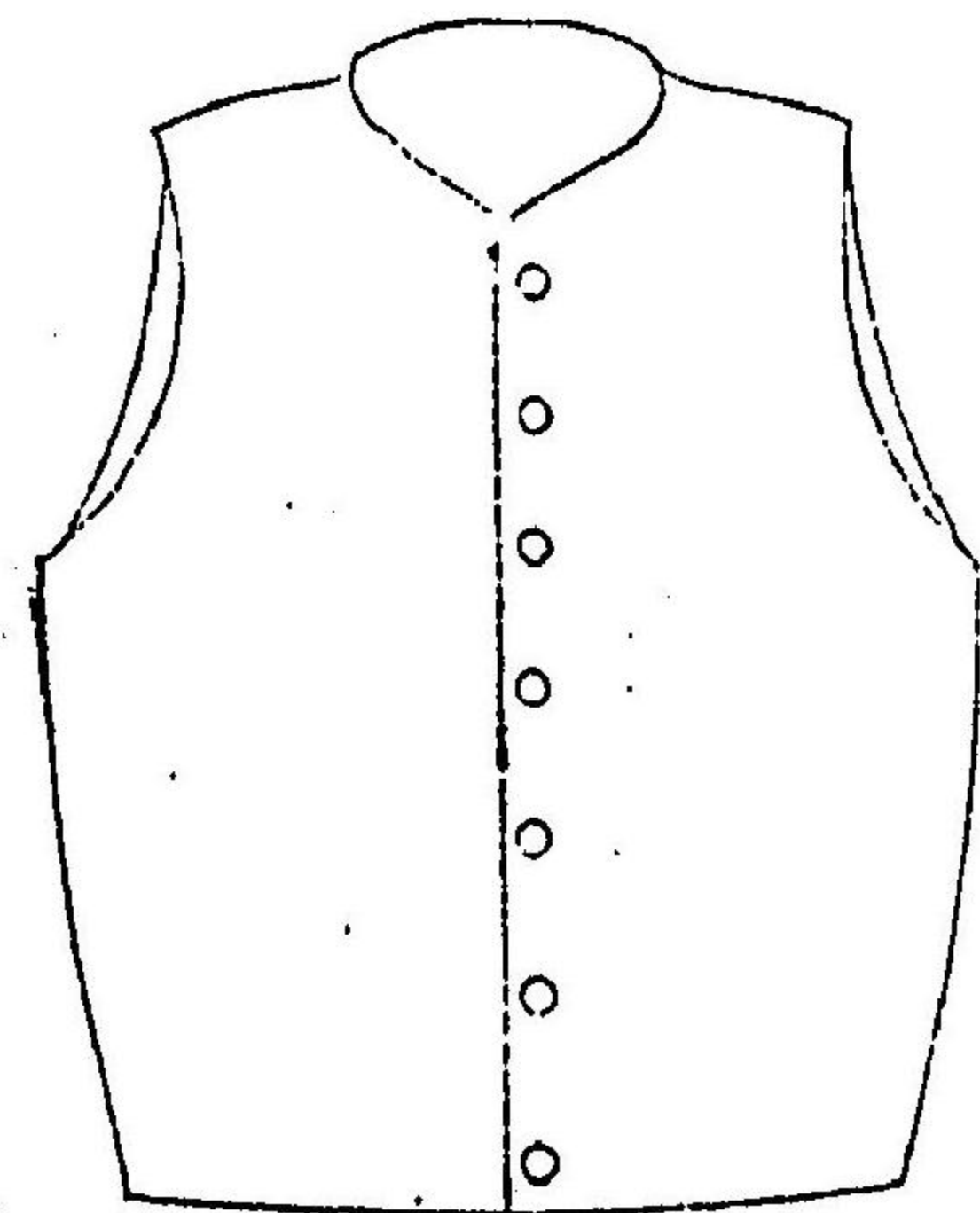
領章



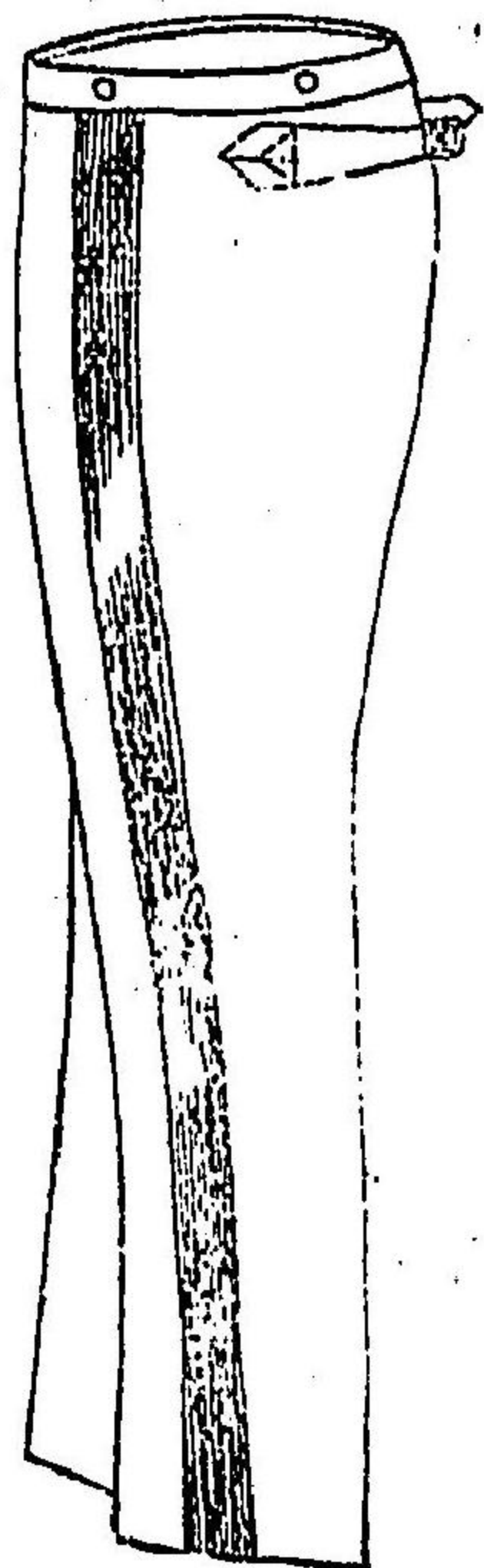
肩章



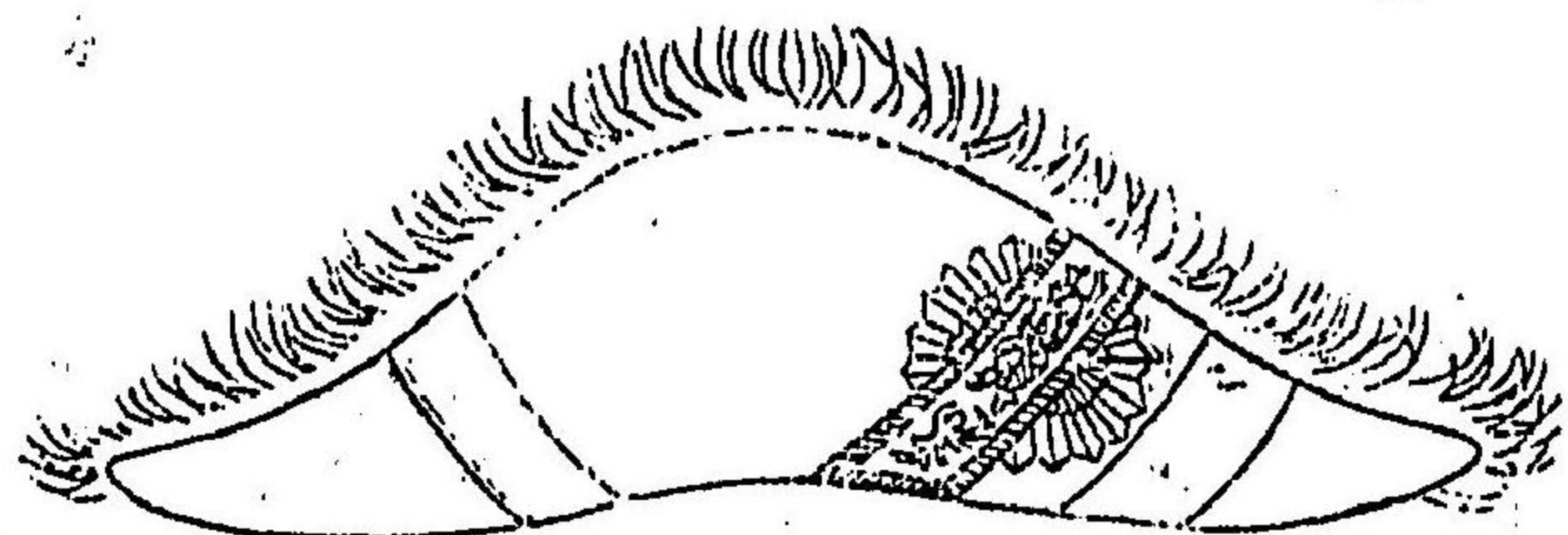
下衣



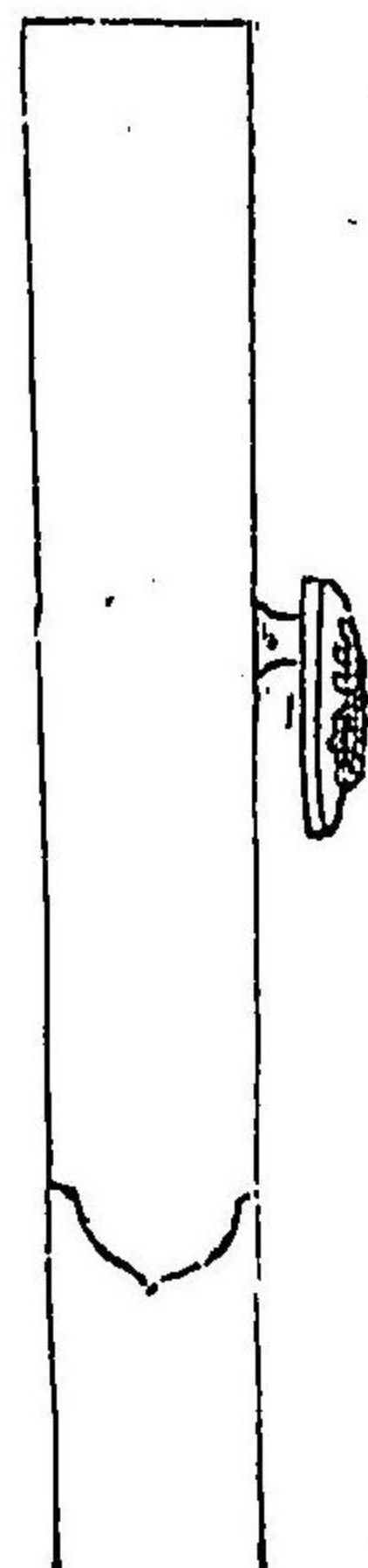
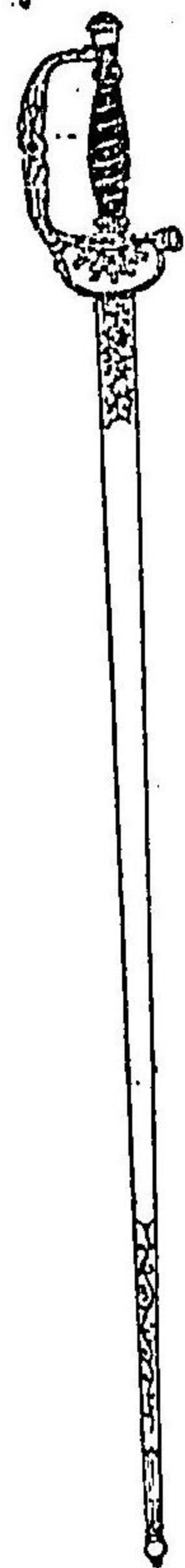
袴

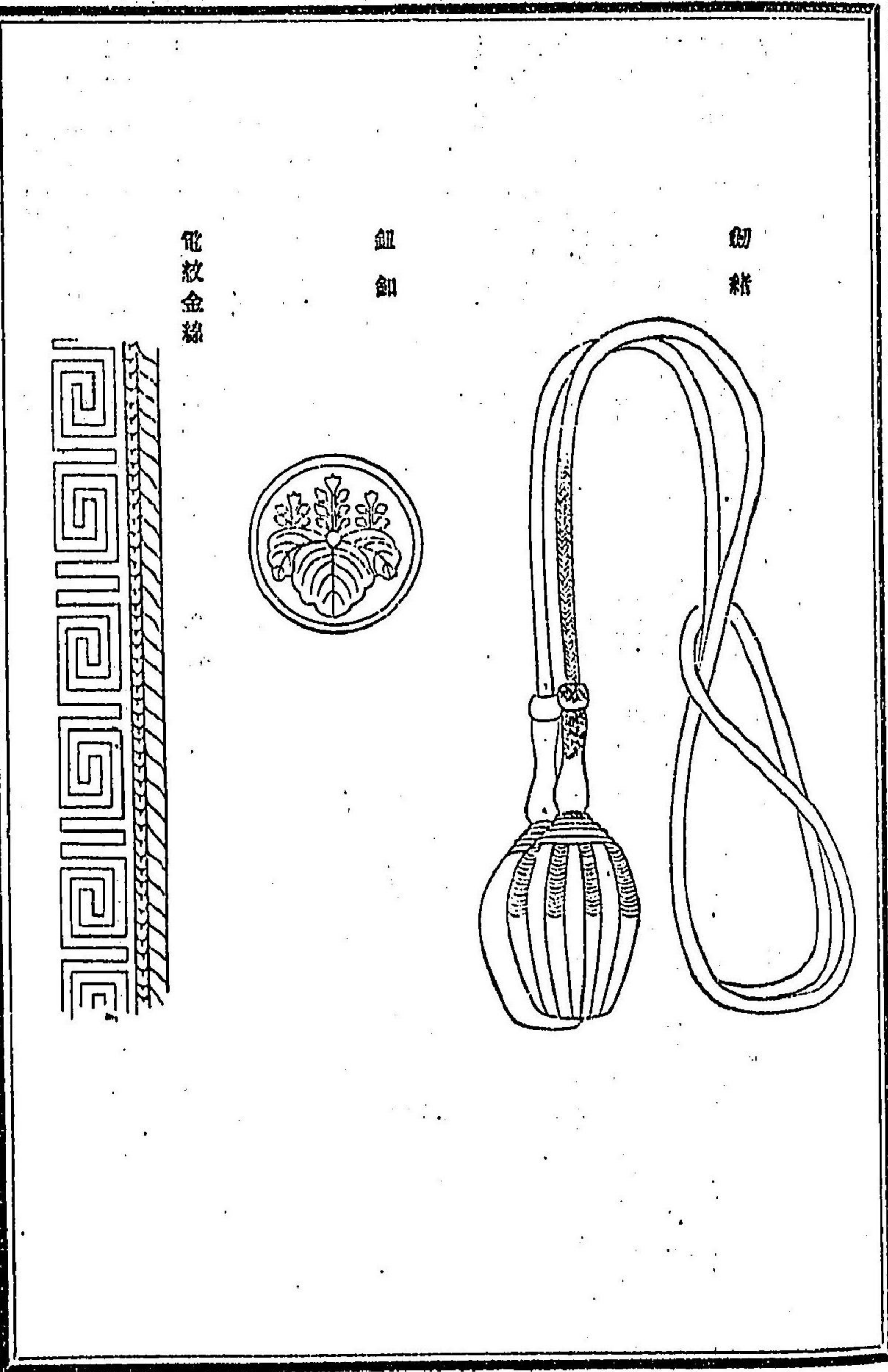
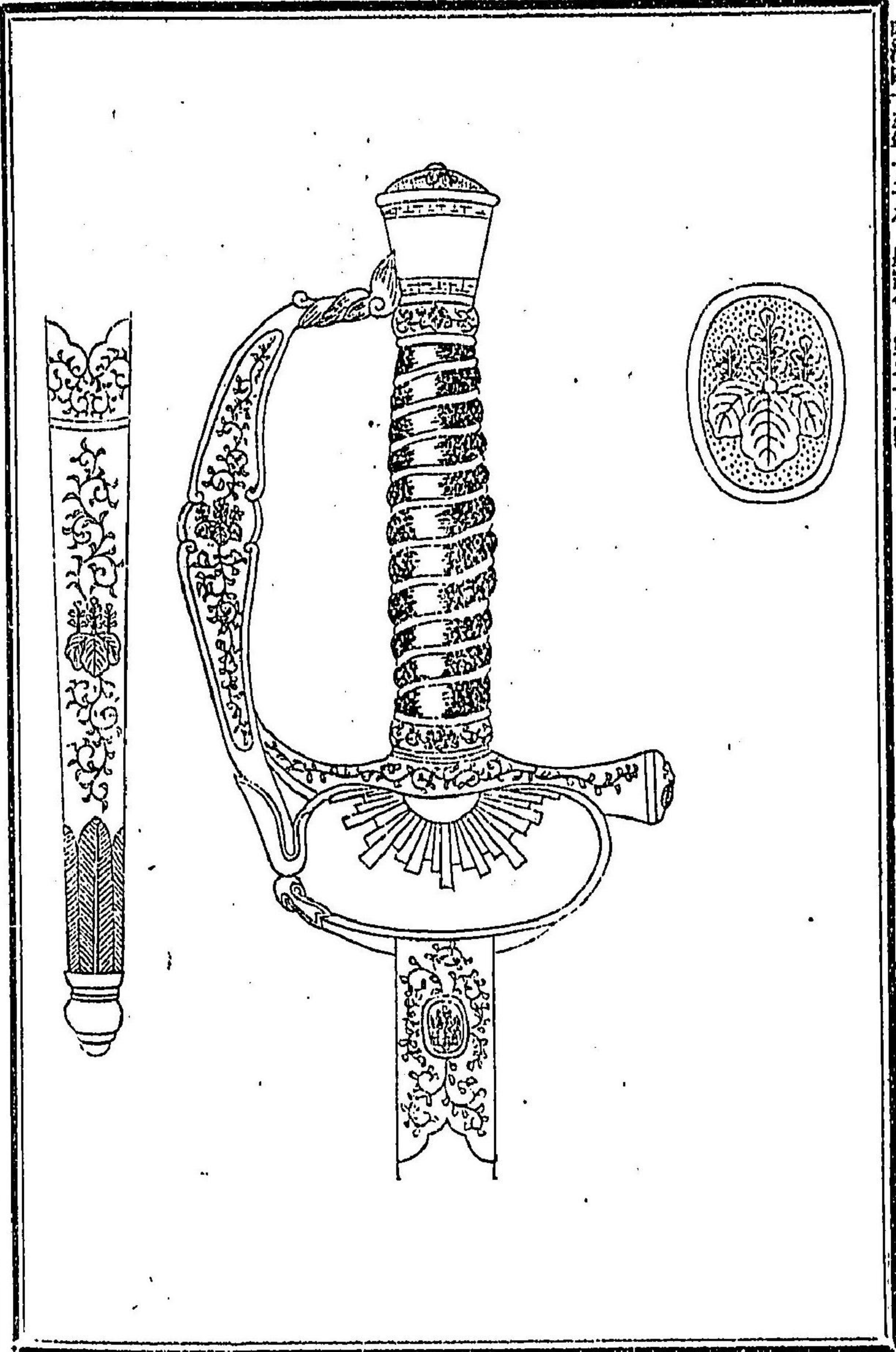


帽



劍





附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ日ヨリ一年間ニ限り特ニ燕尾服ヲ以テ本令ノ大禮服ニ代用スルコトヲ得

朕宮内省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋  
内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
内務大臣 法學博士 平田東助

皇室令第二十三號 (官報十二月二十二日)

宮内省官制中左ノ通改正ス

第二十條中「二百五十人」第三十三條ノ二中「八十人」第三十五條第五項中「六人」八人第三十六條第四項中「五十五人」第五十三條第四項中「十八人」同條第七項中「八人」第五十四條第三項中「專任二十人」第五十四條ノ第二項中「三十五人」同條第三項中「二十八人」第五十四條ノ三中「十七人」第五十六條第四項中「專任二十六人」第五十七條第四項中「八十五人」十一人「第五十八條第五項中「四人」同條第七項中「百五人」第五十九條第三項中「九人」同條第四項中「十五人」同條第五項中「一人」ヲ削ル  
第四十八條中「及雜役」ヲ「雜役及自動車」ニ改ム  
第五十九條ノ二 調度寮ニ技師及技手ヲ置ク

技師ハ一人委任トス自動車ニ關スル技術ノ事ヲ掌ル

技手ハ判任トス自動車ニ關スル技術ニ從事ス

第五十九條ノ三 宮内判任官ノ定員ハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

皇室令第三號宮内省官制(明治四十年十一月一日官報抄録)

第二十條 屬ハ二百五十人判任トス大臣官房各職及各寮ニ分屬シテ庶務ニ從事ス

第三十三條ノ二 舍人ハ八十人判任トシ名譽官トス他ノ宮内判任官ヨリ兼任ス典式ニ關スル雜務ニ從事ス

第三十五條第五項

内掌典ハ六人判任トス内一人ヲ委任トス爲スコトヲ得樂典補ハ八人判任トス共ニ樂典ニ從事ス

第三十六條第四項

樂師ハ五十五人判任トス奏樂ニ從事ス

第四十八條 調度寮ニ於テハ物品ノ購入整備及雜役ニ關スル事務ヲ掌ル

第五十三條第四項及第七項

醫員ハ十八人判任トス藥品ノ製造試驗及調劑ニ從事ス

第五十四條第三項

主膳ハ專任二十八人判任トス膳差ニ從事ス

第五十四條ノ二第二項及第三項

陵墓守長ハ三十五人判任トス陵墓看守ノ事ヲ分掌ス

陵墓名譽守部ハ二十人判任トシ名譽官トス陵墓ノ看守ニ從事ス

第五十四條ノ三 主殿寮ニ内舍人十七人ヲ配テ判任トス宮殿ノ雜務ニ從事ス

第五十六條第四項

皇宮警部ハ專任二十六人判任トス警察ニ從事ス

第五十七條第四項  
 内匠寮技手ハ五十人内苑寮技手ハ十一人共ニ判任トス技術ニ従事ス  
 第五十八條第五項及第七項  
 馬醫ハ四人判任トス馬匹ノ醫療ニ従事ス  
 技手ハ百五人判任トス牧場及車馬ニ關スル技術ニ従事ス  
 第五十九條第三項乃至第五項  
 獵場監守長ハ九人判任トス獵場管守ノ事ヲ分掌ス  
 獵場名譽監守ハ十五人判任トシ名譽官トス獵場ノ管守ニ従事ス  
 獵師ハ一人判任トス鷹隼ノ調習ニ従事ス

朕内大臣府官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 御名 御璽

明治四十三年十二月二十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第二十四號(官報十二月二十二日)  
 内大臣府官制中左ノ通改正ス  
 第七條中「六人」ヲ削ル  
 附則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕  
 皇室令第四號内大臣府官制(明治四十年十一月一日官報)抄錄  
 第七條 屬ハ六人判任トス庶務ニ従事ス

朕皇后宮職官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 御名 御璽

明治四十三年十二月二十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第二十五號(官報十二月二十二日)  
 皇后宮職官制中左ノ通改正ス  
 第五條中「九人」ヲ削ル  
 附則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕  
 皇室令第五號皇后宮職官制(明治四十年十一月一日官報)抄錄  
 第五條 屬ハ九人判任トス庶務ニ従事ス

朕東宮職官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第二十六號(官報十二月二十二日)  
東宮職官制中左ノ通改正ス  
第八條中二十七人第八條ノ二中六人ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

皇室令第六號東宮職官制(明治四十年十一月一日官報)抄録  
第八條 屬ハ二十七人判任トス庶務ニ從事ス  
第八條ノ二 内舍人ハ六人判任トス殿中ノ雜務ニ從事ス

朕皇族附職官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第二十七號(官報十二月二十二日)

皇族附職官制中左ノ通改正ス

第三條中各專任一人第四條中各專任六人ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

皇室令第七號皇族附職官制(明治四十年十一月一日官報)抄録  
第三條 家扶ハ各專任一人判任トス家令ヲ助ク  
第四條 家從ハ各專任六人判任トス庶務ニ從事ス

朕帝室會計審査局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第二十八號(官報十二月二十二日)

帝室會計審査局官制中左ノ通改正ス

第七條中十五人ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

皇室令第八號帝室會計審査局官制(明治四十年十一月一日官報)抄録  
第七條 屬ハ十五人判任トス庶務ニ從事ス

朕帝室林野管理局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽



明治四十三年十二月二十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第二十九號(官報十二月二十二日)

帝室林野管理局官制中左ノ通改正ス

第五條中「百二十六人」第六條第三項中「五百人」ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

皇室令第九號帝室林野管理局官制(明治四十年十一月一日官報)抄錄

第五條 屬八百二十六人判任トス庶務ニ從事ス

第六條第三項

技手ハ五百人判任トス技術ニ從事ス

朕御歌所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第三十號(官報十二月二十二日)

御歌所官制中左ノ通改正ス

第五條中「六人」ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

皇室令第十號御歌所官制(明治四十年十一月一日官報)抄錄

第五條 録事ハ六人判任トス庶務ニ從事ス

朕帝室博物館官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第三十一號(官報十二月二十二日)

帝室博物館官制中左ノ通改正ス

第八條中「東京帝室博物館四人京都及奈良帝室博物館各二人共ニ」第九條中「十六人」第十條中「三十六人」ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

皇室令第十一號帝室博物館官制(明治四十年十一月一日官報)抄錄

第八條 部次長ハ東京帝室博物館四人京都及奈良帝室博物館各二人共ニ判任トス部長ヲ助ク

第九條 屬八十六人判任トス庶務ニ從事ス  
第十條 技手ハ三十六人判任トス技術ニ從事ス

朕宮内官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十一日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第三十二號(官報十二月二十二日)

宮内官官等俸給令中左ノ通改正ス

宮内高等官官等表中「調度寮主事」ノ次五等乃至八等ノ欄ニ「調度寮技師」ヲ加フ

宮内判任官官等表中「鷹師」ノ次一等乃至四等ノ欄ニ「調度寮技手」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇室財産令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十三日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

内閣總理大臣兼  
大藏大臣 侯爵桂 太郎  
内務大臣 法學博士 平田東助  
司法大臣 子爵岡部長職

皇室令第三十三號(官報十二月二十四日)

皇室財産令

第一章 御料

第一節 總則

第一條 御料ハ世傳御料及普通御料トス

第二條 御料ニ關スル法律上ノ行為ニ付テハ宮内大臣ヲ以テ其ノ當事者ト看做ス但シ宮内大臣ハ所部ノ官吏ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第三條 民法第一編乃至第三編商法及附屬法令ハ皇室典範及本令其ノ他ノ皇室令ニ別段ノ定ナキトキニ限り御料ニ關シ之ヲ準用ス

第二節 世傳御料

第四條 皇室典範第四十六條ノ規定ニ依リ世傳御料ニ編入シタル財産ノ公告ニハ左ノ事項ヲ掲ク

一

土地ニ付テハ其ノ所在地目地番及面積

二 建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪

三 其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類及箇數

第五條 世傳御料ニ關スル財産ニ付テハ其ノ種類ニ從ヒ各帳簿ヲ設ケ前條ニ掲ケタル事項ノ外土

明治四十三年十二月 皇室令 第三十三號 皇室財産令

地ニ付テハ由緒建物ニ付テハ建造者年代及由緒其ノ他ノ物件ニ付テハ製作者筆者年代及由緒ヲ登録スヘシ

前項ニ掲ケタル事項ノ外宮内大臣ニ於テ必要ト認メタルモノハ勅裁ヲ經テ之ヲ臺帳ニ登録スルコトヲ得

第六條 世傳御料ニ屬スル土地ノ臺帳ニハ圖面及疆界簿ヲ添附シ建物ノ臺帳ニハ圖面ヲ添附スヘシ

第七條 世傳御料ニ屬スル財産ノ臺帳ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第八條 世傳御料ニ屬スル財産ハ重大ナル事由ヲ生シタル場合ニ限り其ノ解除ヲ爲スコトヲ得前項ノ解除ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九條 世傳御料ニ屬スル財産ハ必要アルトキハ勅裁ヲ經テ之ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ修補改築スルコトヲ得

第十條 前二條ノ場合ニ於テハ臺帳ニ事由ヲ附記シ且異動ノ登録ヲ爲スヘシ登録又ハ附記ノ事項ニ異動ヲ生シタル場合亦同シ

前二條ノ場合ヲ除シノ外世傳御料ニ屬スル財産ニ異動ヲ生シタルトキハ勅裁ヲ經テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ勅裁ヲ經テ臺帳ノ登録又ハ附記ヲ訂正スヘシ

一 登録又ハ附記ノ事項若ハ文字ニ錯誤アリタルトキ

二 土地ノ登録面積實測面積ト異ナルトキ

第十二條 第五條及前二條ノ規定ニ依リ登録附記又ハ訂正ヲ爲シタルトキハ臺帳ニ其ノ年月日ヲ

記入シ宮内大臣主管部局ノ長官及圖書頭之ニ捺印スヘシ

第十三條 世傳御料ニ關シ公告ヲ經タル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ宮内大臣之ヲ公告ス

第十四條 世傳御料ノ果實ハ普通御料ニ屬ス變更修補又ハ改築ニ因リテ生シタル材料亦同シ

第十五條 世傳御料ニ屬スル土地ノ上ニ新ニ物權ヲ設定スルハ公用又ハ公益事業ノ爲ニ必要ナル場合ニ限ル

前項ノ規定ニ依リテ物權ヲ設定スルニハ樞密顧問ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十六條 世傳御料ニ屬スル土地ノ上ニ物權ヲ設定シタルトキハ宮内大臣之ヲ公告ス其ノ公告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

前項ノ公告ハ登記ト同一ノ效力ヲ有ス

第十七條 前條ニ規定シタルモノヲ除クノ外世傳御料ニ編入シタル不動産ニ關スル權利ハ登記ヲ爲サスシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得

登記シタル不動産ヲ世傳御料ニ編入シタル場合ニ於テハ宮内大臣ハ遲滞ナク其ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第三節 普通御料

第十八條 普通御料ニ屬スル財産ニ付テハ其ノ種類ニ從ヒ必要ナル帳簿又ハ目錄ヲ設ケ之ニ其ノ

現況價格及異動ヲ登録シ土地ニ付テハ圖面及疆界簿ヲ添附スヘシ但シ公用又ハ公益事業ニ供スル物件ニ付テハ其ノ現況及價格ヲ登録スルコトヲ要セス

第十九條 普通御料ニ屬スル財産ノ帳簿又ハ目錄ハ主管部局ニ於テ保管ス

第二十條 内廷ニ屬スル財産ノ管理ニ關スル規程ハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

第二章 皇族財產

第一節 總則

第二十一條 第二條第三條及第十八條乃至第二十條ノ規定ハ太皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃未タ婚嫁セサル未成年ノ皇子及皇太子皇太孫ノ子ニシテ未タ婚嫁セサル未成年者ノ財產ニ關シ之ヲ準用ス

第二十二條 民法第一編乃至第三編商法及附屬法令並公益ノ爲ニスル財產ノ收用徵發又ハ制限ニ關スル法令ハ皇室典範及本令其ノ他ノ皇室令ニ別段ノ定ナキトキニ限り皇族ニ之ヲ適用ス但シ前條ニ掲ケタル皇族ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 皇族臣籍ニ在ル者ノ遺贈ニ因リテ受遺者タルトキハ民法第五編第六章及第七章ノ規定ニ依ル

太皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃ハ遺贈ヲ受クルコトナシ

第二節 治産能力

第二十四條 未タ婚嫁セサル未成年ノ皇族財產ニ關スル法律上ノ行爲ヲ爲スニハ其ノ法定代理人ノ同意ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十五條 前條ノ規定ハ法定代理人ニ於テ處分ヲ認諾セル財產ニ關スル行爲及單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルヘキ行爲ニ之ヲ適用セス

第二十六條 前二條ノ規定ハ皇室典範第五十三條ニ依ル禁治産者ニ之ヲ準用ス

第二十七條 皇族精神ノ重患アルトキハ勅旨ヲ以テ禁治産ヲ宣告スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ禁治産ヲ宣告セラレタル者ハ之ヲ後見ニ付ス

第二十八條 前條ノ禁治産者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十九條 皇族精神ノ耗弱ナルトキ又ハ身體ノ重患アルトキハ勅旨ヲ以テ準禁治産ヲ宣告スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ準禁治産ヲ宣告セラレタル者ハ之ニ保佐人ヲ附ス

民法第十二條第一項及第三項ノ規定ハ準禁治産者ニ之ヲ準用ス

第三十條 禁治産又ハ準禁治産ノ原因止ミタルトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ解除ス

第三十一條 禁治産又ハ準禁治産ノ宣告及解除ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第三十二條 禁治産又ハ準禁治産ノ宣告及解除ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十三條 保佐人ハ勅選ニ由ル

第三十四條 未成年者及女子ハ保佐人タルコトヲ得ス

第三十五條 保佐人ハ正當ノ事由アルトキハ勅許ヲ經テ辭任ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 保佐人ノ解任ハ勅旨ニ由ル

第三十七條 民法第十九條及第二十條ノ規定ハ未タ婚嫁セサル未成年者禁治産者及準禁治産者ノ行爲ニ之ヲ準用ス

第三十八條 本節ノ規定ハ太皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃未タ婚嫁セサル未成年ノ皇子及皇太子皇太孫ノ子ニシテ未タ婚嫁セサル未成年者ニ之ヲ適用セス

第三節 遺留財產

第三十九條 皇族男子ハ遺留財產ヲ設定シ又ハ之ヲ増加スルコトヲ得

第四十條 遺留財産ヲ設定又ハ増加セムト欲スル者ハ遺言ヲ以テ其ノ意思ヲ表示スルコトヲ得  
第四十一條 未ダ婚嫁セサル未成年者禁治産者及準禁治産者ハ遺留財産ヲ設定シ又ハ増加スルコ  
トヲ得ス

第四十二條 遺留財産ヲ設定又ハ増加セムト欲スル者ハ其ノ財産ノ目錄ヲ添ヘ其ノ旨ヲ宮内大臣  
ニ申述スヘシ  
第四十條ノ場合ニ於テハ遺言ノ效力ヲ生シタル後相續人又ハ其ノ法定代理人ニ於テ遲滞ナク前  
項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十三條 前條ノ申述アリタルトキハ宮内大臣ハ財産ノ目錄ヲ審査シ支障ナシト認メタルトキ  
ハ其ノ財産ニ付キ之ヲ遺留財産ト爲サムトスル申述アリタル旨ヲ勅裁ヲ經テ一週間公告スヘシ  
前項ノ公告ニハ土地ニ付テハ其ノ所在地目及地番建物ニ付テハ其ノ所在及種類其ノ他ノ物件ニ  
付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項ヲ掲クヘシ

第四十四條 前條ノ規定ニ依リ公告シタル財産ニ關シ權利ヲ主張セムト欲スル者ハ前條第一項ノ  
公告期間満了ノ後三十日以内ニ故障ヲ宮内大臣ニ申出ツルコトヲ要ス  
前項ノ期間内ニ故障ノ申出ナキトキハ登記ナキ權利ハ之ヲ主張スルコトヲ得ス登録國債ニ付キ  
登録ナキ權利亦同シ

第四十五條 宮内大臣ハ故障ノ申出ナキ財産ニ限リ之ヲ遺留財産ト爲スコトニ付キ勅許ヲ受クヘ  
第四十六條 遺留財産ノ設定又ハ増加ノ勅許アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ旨及第四十三條第二  
項ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ

第四十七條 遺留財産ニ付テハ彙帳ヲ設ケ之ニ左ノ事項ヲ登録スヘシ  
一 遺留財産設定増加ノ申述者又ハ遺言者  
二 勅許ノ年月日  
三 土地ニ付テハ其ノ所在地目地番及面積建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪其ノ他ノ物件  
ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項

第四十八條 遺留財産中有價證券アルトキハ之ニ遺留財産タル旨ヲ記入シ登録國債アルトキハ國  
債登録簿ニ遺留財産タル旨ノ登録ヲ經ヘシ  
第四十九條 遺留財産ノ相續ハ其ノ所有者タル皇族ノ薨去ニ因リテ開始ス  
第五十條 遺留財産ハ設定者ヨリ出テタル男系ノ皇族男子皇位繼承ノ順序ニ依リ之ヲ相續ス  
第五十一條 遺留財産ノ相續ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス  
第五十二條 遺留財産ノ相續アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ旨ヲ公告シ且之ヲ彙帳ニ附記スヘシ

第五十三條 遺留財産ハ勅許ヲ經テ其ノ管理ヲ宮内大臣ニ委託スルコトヲ得  
第五十四條 相續開始前ノ申述ニ係ル遺留財産ノ設定又ハ増加ニ付キ相續開始ノ後勅許アリタル  
トキハ其ノ設定又ハ増加ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生ス遺言ニ基ツク遺留財産ノ設定  
又ハ増加ノ勅許アリタルトキ亦同シ

第五十五條 遺留財産ノ果實ハ遺留財産ニ屬セス變更修補又ハ改築ニ因リテ生シタル材料亦同シ  
第五十六條 遺留財産ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス  
第五十七條 遺留財産ニ付キ地上權永小作權又ハ地役權ヲ設定セムトスルトキハ勅許ヲ受クヘシ  
遺留財産ハ之ヲ執行行為ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第五十八條 遺留財産所有者ハ勅許ヲ經テ遺留財産ノ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得

第五十九條 第四十條乃至第四十二條及第五十四條ノ規定ハ遺留財産ノ廢止ニ之ヲ準用ス

第六十條 遺留財産ノ相続人ナキトキハ之ヲ廢止シタルモノト看做ス

第六十一條 遺留財産ノ廢止其ノ他ノ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ宮内大臣ハ其ノ旨ヲ公告シ且

臺帳ニ事由ヲ附記シテ異動ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ第四十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六十二條 本節ノ規定ハ皇太子皇太孫ニ之ヲ適用セス

第四節 遺産相続

第六十三條 遺産相続ハ皇族ノ薨去ニ因リテ開始ス

第六十四條 遺産相続ハ左ノ順位ニ依ル

第一 直系昇屬

第二 配偶者

第三 直系尊屬

第四 兄弟姉妹

前項ノ規定ニ依リ直系昇屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テ遺産相続ヲ爲スハ親等ノ異ナリタル者ノ間

ニ在リテハ其ノ近キ者ヲ先ニシ親等ノ同キ者ハ同順位ニ於テス

第六十五條 前條ノ規定ニ依リ遺産相続ヲ爲スヘキ直系昇屬相続開始前ニ薨去又ハ死亡シタル場

合ニ於テ其ノ者ニ直系昇屬アルトキハ其ノ直系昇屬ハ其ノ者ノ順位ニ於テ遺産相続ヲ爲ス

第六十六條 遺産相続人相続ノ拋棄ヲ爲サムト欲スルトキハ自己ノ爲ニ相続ノ開始アリタルコト

ヲ知リタル時ヨリ三箇月内ニ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申述スヘシ

遺産相続人前項ノ期間内ニ拋棄ノ申述ヲ爲サザリシトキハ相続ノ承認ヲ爲シタルモノト看做ス

第六十七條 遺産相続人ハ相続ノ承認前ニ於テ相続財産ヲ處分スルコトヲ得ス共同相続人ノ承認

又ハ拋棄前亦同シ

第六十八條 相続財産ハ相続ノ承認アルマテ宮内大臣之ヲ管理ス共同相続人ノ承認又ハ拋棄前亦

同シ

前項ノ規定ハ遺言執行者アル場合ニ之ヲ適用セス

第六十九條 同順位ノ遺産相続人數人アルトキハ其ノ各自ノ相続分ハ相均キモノトス但シ直系昇

屬數人アルトキハ庶子ノ相続分ハ嫡出子ノ相続分ノ二分ノ一トス

第七十條 第六十五條ノ規定ニ依リテ遺産相続人タル直系昇屬ノ相続分ハ其ノ直系尊屬ノ受ク

ヘカリシモノニ同シ但シ直系昇屬數人アルトキハ其ノ各自ノ直系尊屬ノ受クヘカリシ部分ニ付

キ前條ノ規定ニ從ヒテ其ノ相続分ヲ定ム

第七十一條 被相続人ハ前二條ノ規定ニ拘ラス遺言ヲ以テ共同相続人ノ相続分ヲ定ムルコトヲ得

被相続人ニ於テ共同相続人中ノ一人又ハ數人ノ相続分ノミヲ定メタルトキハ他ノ共同相続人ノ

相続分ハ前二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第七十二條 被相続人ハ遺言ヲ以テ相続財産分割ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第七十三條 相続財産ノ分割ニ付キ協議調ハサルトキハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ爲ス

第七十四條 民法第九百六十八條第一千一條乃至第一千三條第九條第一千一條乃至第一千十六條第千

十八條第一千九條第千二十二條及第千三十九條ノ規定ハ皇族ノ遺産相続ニ之ヲ準用ス

第七十五條 遺産相続人ナキトキハ宮内大臣遺産ノ清算ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ宮内大臣ヲ以テ遺産ニ關スル法律上ノ行爲ノ當事者ト看做ス但シ宮内大臣ハ所部ノ官吏ヲシテ代理セシムルコトヲ得

宮内大臣ハ過滞ナク一切ノ相続債權者及受遺者ニ對シ二箇月内ニ其ノ請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スヘシ

第七十六條 前條第二項ノ期間満了ノ後宮内大臣ハ相続債權者及受遺者ニ辨濟ヲ爲シ仍殘餘財産アルトキハ其ノ財産ハ普通御料ニ歸屬ス

民法第三十一條乃至第三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ宮内大臣ノ命シタル評價人ヲシテ之ヲ評價セシム

第七十七條 前條第一項ノ規定ニ依リ殘餘財産普通御料ニ歸屬シタルトキハ相続債權者及受遺者ハ其ノ權利ヲ失フ

第七十八條 皇族臣籍ニ在ル者ノ遺産相続人タルトキハ民法第五編第二章乃至第四章及第七章ノ規定ニ依ル

第七十九條 本節ノ規定ハ天皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃ニ之ヲ適用セス但シ其ノ遺産ハ普通御料ニ歸屬ス

第三章 帝室經濟會議

第八十條 帝室ノ經濟ニ關スル事項ヲ諮詢スル爲帝室經濟會議ヲ置ク

第八十一條 帝室經濟會議ニ諮詢スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

一 皇室經費ノ豫算ニ關スル事項

二 第二豫備金ノ支出其ノ他豫算外ノ支出ニ關スル事項

三 世傳御料ノ編入及解除ニ關スル事項

四 世傳御料ニ屬スル土地ノ上ニ設定スル物權ニ關スル事項

五 重要ナル財産權ノ得喪ニ關スル事項

第八十二條 帝室經濟會議ハ内大臣宮内大臣及勅命セラレタル帝室經濟顧問七人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第八十三條 宮内次官内藏頭帝室林野管理局長官及帝室會計審查局長官ハ帝室經濟會議ニ列シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第八十四條 帝室經濟會議ニ關シ必要ナル規程ハ其ノ會議ニ於テ之ヲ議定シ勅裁ヲ受クヘシ

第八十五條 帝室經濟會議ニ關スル庶務ハ宮内高等官ヲシテ之ヲ管掌セシム

附則

第八十六條 本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十七條 國有林野法第四條乃至第六條ノ規定ハ御料ニ屬スル林野ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル疆界査定ニ不服アル隣接地所有者疆界査定ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ三箇月内ニ通常裁判所ニ訴訟ヲ提起セサルトキハ其ノ疆界査定ハ確定シタルモノト看做ス

朕皇王職官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月三十日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第三十四號

李王職官制

第一條 李王職ハ宮内大臣ノ管理ニ屬シ王族及公族ノ家務ヲ掌ル

第二條 李王職ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

次官

事務官

贊侍

典祀

典醫

技師

屬

典祀補

典醫補

技手

第三條 長官ハ一人勅任トス李王職一切ノ事務ヲ總理シ所部職員ヲ指揮監督ス

第四條 次官ハ一人勅任トス長官ヲ輔ケ長官事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條 事務官ハ三十六人奏任トス内三人ヲ勅任ト爲スコトヲ得庶務ヲ分掌ス

第六條 贊侍ハ十二人奏任トス内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得李王及李太王ニ近從シ身側ノ事ヲ分掌ス

第七條 典祀ハ八人奏任トス名譽官ト爲スコトヲ得祭祀及墳塋ニ關スル事務ヲ分掌ス

第八條 典醫ハ六人奏任トス診候調藥及衛生ノ事ヲ分掌ス

第九條 技師ハ三人奏任トス建築土木及園藝ニ關スル技術ノ事ヲ分掌ス

第十條 屬ハ判任トス庶務ニ從事ス

第十一條 典祀補ハ判任トス祭祀ニ從事ス

第十二條 典醫補ハ判任トス醫務ニ從事ス

第十三條 技手ハ判任トス建築土木及園藝ノ技術ニ從事ス

第十四條 李太王ニハ事務官七人贊侍三人典醫二人屬及典醫補ヲ王世子ニハ事務官贊侍典醫各一人屬及典醫補ヲ公族ニハ事務官各二人及屬ヲ分屬セシム

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕宮内官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月三十日

宮内大臣 子爵渡邊千秋





委任官及判任官ニ在リテハ職務ノ繁簡ニ從ヒ別表ノ定限ニ依ラサルコトヲ得但シ官等相當俸給ノ  
最高額ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

高等官俸給表	
勅任官	奏任官
一級俸 三千圓	一級俸 二千二百圓
二級俸 二千五百圓	二級俸 二千圓
	三級俸 一千六百圓
	四級俸 一千二百圓
	五級俸 八百圓
	六級俸 六百圓
	七級俸 四百圓
	八級俸 三百圓

判任官俸給表	
一級俸 五十圓	二級俸 三十五圓
三級俸 二十五圓	四級俸 十五圓
五級俸 十圓	六級俸 十圓
七級俸 十圓	八級俸 十圓
九級俸 十圓	十級俸 十圓

朕宮内官任用令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月三十日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第三十七號

宮内官任用令中左ノ通改正ス

第五條中「内大臣祕書官」ノ下ニ「李王職職員」ヲ加フ

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

皇室令第十四號宮内官任用令(明治四十年十一月一日官報)抄録  
第五條 前四條ノ規定ハ親任式ヲ以テ任スル宮内官宮中顧問官侍從長侍從職幹事式部長官式部次官典儀長典儀次長侍從頭  
内大臣祕書官長皇后宮大夫東宮大夫東宮侍從長別當御歌所長宮内大臣祕書官内大臣祕書官皇后宮職女官及東宮職女官ニ  
之ヲ適用セス

朕宮内官分限令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月三十日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第三十八號

宮内官分限令中左ノ通改正ス

第八條中「東宮侍從」ノ下ニ「李王職職員」ヲ加フ

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

皇令第十五號宮内省分限令(明治四十年十一月一日官報抄録)

第八條 本令ハ親任式ヲ以テ任スル官ニ在ル者宮内大臣秘書官侍從次侍從内大臣秘書官東宮侍從皇后宮職女官及東宮職女官ニ之ヲ適用セシム

朕朝鮮ニ於ケル李王職ノ事務及朝鮮ニ在勤スル李王職職員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月三十日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

皇令第三十九號

第一條 朝鮮ニ於ケル李王職ノ事務及朝鮮ニ在勤スル李王職職員ハ朝鮮總督之ヲ監督ス

第二條 朝鮮總督ニ於テ朝鮮ニ在勤スル李王職職員宮内省懲戒令ニ依リ免官又ハ減俸ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ罷免ヲ具ヘ書面ヲ以テ李王職職員懲戒委員ノ審査ニ付スヘシ

第三條 朝鮮ニ在勤スル李王職職員ノ免官及減俸ハ李王職職員懲戒委員ノ議決ヲ具シテ朝鮮總督之ヲ宮内大臣ニ移牒ス

第四條 朝鮮ニ在勤スル李王職職員ノ譴責ハ朝鮮總督之ヲ行フ

第五條 李王職職員懲戒委員ハ五人トシ朝鮮總督府高等官及李王職高等官ノ内ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕李王職經費ノ支辨及李王歲費ノ收支監督ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月三十日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

皇令第四十號

李王職ノ經費ハ恩給遺族扶助料及退官賜金ヲ除クノ外李王ノ歲費ヲ以テ之ヲ支辨ス

李王歲費ノ收支ハ朝鮮總督之ヲ監督ス

前項ノ收支ノ豫算及決算ハ朝鮮總督ノ審査ヲ經タル後宮内大臣之ヲ認可ス

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮ニ在勤スル宮内官ノ恩給遺族扶助料及退官賜金ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月三十日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第四十一號

第一條 朝鮮ニ在勤スル宮内官ニシテ三年以上引續キ在職シタル者ノ恩給遺族扶助料及退官賜金ノ在官年數ヲ計算スル場合ニ於テハ其ノ在職一箇月ニ對シ半箇月ヲ加算ス但シ從軍年ノ加算アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ加算ハ朝鮮ニ到着シタル日ニ始マル

第三條 本令ノ規定ハ朝鮮人タル宮内官ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

法令全書

法律

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル家畜市場法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月十七日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

農商務大臣 男爵大浦兼武

法律第一號(官報三月十八日)

家畜市場法

第一條 本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛馬羊豚ヲ謂フ

第二條 家畜市場ヲ開設セムトスル者ハ市場業務規程ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ市場業務規程ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 家畜市場ノ開設許可ノ期間ハ二十年以内ニ於テ地方長官之ヲ定ム但シ期間更新ノ出願ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ市町村共ノ他之ニ準スヘキモノ又ハ産牛馬組合法ニ依リ設置シタル組合ノ市場ニ付テハ之ヲ適用セス

第四條 市町村共ノ他之ニ準スヘキモノニ於テ常設家畜市場ヲ開設スルトキハ地方長官ハ其ノ申

請ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ經テ必要ト認ムル地區内ニ於ケル私設家畜市場ノ廢止ヲ命スルコトヲ得但シ産牛馬組合法ニ依リ設置シタル組合ノ市場ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ場合ニ於テハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ廢場ヲ命セラレタル私設家畜市場ノ開設者ニ對シ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ決定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六條 家畜市場ニ於テハ其ノ場内又ハ其ノ附屬ノ場所ニ在ル家畜ニ非サレハ之ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第七條 家畜ノ賣買交換ヲ業トスル者ハ家畜市場附近ノ區域内ニ於テハ市場開催日及其ノ開催日前後ノ期間中共ノ市場ノ取扱フ家畜ヲ賣買交換スルコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 常設家畜市場ニ付主務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官ノ指定シタル區域内ニ於テハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ市場ノ取扱フ家畜ニ付市場ヲ開設スルコトヲ得ス

第九條 地方長官必要アリト認ムルトキハ常設家畜市場ニ付其ノ市場ノ取扱フ家畜ニ關シ指定シタル區域内ノ牛馬宿ニ於ケル賣買交換ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十條 前三條ノ區域及期間ノ指定、變更又ハ取消ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十一條 家畜市場開設者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ市場ノ取扱フ家畜ノ賣買交換ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 家畜市場ニ於テ家畜ノ賣買交換ニ關スル行爲ヲ爲ス者ハ其ノ市場ノ業務規程ヲ知ラザルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第十三條 家畜市場及其ノ附屬建設物ノ構造、設備、市場ノ取引方法、仲立業者ノ資格其ノ他市場ノ監督及衛生上必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 主務大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ官吏又ハ吏員ヲシテ家畜市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ臨檢シ市場開設者若ハ仲立業者ノ帳簿、書類其ノ他ノ物品ヲ検査シ又ハ市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ在ル家畜ヲ診斷シ又ハ其ノ移動ヲ停止セシムルコトヲ得

第十五條 家畜市場ノ休場又ハ廢止ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 家畜市場開設者カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ主務大臣若ハ地方長官公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ家畜市場ノ開設許可ヲ取消シ又ハ業務ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得

主務大臣又ハ地方長官公益上必要アリト認ムルトキハ家畜市場及其ノ附屬建設物ノ位置、構造、設備又ハ市場業務規程ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十七條 許可ヲ受ケスシテ家畜市場ヲ開設シ又ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル停止若ハ制限ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第六條第七條第一項第十一條第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者第九條ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者又ハ第十四條ノ規定ニ依ル停止ノ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十四條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者又ハ臨檢検査ノ際當該官吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 家畜市場開設者又ハ家畜ニ關スル營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 家畜市場開設者又ハ家畜ニ關スル營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十三條 本法ハ皇室、政府、北海道地方費又ハ府縣ノ行フ家畜ノ賣買交換ニ之ヲ適用セス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前地方長官ノ許可又ハ認可ヲ得タル家畜市場ハ本法施行後二年ヲ限リ本法ニ依リ許可セ

ラレタルモノト看做ス但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ許可又ハ認可ノ期間三年以内ナルトキハ其ノ期間ニ依ル

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租條例中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

大藏大臣

法律第二號 (官報 三月二十五日)

地租條例中左ノ通改正ス

第一條 地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

宅地 地價百分ノ二箇半

田畑 地價百分ノ四箇七

其他ノ土地 地價百分ノ五箇半

北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分左ノ稅率ニ依ル

田畑 地價百分ノ三箇四

其他ノ土地 地價百分ノ四箇

本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第三條中「郡村宅地、市街宅地」ヲ「宅地」ニ改メ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ

第四條第一項中「鄉村社地」ヲ「府縣社地、鄉村社地、招魂社地但有料借地ハ此限ニ在ラス」ニ改ム  
 第五條中「市街宅地」ヲ「宅地」ニ改ム  
 第七條 地價ハ左ノ場合ニ該當スルニ非サレハ之ヲ修正セス

- 一 地目又ハ地類ヲ變換シタルトキ
- 二 開墾シタルトキ
- 三 開拓跡下年期明ニ至リタルトキ
- 四 荒地免租年期明ニ至リ原地價ニ復シ難ク若クハ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ

第十條 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出ヘシ  
 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ其地價ヲ修正ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十條ノ一及第十條ノ二ヲ削ル  
 第十一條 地租ヲ課スル土地ヲ地租ヲ課セサル土地ト爲シ又ハ地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ政府ニ届出ヘシ但之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノニ付テハ此限ニ在ラス  
 地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ其地ノ現況ニ依リ直ニ其土地ノ地價ヲ定ム但第十六條第四項ノ場合ハ此限ニ在ラス  
 第十二條 地租ハ左ノ期限ニ依リ之ヲ徵收ス

一 宅地

第一期 其年七月一日ヨリ  
 同七月三十一日限 地租額二分ノ一  
 第二期 翌年一月一日ヨリ  
 同一月三十一日限 地租額二分ノ一

二 田

第一期 其年十二月十六日ヨリ  
 翌年一月十五日限 地租額四分ノ一  
 第二期 翌年二月一日ヨリ  
 同二月末日限 地租額四分ノ一  
 第三期 翌年三月一日ヨリ  
 同三月三十一日限 地租額四分ノ一  
 第四期 翌年五月一日ヨリ  
 同五月三十一日限 地租額四分ノ一

三 其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ  
 同九月三十日限 地租額二分ノ一  
 第二期 其年十一月一日ヨリ  
 同十一月三十日限 地租額二分ノ一

特殊ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ特別ノ納期ヲ設クルコトヲ得

第十四條 地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十五條 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其届出アリタル後又ハ  
 共事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス  
 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ地價設定後ニ開始スル納期ヨリ  
 地租ヲ徵收ス但地價設定後ニ開始スル納期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ其納期  
 分ノ地租ハ之ヲ徵收セス  
 前二項ノ規定ハ荒地免租年期若クハ低價年期許可ノ場合又ハ荒地免租年期明若クハ新開免租年  
 期明ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條中「耕地ノ區劃若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ」ヲ削リ「地方廳ヲ」政府ニ改メ第二項ニ左  
 ノ但書ヲ加フ  
 但地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ開墾シタルモノニ在リテハ其成功ノ部分ニ對シ直ニ其地價  
 ヲ修正ス

第十七條中第十條ノ二ノ規定ヲ準用スヲ「其年ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徵收  
 ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後届出アリタルトキハ翌年分地租ヨリ開墾又ハ變  
 換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ  
 前項ノ場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對ス  
 ル地租額ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ開墾又ハ變換地目ニ對スル地價トシ修正地  
 價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第二十二條中「其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム」ヲ「地價ヲ修正ス」ニ改ム  
 第二十四條ノ二 收稅官吏ハ土地ノ検査ヲ爲シ又ハ納稅義務者若クハ所有者ニ對シ必要ノ事項ヲ

尋問スルコトヲ得

第二十五條及第二十六條中「罰金」ヲ「罰金又ハ料料」ニ改ム

附 則

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年分地租ノ徵收ニ關シテハ仍舊法ヲ  
 適用ス

宅地以外ノ土地ノ稅率ハ明治四十三年分地租ヨリ之ヲ適用ス  
 非常特別稅法中地租ニ關スル規定ハ宅地ニ付テハ明治四十三年分地租限其ノ他ノ土地ニ付テハ明  
 治四十二年分地租限之ヲ廢止ス

本法施行前地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタル土地ニシテ地價ヲ修正セサルモノハ本法施行ノ際  
 其ノ地價ヲ修正シ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

本法施行前地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ニシテ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ラサル  
 モノニ付テハ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

明治二十四年法律第二號、明治三十年法律第五號及宅地組換法ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

第七號布告地租條例(明治十七年三月十五日)抄錄  
 第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地實際ニ據ケタル價格ヲ謂フ

明治三十二年分ヨリ同三十六年分迄地租ニ於テ地價千分ノ八市街宅地地租ニ於テ地價百分ノ二箇半ヲ徵收ス

第三條第一項

有租地ヲ區別シテ二類トナス

第一類 田、畑、町村宅地、市街宅地、鹽田、礦泉地



第三類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第四條第一項

左に掲ぐる土地ニ付テハ其地租ヲ免ス

三 鄉村社地

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用テ六尺ヲ間ト爲シ方格開ヲ以テ歩ト爲シ三拾歩ヲ間ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方格開ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ均ト爲ス

第七條 地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ非サレハ之ヲ修正セズ

第十條 一 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

第十條ノ二 前條第一項ノ届出アリタルトキハ其年ヨリ變換地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部納付後届出アリタルトキハ翌年ヨリ變換地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

前項ノ開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出致下年期ノ許可ヲ受ケテハ之ニ對シ地價ヲ修正ス但年期中ハ免租地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其開拓地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ歳下年期ノ許可ス但年期中ハ免租地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有ノ水面ヲ埋立長クニ歸セシ土地ハ五年以内ノ新開免租年明ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價據置年明ヲ許可スルコトヲアルヘシ

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土地又ハ開墾歳下年期若クハ地價據置年明ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目變換シタルトキハ其旨旨政府ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ第十條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第十八條 低價年明明ニ至リ尙ホ原地價ニ依リ地租ヲ徵收スモノノ及ビ荒地免租年明明ニ至リ原地目ニ復セシ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十五條 土地ヲ取除シ地租ヲ據置スル者ハ四割以上四十割以下ノ罰金ニ處シ別地目ニ依リ地價ヲ定メ取除年明ノ地租ヲ免收ス但免收ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條ニ違反スル者ハ三割以上三十割以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ免收ス但免收ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

明治二十四年三月十六日 法律第二號ハ地租徵收期限ノ件、同三十年三月十日同第五號ハ大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島地租徵收期限ノ件ナリ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル宅地地價修正法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎  
大藏大臣 侯爵大藏

法律第三號 (官報 三月二十五日)  
宅地地價修正法

第一條 本法ニ於テ宅地ト稱スルハ郡村宅地及市街宅地ヲ謂フ

第二條 本法施行ノ際ニ於ケル宅地ノ地價ハ本法ニ依リ之ヲ修正ス

第三條 宅地ノ修正地價ハ本法ニ依リ定メタル賃賃價格ノ十倍トス但賃賃價格ノ十倍カ市街宅地ニ在リテハ現在地價ノ十八倍郡村宅地ニ在リテハ現在地價ノ七倍二割ヲ超ユルトキハ市街宅地ニ在リテハ現在地價ノ十八倍郡村宅地ニ在リテハ現在地價ノ七倍二割ヲ以テ其ノ地價トス

前項ニ依ル修正地價總額カ現在地租總額ヲ百分ノ二箇半ヲ以テ除シタルモノヲ超ユルトキハ現在地租ヲ百分ノ二箇半ヲ以テ除シタルモノヲ以テ修正地價總額トシ前項ニ依ル修正地價ニ按分

明治四十三年三月 法律 第三號 宅地地價修正法

シテ毎筆ノ地價ヲ定ム

本法ニ於テ貸貸價格ト稱スルハ貸主カ公課、修繕費其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ貸貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ヲ謂フ

第四條 宅地ノ貸貸價格ハ宅地貸貸價格調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス

政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス  
左ノ場合ニ於テハ政府ニ於テ宅地ノ貸貸價格ヲ決定ス

- 一 調査委員會成立セサルトキ
- 二 調査委員會ノ調査ニ付シタル日ヨリ六十日以内ニ調査終了セサルトキ
- 三 調査委員會ノ再議ニ付スルモ其ノ決定仍不當ト認ムルトキ
- 四 調査委員會ノ再議ニ付シタル日ヨリ二十日以内ニ調査終了セサルトキ

第五條 稅務署長ハ所轄内各市町村ニ於ケル宅地ノ貸貸價格ヲ調査シ宅地貸貸價格調査委員會ニ提出スヘシ

第六條 各稅務署所轄内ニ宅地貸貸價格調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ市制ヲ施行スル地方ヲ包含スルトキハ市制ヲ施行スル地方ト其ノ他ノ地方トニ區別シテ之ヲ置ク

調査委員ノ定數ハ十八トス但シ地方ノ狀況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得

第七條 調査委員ハ調査委員選舉人之ヲ選舉ス調査委員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

調査委員ハ其ノ職務ノ終了ニ因リ解任ス

第八條 調査委員選舉人ノ定數ハ其ノ選舉區域内ニ於テ宅地ノ地租ヲ納ムル義務アル者五十八ニ

付一人トス但シ義務者千人以上ナルトキハ二十人ニ止メ義務者五十人未満ナルトキハ一人トス

第九條 調査委員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ調査委員選舉人ノ選舉區域ハ市町村ノ區域ニ依ル

第十條 選舉執行ノ日ニ於テ現ニ地租名寄帳ニ宅地地租納稅者トシテ登錄セラレタル者ハ當該選舉區域内ニ於テ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ニ記載スル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 無能力者
  - 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
  - 三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者
  - 四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者
  - 五 六年未満ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終ル迄ノ者又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
- 第十一條 調査委員選舉人及調査委員ノ選舉並調査委員會ノ會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十二條 政府ハ其ノ決定シタル貸貸價格ニ依リ修正地價ヲ定メ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ
- 市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ市役所又ハ町村役場ニ於テ二十日間其ノ市町村内ニ於テ宅地ノ地租ヲ納ムル義務アル者又ハ其ノ納稅管理人ノ縱覽ニ供スヘシ

第十三條 宅地ノ地租ヲ納ムル義務アル者又ハ其ノ納稅管理人修正地價ニ不服アルトキハ縦覽期間満了ノ日ヨリ三十日以内ニ政府ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第十四條 前條ノ申立アリタルトキハ政府ハ修正地價ヲ決定シ之ヲ異議申立者ニ通知スヘシ

第十五條 前條ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十六條 本法中市トアルハ東京市、京都市、大阪市、北海道及沖繩縣ニ在リテハ區トス  
附則 戸長ノ職務ヲ行フ區域ハ本法ニ於テハ之ヲ町村ト看做ス

第十七條 本法ニ依リ地價ヲ修正シタル宅地ニ付テハ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十八條 本法施行後明治四十三年十二月三十一日迄ノ間ニ於テ地租條例ニ依リ地價ヲ設定シ又ハ修正シタル宅地ニ付テハ更ニ本法ニ依リ地價ヲ修正シタル類地ノ比準ニ依リ地價ヲ修正シ明治四十四年分地租ヨリ其ノ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十九條 荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル宅地ニ付テハ本法ニ依リ地價ノ修正ヲ爲サス年期明ニ至リ類地ノ比準ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

荒地免租年期ヲ有スル宅地ニシテ低價年期ヲ許可セラレタルトキハ其ノ年期明ニ至リ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十條 本法施行前耕地整理法又ハ明治三十年法律第三十九號ニ依リ耕地ノ整理又ハ土地ノ改良ニ著手シ事業成功ニ至ラサル地區内ニ在ル宅地ニ付テハ本法ニ依リ地價ノ修正ヲ爲サス事業成功ニ至リ本法ニ依リ地價ヲ修正シタル類地ノ比準ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

第二十一條 開墾著手後九年ヲ經過セサル宅地又ハ銀下年期若ハ地價據置年期ヲ有スル宅地ニ付テハ本法ニ依リ地價ノ修正ヲ爲サス開墾著手後十年目又ハ年期明ニ至リタルトキ類地ノ比準ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

第二十二條 前三條ノ場合ニ於テ地租ヲ徵收スヘキ宅地ニ付テハ其ノ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄左ノ各號ニ依リ地租ヲ徵收ス

一 北海道ノ宅地ニ在リテハ現地價ニ對スル百分ノ三箇四ノ地租額ヲ百分ノ二箇半ヲ以テ除シタルモノヲ以テ地價トシ之ニ對スル地租ヲ徵收ス

二 府縣ノ宅地ニ在リテハ現地價ニ對スル百分ノ四箇七ノ地租額ヲ百分ノ二箇半ヲ以テ除シタルモノヲ以テ地價トシ之ニ對スル地租ヲ徵收ス

前項ノ規定ハ明治四十四年分地租ヨリ之ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル相續稅法中改正法律ヲ認可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣兼 大藏大臣 侯爵桂太郎

法律第四號(官報三月二十五日)  
相續稅法中左ノ通改正ス

第三條中「慈善」ヲ「慈善其ノ他ノ公益」ニ改ム

第八條 相続税ノ課税價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

課税價格	家督相續	
	稅	率
五千圓以下ノ金額	相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ	相續人カ被相續人ノ指定シタル者民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者被相續人ノ家族タル直系卑屬又ハ入夫ナルトキ
五千圓以上ノ金額	千分ノ十	千分ノ十二
一萬圓ヲ超ニル金額	千分ノ十二	千分ノ十四
二萬圓ヲ超ニル金額	千分ノ十四	千分ノ十七
三萬圓ヲ超ニル金額	千分ノ十七	千分ノ二十
四萬圓ヲ超ニル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五
五萬圓ヲ超ニル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十
七萬圓ヲ超ニル金額	千分ノ三十	千分ノ三十五
十萬圓ヲ超ニル金額ハ其ノ五萬圓毎ニ(百圓以上ノ金額ニシテ)リテ止ム	千分ノ三十五	千分ノ四十

遺産相續

課税價格	稅		率
	相續人カ直系卑屬ナルトキ	相續人カ配偶者又ハ直系卑屬ナルトキ	
千圓以下ノ金額	千分ノ十五	千分ノ十七	相續人カ其ノ他ノ者ナルトキ
千圓ヲ超ニル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	
五千圓ヲ超ニル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	
一萬圓ヲ超ニル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	
二萬圓ヲ超ニル金額	千分ノ三十	千分ノ三十五	
三萬圓ヲ超ニル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十	
四萬圓ヲ超ニル金額	千分ノ四十	千分ノ四十五	
五萬圓ヲ超ニル金額	千分ノ四十五	千分ノ五十	
七萬圓ヲ超ニル金額	千分ノ五十	千分ノ五十五	
十萬圓ヲ超ニル金額ハ其ノ五萬圓毎ニ(百圓以上ノ金額ニシテ)リテ止ム	千分ノ五十五	千分ノ六十	

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相續ニ關シテハ遺産相續ニ關スル稅率ヲ適用ス但シ相續人二人以上アル場合ニ於テ其ノ適用スヘキ稅率相異ルトキハ其ノ最低キ稅率ヲ適用ス

第十條中「三年」ヲ「五年」ニ、「五年」ヲ「七年」ニ改ム

第十七條中「三年」ヲ「五年」ニ改ム

第二十四條及第二十五條中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

附則

本法ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相続ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

〔參照〕

法律第十號相續稅法(明治三十八年一月一日官報)抄録

第三條第四項

公共團體又ハ慈善事業ニ對シタル贈與及遺贈ハ課稅價格ニ算入セス

第八條

相續稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ逐次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

家督相續

課稅價格	稅		率
	相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ	相續人カ被相續人ノ指定シタル者又ハ民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者被相續人ノ家族タル直系卑屬又ハ入夫ナルトキ	
五千圓以下ノ金額	千分ノ十二	千分ノ十五	千分ノ二十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	千分ノ十七	千分ノ二十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ三十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ四十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ三十五	千分ノ四十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十	千分ノ五十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ四十五	千分ノ五十五
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ五十五	千分ノ六十五
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十五	千分ノ六十	千分ノ七十五
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ六十五	千分ノ八十
二十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
六十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
八十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
九十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
百圓以上ノ金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十

遺產相續

課稅價格	稅		率
	相續人カ直系卑屬ナルトキ	相續人カ配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ	
千圓以下ノ金額	千分ノ十五	千分ノ十七	千分ノ二十五
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ三十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ四十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ三十五	千分ノ四十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十	千分ノ五十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ四十五	千分ノ五十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	千分ノ五十	千分ノ六十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ五十五	千分ノ六十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十五	千分ノ六十	千分ノ七十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ六十五	千分ノ八十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
二十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
六十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
八十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
九十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十
百圓以上ノ金額	千分ノ七十	千分ノ七十	千分ノ九十

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相続ニ關シテハ遺產相續ニ關スル稅率ヲ適用ス

第十條 相續稅ヲ課セラレタル後五年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ノ半額ニ相當スル相續稅ヲ免除ス

第十七條第一項 相續稅ハ一時ニ之ヲ納付スヘシ但シ稅金額百圓以上ナルトキハ相續稅ニ相當スル擔保ヲ提供シ三年以内ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得

第二十四條 第十一條ニ依リ提出シタル書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ相續稅ノ違脫ヲ圖リ又ハ遺脫シタル者ハ其ノ違脫シ又ハ遺脫セムトシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ自首シタル者ハ其ノ稅金ヲ徵收シ其ノ罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十一條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル通行税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣兼  
大藏大臣 侯爵桂太郎

法律第五號 (官報 三月二十五日)

通行税法

第一條 汽車、電車及汽船ノ乗客ニハ左ノ區別ニ依リ通行税ヲ課ス

二百哩又ハ二百海里以上	一等	金五十錢
	二等	金二十五錢
	三等	金四錢
二百哩又ハ二百海里未滿	一等	金四十錢
	二等	金二十錢
	三等	金三錢
百哩又ハ百海里未滿	一等	金二十錢
	二等	金十錢

五十哩又ハ五十海里未滿

二等	金二錢
一等	金五錢
二等	金三錢
三等	金一錢

往復乗船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ往復ノ里程ヲ通算シテ之ヲ徵收ス  
貸切、多人數、回数又ハ定期乗船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ第一項税額ノ五倍ヲ徵收ス

第二條 通行税ヲ課スヘキ場合ニ於テ汽車、電車又ハ汽船ニシテ等級ヲ分メサルモノニ在リテハ  
三等ノ税率ヲ適用シ二等級ニ分チタルモノニ在リテハ二等三等ノ税率ヲ適用シ一等級ノ上又ハ  
三等級ノ下ニ更ニ等級ヲ設ケタルモノニ在リテハ一等又ハ三等ノ税率ヲ適用ス

第三條 左ノ場合ニ於テハ通行税ヲ課セス

一 外國行ノ汽船ニ乗シ外國ニ赴クトキ

二 鐵道軍事供用令ニ依リ乗車スルトキ

第四條 通行税ハ汽車、電車又ハ汽船營業者乗船車賃金ヲ領收スルトキ之ヲ徵收スヘシ  
前項ニ依リ徵收シタル通行税ハ毎月取纏メ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納付スヘシ

第五條 汽車、電車又ハ汽船營業者前條ニ依リ徵收スヘキ通行税ヲ納付セサルトキハ國稅徵收法  
ニ依リ該營業者ヨリ之ヲ徵收ス

第六條 收稅官吏ハ汽車、電車又ハ汽船營業者ノ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第七條 回数乗船車券ハ之ヲ分割販賣スルコトヲ得ス違反スル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
非常特別稅法中通行稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒精造石稅徵收猶豫及免除ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎  
大藏大臣

法律第六號 (官報 三月二十五日)

第一條 酒精及酒精含有飲料稅法ニ依リ納付スヘキ酒精ノ造石稅ハ其ノ稅額ニ相當スル擔保ヲ提  
供シタルトキハ三月以内其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ニ依リ造石稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル者猶豫期間内ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ  
稅金ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保物ハ之ヲ公賣ニ付シ公賣ノ費用及稅金ニ充テ不足アルトキハ之  
ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス  
擔保ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 造石稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル酒精ヲ其ノ猶豫期間内ニ工業用酒精酒類共ノ他酒精含有

飲料及稅法ノ規定スル所ニ從ヒ工業用ニ使用又ハ供給シタルトキハ其ノ石數ニ相當スル酒精ニ  
付テハ造石稅ヲ免除ス

第三條 前條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ其ノ酒精カ造石稅ノ徵收猶豫ヲ  
受ケタルモノナルコトヲ證スヘキ書類並工業用ニ使用又ハ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添  
附スルコトヲ要ス

第四條 詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタル者ハ其ノ造石稅五倍ニ  
相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命  
令ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル織物消費稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎  
大藏大臣

法律第七號 (官報 三月二十五日)

織物消費稅法

第二條 織物ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス

- 第二條 消費税ノ税率ハ織物ノ價格百分ノ十トス
- 第三條 左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ免除ス
  - 一 外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物
  - 二 製造者カ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物消費税ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税額ニ相當スル金額ヲ交付ス
- 第四條 消費税ハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ製造者ニ於テ織物ニ其ノ價格ヲ表記シ消費税ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ消費税ノ納付ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ製造者ヲ以テ引取人ト看做ス
- 第五條 印紙ヲ貼用スル場合ニ於テ消費税額一錢未滿ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス
- 第六條 消費税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ政府ハ三月以内消費税ノ徵收ヲ猶豫ス
- 第七條 消費税ヲ納付シ又ハ消費税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者ハ其ノ織物ニ納税済證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納税済證ノ貼付ヲ受クルコトヲ得
- 第八條 左ニ掲クル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ納付セシメシテ織物ヲ引取ルトコトヲ得
  - 一 他ノ製造場ニ移出シ又ハ藏置場ニ藏置スル爲織物ヲ引取ルトキ
  - 二 染色、捺染、刺繡其ノ他ノ加工ヲ爲ス爲製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ引取ルトキ
  - 三 一定ノ場所ニ於テ消費税ヲ納付スル爲政府ノ定メタル條件ニ從ヒ製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ引取ルトキ

- 前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス
- 第八條 消費税ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル織物ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ種類及數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ織物ヲ製造場ヨリ引取ルトモ更ニ消費税ノ徵收ヲ爲サス
  - 第九條 第四條第一項但書及第七條ノ場合ヲ除クノ外製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際織物ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ
  - 第十條 前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定ス
  - 第十一條 織物引取人前項ノ評定價格ニ不服アルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
  - 第十二條 異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス
  - 第十三條 異議申立人ノ主張ニ依ル價格ト前項ノ決定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス
  - 第十四條 印紙ヲ貼用シタル織物ノ表記價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定シ其ノ差額ニ對スル消費税ヲ追徵ス此ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用ス
  - 第十五條 第十條 第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費税納付前ニ於テ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトコトヲ得ス
  - 第十六條 第十一條 織物製造者ハ第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費税納付前ニ於テ織物ヲ他ニ引渡スコトヲ得ス
  - 第十七條 第十二條 織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ第三條第一項第二號ニ該當ス



スル織物ノミヲ製造セムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 織物製造者ハ同一ノ場所ニ於テ織物ノ販賣業又ハ織物ヲ原料トスル製品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得織物ノ製造場ト販賣場又ハ織物ヲ原料トスル製品ノ製造場トヲ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 織物ノ製造者、販賣者及前條但書ニ該當スル製品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ織物又ハ製品ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十五條 收税官吏ハ織物ノ製造場、販賣場又ハ第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造場ニ立入り織物、原料、織物ヲ原料トシテ製造シタル物品、器具、機械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條 收税官吏ハ運搬中ニ在ル織物ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收税官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費税ヲ徴收ス但シ消費税四圓未満ナルトキハ罰金額ハ二十圓トス

- 一 第十二條但書ニ該當スル場合ヲ除クノ外政府ニ申告セズシテ織物ヲ製造シタルトキ
- 二 外國ニ輸出スル爲若ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出スル爲消費税ヲ免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三 消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テ織物ヲ消費シタルトキ

四 第七條ニ依リ引取りタル織物ヲ其ノ定メラレタル場所ニ移入セサルトキ

五 第十條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第一號ノ場合ニ於テ織物ヲ原料トスル製品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

一 第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者織物又ハ製品ノ製造出入ニ關スル帳簿ヲ調製セズ又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

三 命令ノ定ムル方法ニ依リ織物ニ價格ヲ表記セズ又ハ印紙ヲ貼用セサルトキ

四 收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミタルトキ

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ刑ノ減免及刑法第四十八條第二項ノ例ヲ用井ス

第二十條 織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ本人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ヲ處罰ス

附 則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス但シ同規定ニ依リ爲シタル處分又ハ行爲ハ  
本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル賣藥稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

法律第八號(官報 三月二十五日)

賣藥稅法中左ノ通改正ス

第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥規則ニ依ル賣藥營業者ヲ謂フ

第二條ノ二 賣藥營業者ニハ藥劑一方毎ニ一年間製造高ノ定價總額ニ應シ毎年左ノ賣藥營業稅ヲ  
課ス

- 定價總額三百圓未満ノモノ 金三圓
- 定價總額五百圓未満ノモノ 金五圓
- 定價總額千圓未満ノモノ 金七圓
- 定價總額二千圓未満ノモノ 金九圓
- 定價總額三千圓未満ノモノ 金十二圓

- 定價總額五千圓未満ノモノ 金十七圓
  - 定價總額一萬圓未満ノモノ 金二十二圓
  - 定價總額二萬圓未満ノモノ 金三十二圓
  - 定價總額三萬圓未満ノモノ 金四十二圓
  - 定價總額五萬圓未満ノモノ 金五十七圓
  - 定價總額七萬圓未満ノモノ 金七十二圓
  - 定價總額十萬圓未満ノモノ 金八十七圓
  - 定價總額十萬圓以上ノモノ 金百二圓
- 前項ノ定價總額ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年又ハ其ノ年免許ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ年製  
造高ノ豫算定價額ニ依ル
- 外國ニ輸出スル賣藥ニ付テハ外國ニ輸出セサル賣藥ニ準シ定メタル價格ヲ以テ定價ト看做ス
- 第一條ノ三 賣藥營業者二箇所以上ニ於テ營業スルトキハ營業場毎ニ前條ノ賣藥營業稅ヲ納ムハ  
シ
- 第一條ノ四 賣藥營業者ハ毎年一月十五日迄ニ課稅標準額ヲ所轄收稅官廳ニ申告スヘシ但シ其ノ  
年免許ヲ受ケタル者ハ免許ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申告スヘシ
- 第一條ノ五 賣藥營業稅ハ年額ヲ二分シ一月及七月之ヲ徵收ス但シ納期限ヲ經過シテ免許ヲ受ケ  
タル場合ニ於テハ當該納期ニ納ムヘキ稅金ハ即納トス
- 賣藥營業者六月以前ニ廢業シ又ハ賣藥ノ發賣ヲ禁止セラレタルトキハ七月ニ納ムヘキ稅金ハ之  
ヲ免除ス

第二條 賣藥ニハ定價一割ノ賣藥印紙稅ヲ課ス  
定價一錢未滿ナルトキ又ハ一錢未滿ノ端數アルトキハ一錢未滿ノ金額ハ總テ之ヲ一錢トシテ賣藥印紙稅ヲ計算ス

賣藥印紙稅ハ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス

第三條 第五條及第十條中「賣藥稅」ヲ「賣藥印紙稅」ニ改ム

第十二條第一項中「脫稅高二十倍ノ罰金」ヲ「脫稅高二十倍ノ罰金又ハ科料」ニ「五圓ノ罰金」ヲ「五圓ノ科料」ニ第二項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第十三條乃至第十五條中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第十三條ノ二 第一條ノ四ノ申告ヲ爲サス又ハ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ一圓以上ノ科料ニ處ス

因リテ賣藥營業稅ヲ連脱シタル者ハ脫稅金額三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 本法ニ依リ賣藥營業稅ヲ課セラレタル者ニハ營業稅ヲ課セス

附則

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

賣藥規則中及非常特別稅法中賣藥營業稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

法律第七十一號賣藥稅法(明治三十八年五月六日官報)抄錄

第一條 賣藥ニハ定價一割ノ賣藥稅ヲ課ス

定價一錢未滿ナルトキ又ハ一錢未滿ノ端數アルトキハ一錢未滿ノ金額ハ總テ之ヲ一錢トシテ賣藥稅ヲ計算ス

第二條 賣藥稅ハ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂鑛區稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

內閣總理大臣兼  
大藏大臣 侯爵桂 太郎  
農商務大臣 男爵大浦兼武

法律第九號(官報三月二十五日)

砂鑛區稅法

第一條 砂金採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ割合ニ依リ毎年砂鑛區稅ヲ課ス

河床 砂鑛區域一町毎ニ 金二十錢

河床ニ非サルモノ 砂鑛區域一千坪毎ニ 金三十錢

前項ノ場合ニ於テ一町未滿又ハ一千坪未滿ノ端數ハ一町又ハ一千坪トシテ計算ス

第二條 砂鑛區稅ノ賦課徵收ニ關シテハ鑛區稅ノ賦課徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條 北海道、府縣及市町村ハ砂鑛區稅ニ對シ百分ノ十以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

附則

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中砂金採取地稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鑛業法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣兼  
大藏大臣 侯爵桂 太郎  
農商務大臣 男爵大浦兼武

法律第十號(官報三月二十五日)

鑛業法中左ノ通改正ス

第八十三條中「十錢」ヲ「三十錢」ニ、「四十錢」ヲ「六十錢」ニ改ム

第八十八條中「本稅百分ノ十」ヲ「鑛產稅百分ノ十、試掘鑛區稅百分ノ三、探掘鑛區稅百分ノ七」ニ改ム

附則

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中鑛區稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

法律第四十五號鑛業稅(明治三十八年三月八日官報抄錄)

第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年賦課ニ付テハ十錢採掘ニ付テハ四十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

第八十八條第一項

北海道府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各本稅百分ノ十以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登錄稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣  
兼大藏大臣 侯爵桂 太郎

法律第十一號(官報三月二十五日)

登錄稅法中左ノ通改正ス

第二條第一項第三號中「千分ノ四十」ヲ「千分ノ六十」ニ、「千分ノ十」ヲ「千分ノ三十二」ニ、第四號中「千分ノ二十五」ヲ「千分ノ三十五」ニ、第五號中「千分ノ二」ヲ「千分ノ五」ニ、第十一號中「千分ノ二十」ヲ「千分ノ二十五」ニ改ム

第三條第一項第三號中「千分ノ二十」ヲ「千分ノ五十」ニ、第四號中「千分ノ十五」ヲ「千分ノ二十五」ニ、第五號中「千分ノ一」ヲ「千分ノ三」ニ改ム

第六條及第六條ノ二中「千分ノ三」ヲ「千分ノ四」ニ、「千分ノ四」ヲ「千分ノ五」ニ、「千分ノ一」ヲ「千分ノ二」ニ、「十圓」ヲ「十五圓」ニ、「五圓」ヲ「七圓」ニ、「三圓」ヲ「五圓」ニ、「二圓」ヲ「三圓」ニ、「一圓」ヲ「一圓五十錢」ニ、「五十錢」ヲ「七十錢」ニ改ム

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中登錄稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

法律第二十七號登録稅法(明治二十九年三月二十八日官報)抄録

第二條第一項

- 一 不動產ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
  - 三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得  
千分ノ四十
  - 但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ不動産價格ノ千分ノ十
  - 四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得  
千分ノ二十五
  - 五 從來保有セル所有權ノ保存  
千分ノ二
  - 六 華族世襲財產ノ創設  
千分ノ二十

第三條第一項

- 一 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
  - 三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得  
千分ノ二十
  - 四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得  
千分ノ十五
  - 五 從來保有セル所有權ノ保存  
千分ノ一

第六條第一項及第三項

- 一 合名會社、合資會社設立  
財産ヲ目的トスル出資ノ價格  
千分ノ三
- 二 合名會社、合資會社出資增加  
財産ヲ目的トスル増出資ノ價格  
千分ノ三
- 三 株式會社設立  
拂込株金額  
千分ノ四
- 四 株式會社資本増加  
増資拂込株金額  
千分ノ四
- 五 株式會社第二回以後ノ株金拂込  
毎回拂込株金額  
千分ノ四
- 六 株式會社設立  
拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格  
千分ノ四
- 七 株式會社資本増加  
増資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格  
千分ノ四
- 八 株式會社第二回以後ノ株金拂込  
毎回拂込株金額  
千分ノ四

九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立

- 十 合併ニ因ル會社資本ノ増加  
拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格  
千分ノ一
  - 十一 債券發行  
増資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格  
千分ノ一
  - 十二 支店設置  
價額總金額  
每一箇所  
金十圓
  - 十三 本店又ハ支店ノ移轉  
每一件  
金五圓
  - 十四 支店ノ選任又ハ代理權ノ消滅  
每一件  
金五圓
  - 十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止  
但シ商法施行法ニ依リ斷ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス  
每一件  
金五圓
  - 十六 登記ノ更正又ハ抹消  
每一件  
金三圓
  - 十七 解散  
每一件  
金一圓
  - 十八 清算人ノ選任、解任又ハ變更  
每一件  
金一圓
  - 十九 清算ノ終了  
每一件  
金一圓
- 財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 法人ノ設立、法人設立後ノ事務所設置、事務所ノ移轉  
每一件  
金二圓
  - 二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止、登記ノ更正又ハ抹消、解散、清算人ノ選任、解任又ハ變更、清算ノ終了  
每一件  
金五十圓
- 第六條ノ二 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 商號ノ新設又ハ取得  
每一件  
金五圓
  - 二 支店ノ選任又ハ代理權ノ消滅  
每一件  
金五圓
  - 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅  
每一件  
金五圓
  - 四 商法第五條第七條ニ依ル登記  
每一件  
金二圓
  - 五 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記  
每一件  
金二圓
  - 六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止  
每一件  
金一圓
  - 七 登記ノ更正又ハ抹消  
每一件  
金一圓
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ
- 第十四條第一項

一	試掘權ノ設定	每一件	金七十五圓
二	試掘權ノ變更 増區又ハ増減區	每一件	金三十五圓
三	試掘權ノ移轉	每一件	金十圓
四	相續以外ノ原因ニ因ル移轉 新規登錄 鐵區合併	每一件	金百五十圓
五	鐵區分劃 探掘權ノ變更 鐵區訂正 増區又ハ増減區	每一件	金五十圓
六	探掘權ノ移轉	每一件	金七十五圓
七	相續以外ノ原因ニ因ル移轉 相續ノ設定 新規登錄	每一件	金二十圓
八	鐵區分劃 探掘權ノ變更 鐵區訂正 増區又ハ増減區	每一件	金七十五圓
九	探掘權ノ移轉	每一件	金二十圓
十	相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金十圓
十一	共同鐵業權者ノ脱退 消納處分以外ノ原因ニ因ル鐵業權又ハ探掘權ノ處分ノ制限	每一件	金五圓
十二	廢業ニ因ル鐵業權ノ消滅	每一件	千分ノ四
十三	登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金十圓

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル取引所稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣兼  
大藏大臣 侯爵桂太郎

法律第十二號(官報三月二十五日)

取引所稅法中左ノ通改正ス

第一條中「國債及」ヲ削リ「萬分ノ六箇」ヲ「萬分ノ十二」ニ、「萬分ノ三箇」ヲ「萬分ノ五」ニ改ム

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中取引所稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

法律第六號取引所稅法(明治二十六年三月四日官報)抄錄

第一條 取引所ハ定期賣買ニ付左ノ割合ニ從ヒ税金ヲ納ムヘシ

- 一 商品、有價證券
- 一 國債及地方債證券

賣買各約定代金面萬分ノ六箇  
萬分ノ三箇

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル狩獵法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣兼  
大藏大臣 侯爵桂 太郎  
農商務大臣 男爵大浦兼武

法律第十三號(官報 三月二十五日)

狩獵法中左ノ通改正ス

第十一條中「金二十圓」ヲ「金三十圓」ニ、「金十圓」ヲ「金十五圓」ニ、「金二圓」ヲ「金四圓」ニ改ム

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中狩獵免許稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

法律第三十三號狩獵法(明治三十四年四月十三日官報)抄錄

- 第十一條 免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ム(シ)
  - 一 等 (現年五十五歳以上七十歳以下者又ハ其ノ家族)
  - 二 等 (現年三十歳以上五十五歳以下者又ハ其ノ家族)
  - 三 等 (一等、二等以外ノ者)
- 金二十圓  
金十圓  
金二圓

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣兼  
大藏大臣 侯爵桂 太郎

法律第十四號(官報 三月二十五日)

印紙稅法中左ノ通改正ス

第四條中「二錢」ヲ「三錢」ニ、「三錢」ヲ「五錢」ニ、「二十錢」ヲ「二十五錢」ニ改ム

第五條中「一金高五圓未満ノ爲替手形、約束手形」ノ次ニ「一金高一圓未満ノ物品切手」ヲ加フ

第十二條中「二十圓以下ノ罰金」ヲ「二十圓以上ノ科料」ニ改ム

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中印紙稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

法律第五十四號印紙稅法(明治三十二年三月十日官報)抄錄

- 第四條 左ニ掲グル印紙稅額ニ關シテハ印紙稅ハ一通毎ニ額額ノ二分ニ以テシテ之ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ム(シ)
  - 一 爲替手形
  - 一 銀行預金證書
  - 一 船荷證券
  - 一 爲替手形
  - 一 銀行預金證書
  - 一 船荷證券
- 印紙稅一錢  
印紙稅二錢  
印紙稅三錢  
印紙稅二錢

- 一 運送貨物引換証 印紙稅二錢
- 一 倉荷附証券 印紙稅二錢
- 一 倉荷買入証券 印紙稅二錢
- 一 保險証券 印紙稅二錢
- 一 株券 印紙稅二錢
- 一 債券 印紙稅二錢
- 一 株式申込証 印紙稅二錢
- 一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル証書 印紙稅二錢
- 一 使用貸借、貸貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約証書 印紙稅二錢
- 一 定款及組合契約書 印紙稅二錢
- 一 權利ノ變更ニ關スル証書 印紙稅二錢
- 一 追認承認ニ關スル証書 印紙稅二錢
- 一 物品切手 印紙稅二錢
- 一 賣買仕切書 印紙稅二錢
- 一 送狀 印紙稅二錢
- 一 受取書 印紙稅二錢
- 一 金高配帳ナキ証書 印紙稅二錢
- 一 擔保品差入証書、擔保品預貯書 印紙稅二錢
- 一 通帳 印紙稅二錢
- 一 判取帳 印紙稅二錢

第五條 左ニ掲グル証書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス  
第十二條 第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

### 御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民事訴訟用印紙法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
大藏大臣 子爵岡部長職  
司法大臣

法律第十五號(官報 三月二十五日)

民事訴訟用印紙法中左ノ通改正ス

第二條 中印紙金額ニ二十錢ヲ「二十五錢」ニ、三十錢ヲ「四十錢」ニ、六十錢ヲ「八十錢」ニ、一圓五十錢ヲ「一圓八十錢」ニ、二圓二十錢ヲ「二圓五十錢」ニ、三圓ヲ「三圓五十錢」ニ、六圓五十錢ヲ「七圓」ニ、十圓ヲ「十二圓」ニ、十三圓ヲ「十五圓」ニ、十五圓ヲ「十八圓」ニ、二十圓ヲ「二十五圓」ニ、三十五圓ヲ「三十圓」ニ、二圓ヲ「三圓」ニ改ム

第六條 支拂命令ノ申請ニシテ訴訟物ノ價額十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ第二條ニ依リ第一審ノ訴狀ニ貼用ス可キ印紙金額ノ半額ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 第六條ノ二 左ニ掲グル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ四十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ
- 一 期日ノ變更、辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立
  - 二 中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申立
  - 三 從參加ノ申請
  - 四 忌避ノ申請
  - 五 和解ノ申立
  - 六 費用額確定ノ申請



七 假執行宣言ノ申立  
 八 強制執行ノ停止若クハ續行又ハ執行處分ノ取消ノ申立  
 九 配當要求  
 十 家資分散ノ申立又ハ家資分散者ノ復權ノ申立  
 十一 強制競賣又ハ強制管理ノ申立  
 十二 債權又ハ他ノ財產權差押ノ申請  
 十三 民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立  
 第六條ノ三 左ニ掲グル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ五十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告  
 二 故障  
 三 證據調ノ申立  
 四 假差押又ハ假處分ノ申請  
 五 判決送達ノ申立  
 六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但ニ通以上ヲ求ムルトキハ一通毎ニ印紙ヲ貼用ス可シ  
 第七條ニ左ノ一項ヲ加フ

民事訴訟法第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スル場合又ハ第三百九十一條第二項ノ規定ニ依リ地方裁判所ニ訴ヲ起ス場合ニ於テハ第六條ニ依リ貼用シタル印紙ノ額ハ訴訟ニ付

キ貼用ス可キ印紙ノ額ニ之ヲ通算ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ但第六條ノ三ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第十六條 非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

左ニ掲グル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ五十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 裁判上代位ノ申請  
 二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立  
 三 競賣法ニ依ル競賣又ハ不動産登記ニ關スル抗告  
 非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額ナキモノハ其請求ノ價額二十圓以下ノモノト看做ス

第十一條及第十二條ノ規定ハ之ヲ非訟事件ニ準用ス

附 則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 非常特別税法中民事訴訟用印紙ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

法律第六十五號民事訴訟用印紙法(明治二十三年八月十六日官報)抄録

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴訟ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價額金五圓マテ

二十錢

同 十圓マテ

三十錢

同 二十圓マテ

六十錢

同 五十圓マテ

一圓五十錢

同 七十五圓マテ

二圓二十錢

同 百圓マテ

三圓

同 二百五十圓マテ

六圓五十錢

同 五百圓マテ

十圓

同 七百五十圓マテ

十三圓

同 千圓マテ

十五圓

同 二千五百圓マテ

二十圓

同 五千圓マテ

二十五圓

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

第六條 左ニ掲クル種類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第一 抗告

第二 故障

第三 證據調ノ申立

第四 假差押及口假處分ノ申請

第五 判決ノ送達アラシコトヲ求ムル申立

第六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十六條 第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テル商事非訟事件印紙法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
大藏大臣 子爵岡部長職  
司法大臣

法律第十六號(官報三月二十五日)

商事非訟事件印紙法中左ノ通改正ス

第二條中「五十錢」ヲ「一圓」ニ改ム

第三條中「二十錢」ヲ「二十五錢」ニ改ム

第四條中印紙金額「四十錢」ヲ「五十錢」ニ、「六十錢」ヲ「八十錢」ニ、「一圓二十錢」ヲ「一圓六十錢」ニ、「二圓」ヲ「三圓六十錢」ニ、「四圓四十錢」ヲ「五圓」ニ、「六圓」ヲ「七圓」ニ、「十二圓」ヲ「十四圓」ニ、「二十圓」ヲ「二十四圓」ニ、「二十六圓」ヲ「三十圓」ニ、「三十圓」ヲ「三十六圓」ニ、「四十圓」ヲ「五十圓」ニ、「五十圓」ヲ「六十圓」ニ、「四圓」ヲ「六圓」ニ改ム

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中商事非訟事件印紙ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

法律第六十六號商事非訟事件用印紙法(明治二十三年八月十六日官報)抄録

第二條 左ニ掲クルモノニ付テハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 一 抗告又ハ假差押ノ申立
- 二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立
- 三 支拂猶豫ノ申立
- 第三條 左ニ掲クルモノニ付テハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ
  - 一 抗告ニ對スル答辯
  - 二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ
- 第四條 破産手續ニ付テハ破産財團中ノ貸方金額ニ應ジ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但財團管理費用其他破産手續上ノ費用及ヒ財團ノ爲メニ負擔シタル債務並ニ別除ノ辨濟ニ供スル金額ハ貸方金額ヨリ之ヲ扣除ス可キモノトス
  - 財團ノ價額五圓マテ 四十錢
  - 同 十圓マテ 六十錢
  - 同 二十圓マテ 一圓二十錢
  - 同 五十圓マテ 三圓
  - 同 七十五圓マテ 四圓四十錢
  - 同 百圓マテ 六圓
  - 同 二百五十圓マテ 十三圓
  - 同 五百圓マテ 二十圓
  - 同 七百五十圓マテ 二十六圓
  - 同 千圓マテ 三十圓
  - 同 二千五百圓マテ 四十圓
  - 同 五千圓マテ 五十圓
  - 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ四圓ヲ加フ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル行政訴訟書類印紙貼用廢止ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣兼 侯爵桂 太郎  
大藏大臣 侯爵桂 太郎

法律第十七號(官報 三月二十五日)  
非常特別稅法中行政訴訟ノ書類ニ印紙ヲ貼用スルコトニ關スル規定ハ明治四十三年三月三十一日  
限リ之ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル帝國大學特別會計法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣兼 侯爵桂 太郎  
大藏大臣 侯爵桂 太郎  
文部大臣 小松原英太郎

法律第十八號(官報 三月二十五日)  
帝國大學特別會計法中左ノ通改正ス  
第二條中「百三十萬圓」ヲ「百三十五萬八千八百三十八圓」、「百萬圓」ヲ「百四萬千四百圓」ニ改ム  
附則  
本法ハ明治四十三年度ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

法律第十九號帝國大學特別會計法(明治四十年三月二十五日官報)抄錄  
第二條 前條ノ政府支出金ハ東京帝國大學ニ在リテハ毎年度金百三十萬圓、京都帝國大學ニ在リテハ毎年度金百萬圓トシ一  
般會計ヨリ之ヲ繰入ルヘシ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農會法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
農商務大臣 男爵大浦兼武

法律第十九號(官報三月二十五日)

農會法中ノ通改正ス

第一條ノ二 農會ハ市町村農會郡農會道府縣農會及帝國農會トス

第四條 削除

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

法律第百三號農會法(明治三十二年六月九日官報)抄錄

第四條 農會ニ補助スル金額ハ北海道又ハ一府縣ヲ通シテ一箇年四千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル遠洋漁業獎勵法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
農商務大臣 男爵大浦兼武  
逓信大臣 男爵後藤新平

法律第二十號(官報三月二十五日)

遠洋漁業獎勵法中ノ通改正ス

第一條中十五萬圓ヲ二十萬圓ニ改ム

第五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

主務大臣ハ船舶ノ用途及設計ヲ參酌シ前項獎勵金ノ率ニ差等ヲ設クルコトヲ得

第十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

遠洋漁業ノ指導監督、遠洋漁業練習生ノ養成及漁港ノ調査若ハ設計ノ爲必要ナル費用ハ第一條

ノ金額中ヨリ之ヲ支出スルコトヲ得

第十四條中三年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ヲ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ改ム

第十六條 削除

第十九條中禁錮ヲ懲役禁錮ニ改ム

第二十一條中「八箇年」ヲ「十五箇年」ニ改ム

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

法律第四十號運洋漁業獎勵法(明治三十八年三月一日官報)抄録  
 第一條 運洋漁業ヲ獎勵スル爲國庫ハ豫算ノ定ムル所ニ依リ毎年度十五萬圓以內ヲ支出ス  
 第十一條 第二項  
 運洋漁業ノ指導監督及運洋漁業練習生養成ノ爲必要ナル費用ハ第一條ノ金額ヨリ支出シ之ニ充ツルコトヲ得  
 第十四條 第一項  
 設備ノ所爲ヲ以テ獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪併發ノ例ヲ用井ス  
 第十九條 前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス  
 第二十二條 本法ハ明治三十八年四月二日ヨリ八箇年間之ヲ施行ス但シ本法施行前ニ於テ獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者  
 ニ對シテハ其ノ許可期間内ハ仍從前ノ規程ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル那覇港修築工事ヲ沖繩縣ニ引繼ク事ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十四日

内閣總理大臣 侯爵 桂 太郎  
 大藏大臣 侯爵 平田東助  
 內務大臣 士男爵 平田東助

法律第二十一號(官報三月二十五日)

第一條 國庫ノ支辨ニ屬スル沖繩縣那覇港修築工事ニシテ明治四十二年度内ニ終了セサルモノハ沖繩縣ヲシテ之ヲ繼承執行セシム  
 第二條 前條ニ依リ執行スヘキ工事ノ費用ハ沖繩縣ノ負擔トス但シ政府ハ那覇港修築費豫算ノ定

額内ニ於テ其ノ工事費ニ充用スヘキ金額ヲ明治四十二年度末日ニ於テ沖繩縣ニ交付ス

第三條 那覇港ノ修築ニ關シ國ニ屬スル土地物件ハ修築工事ノ引繼ト同時ニ之ヲ沖繩縣ニ交付ス

第四條 修築工事ニ關シ國ニ屬スル契約上ノ權利義務ハ明治四十三年度ノ初ニ於テ沖繩縣之ヲ繼承ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鐵道敷設法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十五日

内閣總理大臣 侯爵 桂 太郎  
 大藏大臣 子爵 寺內正毅  
 陸軍大臣 子爵 寺內正毅

法律第二十二號(官報三月二十六日)

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第二條 第一項奥羽線ノ部第二號中「船形町」ヲ「新庄」ニ改ム

同項中總武線及常磐線ヲ「總武線、房總線及常磐線」ニ改ム

同線ノ部第一號中「及本線」ヨリ分岐シテ木更津ニ至ル鐵道ヲ削リ同號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

一 千葉縣下船橋ヨリ佐倉ニ至ル鐵道及成東ヨリ東金ニ至ル鐵道

一 千葉縣下蘇我ヨリ木更津、北條及勝浦ヲ經テ大原ニ至ル鐵道

同項中九州線ノ部第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一 熊本縣下八代ヨリ鹿兒島縣下米津ヲ經テ鹿兒島ニ至ル鐵道

第七條第一項第七號中「青森ニ至ル鐵道」ノ下ニ「及本線ヨリ分岐シテ山形縣下酒田ニ至ル鐵道」ヲ加

ヘ同號ノ次ニ左ノ三號ヲ加フ

一 奥羽豫定線ノ内宮城縣下石ノ巻ヨリ小牛田ヲ經テ山形縣下新庄ニ至ル鐵道中宮城縣下小牛

田ヨリ山形縣下新庄ニ至ル鐵道

一 總武豫定線ノ内千葉縣下船橋ヨリ佐倉ニ至ル鐵道及成東ヨリ東金ニ至ル鐵道

一 房總豫定線ノ内千葉縣下蘇我ヨリ木更津、北條及勝浦ヲ經テ大原ニ至ル鐵道中蘇我ヨリ木

更津ニ至ル鐵道及勝浦ヨリ大原ニ至ル鐵道

同項第十七號中「大分ニ至ル鐵道」ノ下ニ「及宮崎縣下宮崎ヨリ鹿兒島縣下吉松ニ至ル鐵道」ヲ加ヘ同

號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一 九州豫定線ノ内熊本縣下八代ヨリ鹿兒島縣下米津ヲ經テ鹿兒島ニ至ル鐵道中鹿兒島縣下川

内ヨリ鹿兒島ニ至ル鐵道

〔參照〕

法律第四號鐵道敷設法(明治二十五年六月二十一日官報)抄錄

第二條第一項

豫定鐵道線路ハ左ノ如シ

奥羽線

一 宮城縣下仙臺ヨリ山形縣下天童若ハ宮城縣下石ノ巻ヨリ小牛田ヲ經テ山形縣下船形町ニ至ル鐵道

總武線及常磐線

一 東京府下上野ヨリ千葉縣下千葉、佐倉ヲ經テ銚子ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ木更津ニ至ル鐵道

第七條第一項

豫定線路中左ノ線路ハ第一期間ニ於テ其ノ實測及敷設ニ著手ス

一 奥羽豫定線ノ内福島縣下福島近傍ヨリ山形縣下米澤及山形、秋田縣下秋田、青森縣下弘前ヲ經テ青森ニ至ル鐵道

一 九州豫定線ノ内福岡縣下小倉ヨリ大分縣下大分、宮崎縣下宮崎ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道中「大分縣下宇佐ヨリ

大分ニ至ル鐵道

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テル北海道鐵道敷設法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治四十三年三月二十五日

內閣總理大臣 侯爵 桂 太郎  
大藏大臣 陸軍大臣 子爵 寺內 正毅

法律第二十三號(官報 三月二十六日)

北海道鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第二條第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一 石狩國砂川近傍ヨリ下富良野ニ至ル鐵道

〔參照〕

法律第九十三號北海道鐵道敷設法(明治二十九年五月十四日官報)抄錄

第二條 北海道豫定鐵道線路ハ左ノ如シ

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル藥品營業或藥品取扱規則中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十五日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
内務大臣 法學博士 平田東助

法律第二十四號 (官報 三月二十六日)

藥品營業或藥品取扱規則第四十六條中「官立公立醫學專門學校藥學科ヲ」「官立公立藥學專門學校若ハ醫學專門學校藥學科」文部大臣ノ指定シタル私立藥學專門學校ニ改ム

〔参照〕

法律第十號藥品營業或藥品取扱規則(明治二十二年三月十六日官報抄録)

第四十六條第一項

醫科大學藥學科官立公立醫學專門學校藥學科及高等學校醫學部藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ内務大臣ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル沖繩縣ニ於ケル舊租免除ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十五日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
大藏大臣

法律第二十五號 (官報 三月二十六日)

沖繩縣ニ於ケル舊租ニ依ル地租ニシテ未タ徵收セサルモノハ之ヲ免除ス

明治三十七年法律第十三號ハ之ヲ廢止ス

〔参照〕

明治三十七年四月一日法律第十三號ハ沖繩縣舊租延納法ナリ

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル電氣測定法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十五日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
遞信大臣 男爵後藤新平

法律第二十六號 (官報 三月二十六日)

電氣測定法

第一條 電氣ノ測定ニ於テハ電氣抵抗ハ「オーム」、電流ハ「アムペア」、電壓ハ「ヴォルト」、電力ハ「ワット」ヲ以テ單位トス

第二條 「オーム」ハ氷ノ融解溫度ニ於テ質量一四、四五二「グラム」長サ一〇、六六三「センチメーター」ニシテ均一ナル切斷面積ヲ有スル水銀柱ノ不變電流ニ對スル電氣抵抗ヲ謂フ

第三條 「アムペア」ハ硝酸銀ノ水溶液ヲ通過シ毎秒〇、〇〇一一八〇〇「グラム」ノ銀ヲ分離スル不變電流ヲ謂フ

第四條 「ワット」ハ「ヴォルト」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ニ「アムペア」ノ不變電流ヲ發生セシムル  
 爲要スル不變電壓ヲ謂フ

第五條 「ワット」ハ「ヴォルト」ノ電壓ニ於テ「アムペア」ノ不變電流ニ依リ每秒費サルル電氣勢力  
 ヲ以テ表示スル電力ヲ謂フ

第六條 本法ニ依ル電氣單位ハ主務官廳ニ保管スル標準器ニ依リ之ヲ現示ス

第七條 電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ檢定ヲ受クヘシ

電氣計器ノ公差及檢定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル電氣計器ヲ電氣ノ取引ニ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五  
 百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 檢定ヲ受ケサルモノ
- 二 檢定ニ合格セサルモノ
- 三 檢定ノ效力ヲ失ヒタルモノ

第九條 電氣ノ取引ニ於テ其ノ計量ヲ詐ルノ目的ヲ以テ不正ニ電氣計器ヲ使用シタル者ハ罰前條  
 ニ同シ

第十條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用  
 ス

第十一條 電氣單位ノ倍数及分數ノ名稱 不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方  
 法並第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

附則

本法ハ第七條及第八條ヲ除クノ外明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條及第八條ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條及第八條施行前ヨリ引續キ電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ニ付テハ別ニ勅令ヲ以テ定ムル  
 期間第八條ノ規定ヲ適用セス

第七條及第八條施行前ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ試験ニ合格シタル電氣計器ハ本法  
 ノ檢定ニ合格シタルモノト看做ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治四十一年法律第三十七號中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治四十三年三月二十六日

内閣總理大臣兼  
 大藏大臣 侯爵桂 太郎  
 內務大臣 法學博士 平田東助

法律第二十七號(官報 三月二十八日)

明治四十一年法律第三十七號中左ノ通改正ス

第一條 北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ地租附加税又ハ段別割ヲ課スルノ外土  
 地ニ對シテ課税スルコトヲ得ス

一 北海道、府縣(沖繩縣ヲ除ク)、沖繩縣ノ區及町村

附加税ノミヲ課スルトキ

宅地地租百分ノ十三  
 田知地租百分ノ三十二  
 其ノ他ノ土地地租百分ノ二十七



段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付 毎地目平均金四十錢  
 附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額ノ宅地ニ在リテハ百分ノ十三、田畑地租ニ在リテハ百分ノ三十二、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ二十七ト  
 附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス  
 二 其ノ他ノ公共團體

附加税ノミヲ課スルトキ

宅地地租百分ノ九  
 田畑地租百分ノ二十一  
 其ノ他ノ土地地租百分ノ十八

段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付 毎地目平均金四十錢  
 附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額ノ宅地ニ在リテハ百分ノ九、田畑地租ニ在リテハ百分ノ二十一、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ十八ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條中「百分ノ二十五ヲ百分ノ十一ニ」、「百分ノ三十五ヲ百分ノ十五ニ」改ム

第三條中「百分ノ十」ヲ「百分ノ四」ニ、「百分ノ三十五」ヲ「百分ノ十五」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

第二種ノ所得ニ對シテハ附加税ヲ課スルコトヲ得ス  
 第五條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ地租附加税及段別割ヲ併課シタル場合ニ於テハ一地目ニ對スル賦課カ制限ニ違シタルトキハ附加税カ制限ニ違シタルモノト看做ス其ノ段別割ノミヲ賦課シタル場合ニ於テ一地目ニ對スル賦課カ制限ニ違シタルトキ亦同シ

第八條 削除

附則

本法ハ明治四十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

〔參照〕

法律第三十七號(明治四十三年三月三十一日官報)抄録

第一條 北海道府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ地租附加税又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課税スルコトヲ得ス  
 一 北海道府縣、北海道ノ區、一級町村及二級町村、沖繩縣ノ區及町村  
 附加税ノミヲ課スルトキ 地租百分ノ六十  
 段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付 毎地目平均金四十錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額百分ノ六十ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス  
 二 其ノ他ノ公共團體  
 附加税ノミヲ課スルトキ 地租百分ノ四十  
 段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付 毎地目平均金四十錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額百分ノ四十ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス  
 第二條 北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ營業税附加税ヲ課スルノ外營業税ヲ納ムル者ノ營業ニ對シ課税スルコトヲ得ス  
 一 北海道府縣 營業税百分ノ二十五  
 二 其ノ他ノ公共團體 營業税百分ノ三十五

第三條 北海道府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ所得税附加税ヲ課スルノ外所得税ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課税スルコトヲ得ス  
 一 北海道府縣 所得税百分ノ十  
 二 其ノ他ノ公共團體 所得税百分ノ三十五

第五條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ内務大臣ノ許可ヲ受ケ第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以内ニ於テ課税スルコトヲ得

左ニ掲クル場合ニ於テハ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケ前項ノ制限ヲ超過シテ課税スルコトヲ得

- 一 内務大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル賃價ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ
- 二 非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ
- 三 水利ノ爲費用ヲ要スルトキ
- 四 傳染病預防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ニ依リ制限ヲ超過シテ課税スルハ第一條乃至第三條ニ定メタル各税目ニ對スル賦課カ各其ノ制限ニ違ハルトキニ限ル

前三項ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第六條 本法ノ附加税ハ非常特別税法ニ依ル増徴額ニ對シテハ之ヲ課スルコトヲ得ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル東京市區改正條例中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十六日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
 大藏大臣 法學博士 平田東助  
 内務大臣 法學博士 平田東助

法律第二十八號 (官報 三月二十八日)

東京市區改正條例中左ノ通改正ス

第三條中「地租同額」ヲ「地租百分ノ十二半」ニ改ム

附則

本法ハ明治四十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

〔参照〕

勅令第六十二號東京市區改正條例(明治二十一年八月十七日官報)抄録

第三條 市區改正ノ費用ニ充ツル爲メ東京府區部内ニ於テ左ノ特別税ヲ賦課ス

- 一 地租附加税 地租同額以内但耕地ヲ除ク
- 一 營業稅附加税 地方税十分ノ四以内
- 一 家屋稅 同上
- 一 其他勅令ヲ以テ指定シタルモノ

府費ヲ市ニ分賦シタル場合ニ於テ營業稅附加税又ハ家屋稅ヲ賦課セムトスルコトハ内務大臣大藏大臣ノ許可ヲ得テ其稅率ヲ定ムヘシ

市ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ他ノ市費ノ中ヨリ市區改正ノ費用ヲ補充スルコトヲ得

一 清酒 區内ニ輸入又ハ區内ニ於テ釀造販賣スルモノ一石ニ付金五拾錢以内

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル罹災救助基金法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十六日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
 大藏大臣 法學博士 平田東助  
 内務大臣 法學博士 平田東助

法律第二十九號 (官報 三月二十八日)

罹災救助基金法中左ノ通改正ス

第四條 府縣ハ罹災救助基金貯蓄ノ爲地租、所得稅(第二種ノ所得ニ對シテ)及營業稅ノ附加稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ明治四十一年法律第三十七號ノ制限ノ外千分ノ十二以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

附則

本法ハ明治四十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

〔参照〕

法律第七十七號福災救助基金法(明治三十二年三月二十二日官報)抄録  
第四條 府縣ハ福災救助基金貯蓄ノ爲直接間接ノ附加税ヲ徵收スル場合ニ於テハ他ノ法律ニ依ル制限ノ外百分ノ三以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ  
ル

御名 御璽

明治四十三年三月二十六日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
内務大臣 法學博士 平田東助

法律第三十號(官報 三月二十八日)

巡查看守退隱料及遺族扶助料法ハ警部補及其ノ遺族ニ之ヲ準用ス

退隱料一時金及遺族扶助料ノ關係ニ於テハ警部補又ハ巡查ノ勤続年數ハ交互ニ之ヲ通算シ巡查  
警部補ニ任シ又ハ警部補巡查ニ就職スルトキハ之ヲ勤続ト看做ス

判任以上ノ他ノ文官警部補ニ轉任スルトキハ官廳事務ノ伸縮ニ依リ退官シタルモノト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル會計検査院法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十六日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

法律第三十一號(官報 三月二十八日)

會計検査院法中ノ通改正ス

第二條中書記官二員検査官補二十員及廳差干員ヲ書記官專任一員副検査官專任十四員及書記技  
手ニ改ム

第三條 院長及部長ハ勅任、検査官ハ勅任又ハ奏任、書記官及副検査官ハ奏任、書記及技手ハ判任  
トス

勅任検査官書記及技手ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條中非職ヲ休職ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ會計検査院ノ職員タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ検査官補ハ副検査  
官ニ屬ハ書記ニ速記技手ハ技手ニ任セラレタルモノトス

〔参照〕

法律第十五號會計検査法(明治二十二年五月十日官報)抄録  
第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ委任トシ検査官及検査官補ハ委任トシ副ハ勅任トス  
第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス  
會計検査官ハ刑事裁判又ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命ゼラルトコトナシ

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル補助航海ニ従事スル商事會社ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月二十八日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
遞信大臣 男爵後藤新平

法律第三十二號(官報三月二十九日)  
遠洋航路補助法ニ依リ補助航海ニ従事スル商事會社ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキ及業務ヲ執行スル社員 取締役又ハ監査役ヲ選定セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
主務大臣ハ前項ニ掲ケタル會社ノ役員カ補助航海ニ關スル義務ヲ履行セス又ハ其ノ義務ヲ履行スルニ不適當ナル行爲アリト認ムルトキハ其ノ解任ヲ命スルコトヲ得

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル砂糖消費稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月三十一日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
大藏大臣

法律第三十三號(官報四月一日)  
砂糖消費稅法中左ノ通改正ス  
第三條 消費稅ノ割合左ノ如シ

一 砂糖

第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲 樽入黑糖

乙 其ノ他ノモノ

第二種 砂糖色相和蘭標本第十五號未滿ノ砂糖

第三種 砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖

第四種 砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖

第五種 砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖

二 糖蜜

第一種 氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜

百斤ニ付 金二圓

百斤ニ付 金三圓

百斤ニ付 金五圓

百斤ニ付 金七圓

百斤ニ付 金八圓

百斤ニ付 金九圓

百斤ニ付 金十圓